

# DAILY<sup>®</sup> PROGRAM

## 高校1年——国語 (見本)

# 1

### 4月号の内容

今月は基礎を中心に学習します。現代文では、論理的文章の読み方、古典では、文章そのものに慣れることがポイントになります。特に漢文では、読解の基本である訓読の方法について学習します。

#### 現代文

第1日	詩／詩を理解し、味わう……………	4
第2日	論理的文章／語句の意味をつかむ……………	10
第3日	論理的文章／指示する語句の内容をつかむ……………	18
第4日	論理的文章／文や語句の接続関係をつかむ……………	25
第5日	論理的文章／〈総合〉読解の過程をふんで……………	32
第6日	確認テスト……………	40

#### 古典

第7日	宇治拾遺物語／児のかいもちひするに空寝したること……………	46
第8日	宇治拾遺物語／絵仏師良秀家の焼くるを見てよろこぶこと……………	54
第9日	竹取物語／かぐや姫の生ひ立ち……………	62
第10日	文法／文語と口語……………	70
第11日	漢文／送りがな・返り点……………	79
第12日	漢文／書き下し文……………	87
第13日	確認テスト……………	95

# TRAINING PAPER®

高1国語  
効果的な使い方

## 〈1号の構成〉

第1日	第2日	第3日	第4日	第5日	第6日	第7日	第8日	第9日	第10日	第11日	第12日	第13日
現代文学習日						古文学習日			漢文学習日		テスト	

現代文の学習

古典の学習

- 1号は13日で構成され、前半の6日分が現代文、後半の7日分が古典の学習になっています。それぞれの最終日（第6日・第13日）は確認テストです。

## 〈1日の構成〉

現代文

例題	・その日の学習項目を、例題を解きながら、具体的に考えていきます。
説明	・例題を踏まえた、解き方や考え方の易しい解説です。
トレーニング	・入試問題を効果的に利用して、ステップを踏みながら十分な読解練習をします。
漢字・語句のトレーニング	・最後の1ページでは、入試によく出る漢字の読み書きや語句の練習を行います。

古典

古語の意味を覚えよう トレーニング	・その日のテキストに現れる基本古語を、例文を口語訳しながら覚えていきます。
作品や作者などの解説	・文学史的内容やテキストの背景などを押さえます。
きょうのテキスト 語釈	・テキストのすぐあとには、きわめてくわしい語句の解釈がついています。
トレーニング 通釈	・語釈を参考にしながら、ステップを踏んで読解練習をしていきます。

解答（現代文・古典とも巻末にあります。ていねいな〈解説〉がついています。）

## 〈効果的な使い方〉

### ❖ 現代文、古典のバランスを考えながら学習していこう

学習日は、現代文、古典の順になっていますが、必ずしも現代文、古典の順に進める必要はありません。現代文と古典を交互に学習するなど、バランスよく進めましょう。

### ❖ 2日にトレーニングペーパー1日分の割合で、計画的に学習していこう

この割合で学習していけば1か月で1号分を終えられます。万が一消化しきれないようでしたら、何日かに絞って学習し、次号から新たな気持ちで取り組んでください。

### ❖ 1日分の学習は、順を追って、指示に従いながら進めよう

順を追って、指示どおりにトレーニングしていくのが基本です。ただし、慣れてきたら、自分なりに使い方をくふうしてかまいません。自分の力に応じて有効に利用していきましょう。

### ❖ 忘れずに、1問1問しっかりと答え合わせをしよう

まちがえていたら、考えながら実際に書き込んで直しておくことが大切です。なお、よく考えても問いが解けないときは、こたわりなく解答を見て確かめ、次に進みましょう。

# 「竹取物語」の作者は？

「竹取物語」は、かぐや姫の童話として、だれもが一度は読み聞かされた話だろう。この「竹取物語」は、話の素材を、当時の民間に伝えられていたさまざまな説話から取っている。たとえば、天人女房の話（羽衣伝説）、求婚難題の話（ある男が、美しい娘に恋をして娘に求婚するが、女性の親から難題をつきつけられる。男は娘の助けによつて難題を解決し、結婚をとげるといふ話）、など

である。これらの説話の作者は、名もない民衆である。だれともなく話し出され、語りつがれてきたのが説話なのである。しかし、「竹取物語」は、その全体の構造、描写のしかた、文学的な洗練度からいって、ある特定の作者を想定しないことには無理がある。はたして、「源氏物語」で、「物語の出で来はじめの祖」とされた、わが国古典文学史上の記念碑的存在である「竹取物語」の作者は、いったい、いかなる人物であつたのであろうか。

「竹取物語」の成立年代には、諸説あつて定かではない。平安時代の、上は弘仁年間（八一〇～八二三）という説から下は天曆（九四七～九五六）前後とする説まである。仮に、これらの説の上限下限をとつてみると、「竹取物語」の作者は、九世紀の初めから十世紀中ごろの間に生きた人物と考えてもよいことになる。しかし、この間一世紀以上、歴史上名を連ねる人物は数多い。それに、歴史に名を連ねているという確証もな



い。全く、気の遠くなるような話なのだ。

ただ、「竹取物語」の中に登場する人物の名前のつけ方や描写のしかた、文体などから、固有名詞として人物を特定できないまでも、その作者像ともいふべきものは考えられる。以下、列挙してみるとこうなる。

(一) 藤原氏の権勢に対して不満をもつ人物か。（このころは、藤原氏が摂関政治の基盤を整え、絶対的な権力を確立し始めるころである。物語には、いずれも、藤原氏の人物が暗示される名前をもつ五人の貴公子が登場する。彼らは、かぐや姫に求婚しながら、難題を解けずに失敗してもの笑いの種にされるこつけない人物として描かれている。）

(二) すぐれた和歌の素養をもつた人物か。（物語中には、全部で十五の和歌が現れる。いずれも、当時としては秀歌の部類にはいる歌といつてよい。）

(三) 漢籍・仏典への造詣が深い人物か。（文体や内容から、漢籍・仏教の教典に通じている人物であることがうかがわれる。）

(四) 祭祀を司る齋部氏と関係のあつた人物か。（かぐや姫の名づけ親は「齋部のあきた」である。あえて「齋部」としたのは、齋部氏と何らかの関係があつたからと考えられる。）

藤原氏の権勢に不満をもつ、反骨精神を内に秘めた一流の知識人「竹取物語」の作者のイメージである。さて、最後に、擬せられている人物を、数人あえてあげておこう。「後撰集」の撰者源順（九一二～九三八）、六歌仙の一人遍昭（八一六～八九〇）漢学者紀長谷雄（八四五～九一二）らである。だが、いずれも、帯に短したすきに長し、といったところが現況である。

★「竹取物語」は、今月から来月にかけて学習します。

# 現代文

---

# 詩を理解し、味わう

いよいよ、高校生活のスタートですね。

第1日のきょうは、詩の学習をします。詩のことは、小説や論理的文章のことに比べて、より凝縮されたものですから、一語一語が作者の心の表現といつてよいでしょう。作者の純粋な感動をことばで表現したのが詩であると言えますから、その表現が象徴的で理解するのが難しい場合もありますが、一語一語をていねいに読解することによって、豊かな鑑賞が可能になります。きょうのテキストは、高村光太郎の「ぼろぼろな駝鳥」という詩で、札幌商科大で出題されました。むだのない詩の表現を理解し、味わうことは今後の学習にも役だつものです。



●●きょうのテキスト●●  
ぼろぼろな駝鳥

高村 光太郎

なにがおもしろくて駝鳥を飼うのだ。  
動物園の四坪半のぬかるみの中では、  
足が大股すぎるじゃないか。

首があんまり長すぎるじゃないか。

雪の降る国にこれでは羽がぼろぼろすぎるじゃないか。

腹がへるから堅パンも食うだろうが、

駝鳥の眼は遠くばかり見ているじゃないか。

身も世もないように燃えているじゃないか。

瑠璃色の風がいまにも吹いてくるのを待ちかまえているじゃないか。

あの小さな素朴な頭が無辺大の夢でさかまいているじゃないか。

これはもう駝鳥じゃないじゃないか。

人間よ、

もうよせ、こんなことは。

(札幌商科大)

### 語句注

上の数字は行数を示す

1 駝鳥—熱帯のさばくや草原に住む鳥。現存する鳥の中では最も大きく、背の高さは二・五メートルぐらいになる。頭が小さく、首が長い。飛ぶことはできないが、足が強く、一步で七メートル近くも跳び、時速六〇キロ以上のスピードで走ることができる。こん虫や木の実を食べる。

2 四坪半—一坪は約三・三平方メートル。四坪半はだいたい畳十枚ぐらいの広さ。

6 堅パン—小さく薄く切って固く焼いたビスケットのようなパン。水分が少なく、保存・携帯用のもの。

8 身も世もない―自分の身のことも世間の手前も考えていられない。身も世もあらず、の意。

9 瑠璃色―瑠璃はつやのある美しい青色の鉱物。その鉱物の青色を瑠璃色という。「瑠璃色の風」はここでは、すばらしい風という意味になる。

10 無辺大の夢―果てしなく無限に大きい夢。  
10 さかまいて―流れに逆らって波が巻き起こって。激しく波立って。

詩にはその詩に合った読み方があります。きょうのテキスト「ぼろぼろな駝鳥」は、どのように読むのがよいのでしょうか。作者の気持ちになって、ゆっくり音読してみましょう。

## トレーニング

解答は101ページ

1 「なにがおもしろくて駝鳥を飼うのだ。」(1行め) という表現には、作者のどのような気持ちが含まれていますか。次の中から適切なものを一つ選びなさい。

- (ア) 動物園で駝鳥を飼うことに興味があつて、どんなところがおもしろいのかという気持ち。
- (イ) 動物園で駝鳥を飼うことに興味があつて、自分でも飼いたいという気持ち。
- (ウ) 動物園で駝鳥を飼うことに対しての抗議と怒りの気持ち。
- (エ) 動物園で駝鳥を飼うことに対して、駝鳥など飼わずに、もつとほかの動物を飼えばよいのという気持ち。

「なにがおもしろくて……するのだ。」という言い方は、よく使われる表現です。「……のだ」と、断定の表現でたいへん強い語調ですね。どんな気持ちで、どんな場合に使うか考えましょう。

2 「動物園の四坪半のぬかるみの中では、」(2行め)は、どの行に係っていますか。詩の中から書き抜きなさい。

係っている行が一行だけとは限りませんよ。

3 「四坪半のぬかるみ」(2行め)とは、駝鳥にとってどんな場所ですか。次の中から適切なものを一つ選びなさい。

- (ア) 動物園の狭いさくの中であるが、駝鳥が動き回るには十分な場所。
- (イ) 動物園の狭いさくの中であるが、生まれ故郷によく似た環境で、駝鳥にとって快適な場所。
- (ウ) 動物園の狭いさくの中で、駝鳥が自由に動き回るには窮屈な場所。

駝鳥の故郷である熱帯の草原と比較して考えましょう。

4 「雪の降る国にこれでは羽がぼろぼろすぎるじゃないか。」(5行め)とありますが、「これでは」の「これ」とは何を指していますか。次の中から適切なものを一つ選びなさい。

- (ア) 大股で歩き、長い首をもった駝鳥の堂々とした姿。
- (イ) 「動物園の四坪半のぬかるみ」という、駝鳥の現在の環境。
- (ウ) 動物園で飼われている駝鳥の、傷ついたあわれな姿。

5 「腹がへるから堅パンも食うだろうが、」(6行め)とは、どんなことを意味していますか。次の中から適切なものを一つ選びなさい。

(ア) 駝鳥の何でも食るとどんよくさ。

(イ) 駝鳥が堅パンも食るといこと、現在の環境に順応していること。

(ウ) 駝鳥が堅パンも食るといこと、雑食であること。

(エ) しかたなく堅パンを食るといこと、妥協せざるをえない駝鳥の姿。

—— ふつう、駝鳥は草や種子やこん虫などを食べています。動物園では、堅パンも食べるわけですが、与えられた食物を食べなければならぬという、駝鳥の現在の状況を考えましょう。

6 「駝鳥の眼は遠くばかり見ている」(7行め)という表現で、駝鳥がほんとうに見ようとしているものは何ですか。次の中から適切なものを一つ選びなさい。

(ア) 生まれ故郷 (イ) 雪の降る国 (ウ) おりの外の人間

7 「身も世もないように燃えている」(8行め)という表現について次の問いに答えなさい。

(1) 「燃えている」のは何ですか。詩の中のことで答えなさい。

(2) 駝鳥のどんな様子を表現していますか。次の中から適切なものを一つ選びなさい。

(ア) 自分のことも世間体のこともすっかりあきらめている様子。

(イ) 毎日のように、たくさんの人々に見つめられて恥ずかしがっている様子。

(ウ) 狭いさくの中に入れて怒っている様子。

(エ) いつになったら故郷に帰れるかといういらだたせて焦っている様子。

—— 「身も世もない」とは、自分の身のことも世間の手前も考えていられないといことですね。駝鳥がそんなにまで求めているのは何でしょうか。6もあわせて考えてみましょう。

8 「瑠璃色の風がいまにも吹いてくるのを待ちかまえている」(9行め)の「瑠璃色の風」は、どんな風を表していますか。次の中から適切なものを一つ選びなさい。

(ア) 動物園のさくを吹き飛ばしてしまうような、激しい風。

(イ) 広々とした故郷の草原を吹き抜ける、懐かしい風。

(ウ) 春になって吹く、なま暖かい風。

駝鳥の心情をよく考えてみましょう。







15 はちよつと難しいですね。詩が作られた当時の歴史的背景も参考にしなければなりません。次の問いに進む前に、答え合わせをしておきましょう。

16 「ぼろぼろな駝鳥」の主題を次のようにまとめました。後から適切な語句を選び、「」に書き入れなさい。

動物園のさくの中に閉じ込められ、ぼろぼろになっている駝鳥は、

本来あるべき(1) ( )の姿ではない。作者は、自然のままに生

きる権利を(2) ( )を奪っているものに対して、激しい

(3) ( )を感じ、(4) ( )している。この駝鳥の姿は、

(5) ( )の姿でもあり、生来もっている自由を奪い、(6)

( )を(7) ( )を抑圧する人間社会に対する、強い( ) ( )が込め

られている。

駝鳥 人間 怒り 人間性 自由 批判 抗議



◆作者・作品紹介／高村光太郎 詩人・彫刻家。  
一八八三(明治十六)年、東京に生まれる。父は有名な彫刻家、高村光雲である。一九〇八(明治四十二)年六月パリに渡り、ここで大きな衝撃を受ける。帰国後、長沼智恵子と結婚する。本詩は、詩集「猛獣篇」に収められた作品の一つで、ほかに「鯨」や「白熊」や「象」などを題材として扱いつつながら、同様の主題でわれわれに問題を提起している。詩集としてはほかに「道程」「智恵子抄」、評論に「美について」、彫刻に十和田湖畔の有名な「裸婦像」がある。一九五六(昭和三十一年)没。

## 〈文脈の把握〉語句の意味をつかむ

きょうから、論理的文章の内容を把握する学習に入りましょう。

論理的文章とは、その名のとおり、筆者の意見や考えを、すじみち立てて論理的に述べた文章のことです。

さて、この論理的文章の読解力を養うには、次のようなポイントを、順を追って繰り返しトレーニングすることが大切です。

### 1 文脈の把握

- (1) 語句の意味を把握する。
- (2) 指示する語句の内容をつかむ。
- (3) 文や語句の接続関係を把握する。
- (4) 内容を吟味する。
- (5) 比喻内容をつかむ。
- (6) 理由・根拠を考える。

### 2 文章構成の把握

- (1) 段落の要点をつかむ。
- (2) 段落相互の関係をとらえる。

### 3 要旨の把握

- (1) 要旨をとらえる。

まず、きょうは手始めに、語句の意味を把握するトレーニングをすることしましょう。

### ●例題●

▽ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。〔追手門学院大〕

解答は次のページ

明治生まれの異色ある経済人が、またひとり亡くなった。貧困に育ち、刻苦の末、一代で大手家電メーカーを築きあげたH氏である。東京・日本橋に生まれた同氏は、二歳のとき、両親の病気のため、養子に出される。が、そこも貧しく、継母から虐待され、ご飯もろくに食べさせてもらえないことがあった。小学校も二年で退学し、夜ふけまでマッチ内職などをした。

近所に住んでいた親切な盲目の女行者が、見かねて本所の飾屋に連れていってくれた。九歳のときだ。この洋がさ金属加工屋の主人は、昔かたぎの人情に厚い人だった。H少年は人の世の情けを知るとともに、十年間のでっち奉公で、技術屋としての腕とねばり強

では、やさしい問題から始めよう。



い探究心を身につけた。

独立後、同氏は七ころび八起きを地<sup>a</sup>でいくことになるが、大正四年にシャープペンシルを考案し、日米で特許をとる。同十四年には、わが国ではじめて鉱石ラジオをつくり、売り出した。電気知識なしにやり始めたというから驚<sup>おどろ</sup>きだ。(朝日新聞「今日の問題」より) 15

● 語句注 (数字は行数を示す)

7 本所——東京の地名。

(1) ——線 a の「地」の意味として適切なものを、次の中から選びなさい。

- (ア) 土地。地面。 (イ) 生まれつき。持ち前。  
(ウ) 実地。実際。 (エ) きめ。はだ。

〈解答〉

- (1)  
(ウ)

説明

語句の意味や使い方に関する問題は、語句だけを単独に扱ったものは少なく、大部分は長文の中で出題されています。したがって、単に辞書的な意味を知っているというだけではなく、文脈に即して適切な意味をつかむということが大切です。では、どんな点に注意していけばよいのでしょうか。

1 まず、辞書的な意味を思い浮かべる。

辞書には、語句の一般的な意味が、いくつかに分けて示されています。

ます。語句の意味を聞かれたら、まず、このような辞書的な意味を思い浮かべましょう。

例題の場合は、すでに、「地」の辞書的な意味が選択肢としてあげられていますね。

2 どのような文脈の中で使われているかをおさえる。

辞書的な意味をいくつかもっている語句でも、ある文脈の中で使われると、その意味が限定されます。したがって、前後の文脈をしっかりとおさえることが大切です。

例題では、「七ころび八起きを地<sup>a</sup>でいく」という使われ方であることをおさえます。また、冒頭の部分では、「刻苦の末、一代で大手家電メーカーを築きあげた」と表現していることに注意します。

3 その語句が文脈の中で表す意味をつかむ。

前後の文脈をおさえたら、その語句が文脈の中で表す意味をつかみます。

例題の場合、「独立後の同氏は、七ころび八起きであった」という意味内容から、(ウ)の実地、実際が正解であると判断できますね。

辞書的な意味の中から、文脈上、適切な意味を選ぶのですね。



— それでは、ポイントをまとめてみます。目を通したら、トレーニングに進みましょう。

### 語句の意味をつかむ

- 1 まず、辞書的な意味を思い浮かべる。
- 2 どのような文脈の中で使われているかをおさえる。
- 3 その語句が文脈中で表す意味をつかむ。

### トレーニング

解答は102ページ

#### 1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〔国士館大〕

日本人の自律性のなさ、他人同調性、個人主義の欠如が言葉を通じてとらえられるや、思考と行動の主体を示す言葉である英語の「I」とYouに相当する言葉が日本語にはないことに、今さらのごとく思いついたのである。

英語では自分および相手を指す言葉は、IとYouの一つずつしかない。1、日本語の場合は、自分を指す言葉は、わたくし、ぼく、おれ、わし、てまえという日常的に使っている言葉から、今は使われていない拙者、鷹、朕等々数十あり、相手を指す言葉も、きみ、あなた、お前、きさま等々、ちょうど自分を指す言葉に対応するぐらいある。日本語の場合は、誰にたいするかによって、目上か目下か同僚か等々、相手が何者であり、自分はそれになんてしてどの

10

ような関係にたつものであるかによって自分を指す言葉、相手を指す言葉が違ってくるのである。

自分を指す言葉が一つしかないということは、当然相手を指す言葉も一つしかなく、自分を指す言葉がたくさんあるということは、相手を指す言葉もたくさんならざるをえない。自分を指す言葉が一つしかないということは、自己が a な存在であることを示している。それになんてして、自分を指す言葉が一つでなく、相手と自分との関係によってそのつど異なった多数の表現をとるということは、自己は b な存在として観念されており、自己を c 存在としてではなく、 d 存在として観念されていることを示す。

(1) a、d に入れる適切な語句を、次の中から選びなさい。

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| (ア) 自律的 | (イ) 主観的 | (ウ) 相対的 |
| (エ) 客観的 | (オ) 絶対的 | (カ) 他律的 |

- a ( )      b ( )      c ( )      d ( )

— 意味のわからない語句があったら辞書で調べてみましょう。

☆☆次の問題もやってみよう！☆☆

- (2) 1 に入れる適切な語句を、次の中から選びなさい。
- (ア) したがって      (イ) それとも      (ウ) ところが

— 「したがって」は順接、「それとも」は選択、「ところが」は逆接を表します。前後の内容をおさえて、接続関係をつかみましょう。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

〔共通一次〕

私と元政上人との出会いは、詩人から歌人へ、文学者から世界人へと次第に深入りして行つたわけであるが、そういう接近の試みのあいだに、私の心の奥の方に、いつの間にかこの江戸初期の僧侶の肖像が懐かしいものとして形造られて行つた。

それは「人物研究」のための努力の結果、に作りあげられたと云うのではない。上人のあれこれの著書を読み漁っている間に、それらの頁のいわば余白から、こぼれ落ちた挿話だとか、文体の端端から自然とうかがわれる口吻だとか、そうしたものが火山灰が降りつむようにして、意識の網の目から滲れてひっそりと積み重なり、そして、気が付いた時には、上人が私のなかに住みついていて、と云う具合になっていた。それは丁度、誰か現存の人間と何度か会つたり、噂を耳にしたり、その人から手紙を貰つたり、又、その人の著書を読んだりしている間に、特にその人物を研究しようとしてノートをとつたりメモを作つたりしなくても、やはりいつの間にかその人間の肖像が、こちらの心のなかにでき上がるのに似ている。

● 語句注 (数字は行数を示す)

1 元政上人 元和九年(一六二三) 寛文八年(一六六八) 日蓮宗の僧侶。

8 口吻 口ぶり。ことばづき。

- (1) 線の「懐かしい」は、たとえば「彼は見覚えのある土間を懐かしく眺めた。」(大仏次郎「風船」)の「懐かしい」とは意味のうえで異なる場合があります。線の「懐かしい」に近い意味をも

つ用例を、次の中から選びなさい。

(ア) うぬぼれらしい、気障な態度がないのにお玉は気が附いて、何とはなしに懐かしい人柄だと思ひ初めた。(森鷗外「雁」)

(イ) (彼は)此処へ来ない前の彼自身をなつかしく、心の中でふり返つた。(芥川龍之介「芋粥」)

(ウ) ふるさとの訛なつかし

停車場の人ごみの中に  
それを聴きにゆく(石川啄木「一握の砂」)

「懐かしい」には、①心がひかれる。愛着を覚える。②(過去のことが)思い出されて慕わしい。という二つの意味があります。(ア)ウの用例が、それぞれどちらの意味で用いられているかを、よく考えましょう。

- (2) に入れる適切な語句を、次の中から選びなさい。

(ア) 意識的 (イ) 自動的 (ウ) 具体的

「いつの間にか」(3行め)、「気が付いた時には」(10行め)といった表現に注意しながら、前後の文脈をていねいにたどりましょう。  
元政上人の肖像が、どのように筆者の心の奥の方に形造られたかが、繰り返し説明されていますね。

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〔鶴見大〕

読書の選択やまた読書のしかたについて学生たちから質問を受けたことがたびたびある。これに対する自分の答えは、いつも不得要領に終るほかはなかった。いかなる人にもいかなる恋をしたらいかと聞かれるのとないた相違はないような気がする。時にはこんな返答をすることもある。「自分でいちばん読みたいと思う本をその興味の続く限り読む。そしていやになったら途中でかまわず投げ出して、また次に読みたくなつたものを読んだらいいでしょう。」大根が食いたくなる時はきつと自分のからだが大根の中にあるビタミン・エックスを要求しているであろう。その時われわれは何も大根を食うことの a を証明した後でなければそれを食っていけないわけのものではない。また友人のIが大根を食ってよろずの病を癒やし百年の寿を保つとしても、自分がそのまねをして成功するという保証はついていない。

ある本を読んで興味を刺激されるのは何かしらそうなるべき必然な理由が自分の意識の水平面以下に潜在している証拠だと思われる。それをわれわれの意識の表層だけに組み立てた浅はかな理論や、人からの入れ知恵にこだわって無理に押えつけねむける必要はないように思われる。人々の頭脳の現在はその人々の過去の履歴の函数である。それである人がある時にAという本に興味を感じて次にBに引きつけられるということが一見いかに不合理で b に見えてもそれにはやはりそうなるべきはずの理由が c しているか



◆こくニア・ラ・カルト／「大根」の意味◆

流れゆく大根の葉の早さかな (高浜虚子)

虚子が郊外を散歩中、ふと橋の上から小川を見たとき、青々とした大根の葉が流れにのってスツと流れていった、その早さをうたった句である。

「大根」は、俳句では冬の季語だが、この野菜は、「大根足」とか「大根役者」とか、あまりよい意味には使われていない。

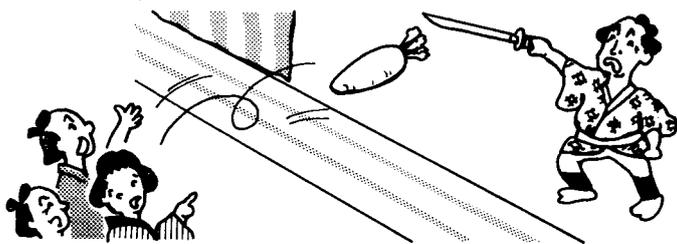
「大根足」とは、「大根の形のような足」のことだが、それでは、「大根役者」とは？

「大根役者」を辞書で引いてみると、「芸がへたな役者をあざけていうことば」などと書いてある。「芸がへた」と「大根」とはどのような関係があるのだろうか。

大根は、生で大根おろしにして食べたり、煮たりして食べるが、ジアスターゼなどという消化を助ける成分が含まれているためか、どのように料理しても、それを食べた人が、食あたり（腹痛や下痢など）を起こすようなことはない。

この「あたらない」という点で、「大根」と「大根役者」とはつながっているということだ。

では、トレーニングを続けましょう。



らであらう。

(1) a ( ) c ( ) に入れる適切な語句を、次の中から選びなさい。

- (ア) 偶然的ぐうぜんてき
- (イ) 外在
- (ウ) 必然性
- (エ) 内在

a ( ) b ( ) c ( )

本文中の「そうなるべき必然な理由」(14行め)、「潜在」(15行め)、「そうなるべきはずの理由」(21行め)など、せんたくし選択肢の類義語句、あるいは対義語句に注意して読んでみましょう。

☆☆次の問題もやってみよう！☆☆

(2) — 線部の内容を、それ以前に、別の例を用いてより具体的に表現している部分があります。その部分に——線を引きなさい。

—— 答え合わせが済んだら、きょう最後のトレーニングに進みましょう。

4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。 (早稲田大)

テレビのばあいは、耳のみならず眼めをも奪うばうわけであり、視聴者しちようしゃに送られてくる情報内容は、ラジオよりもはるかに a ( ) であり、それだけ受け手の側にひとりひとりが想像力を働かせるゆとりは少なくなる。それだけ言葉の意味は減じ、そしてそれだけ人間の原始

的・動物的な、したがって非個性的な感覚に訴うたえかける力は大きいのである。文字は情報伝達の抽象ちゆうしょうてき的な媒体ばいたいであるから、それが表現しようとしている事物の内容や全体像を復元するには、受け手(読者)の側でそれぞれ独自に理性や想像力を働かせる必要がある。すなわち文字を使用して叙述じよじゆつし、著述することと同時に、文字を読むこと、つまり読書もまた、読者ひとりひとりの創造的行為こういであるといふことができる。それだからこそ、人それぞれに違ちがった「読み方」がなされるのだ。

これに対し映像は、具体的に情報内容を伝達するだけに、b ( ) な文字とは違って、受け手の側の想像力や理性に働きかけ、その自主的・c ( ) な創造能力に期待する必要がある。したがって読者よりもさらに広範こうはんな人々、つまり他律的・d ( ) な精神態度の持ち主にまで、e ( ) に作用することができる。つまり文字による書物2が、筆者と読者それぞれの側における自律的な創造的行為によつてはじめて意味をもちうるのに対し、映像によるテレビ・映画は受け手の側の感性に訴えればよく、送り手の側における一方的な創造的行為によつて成り立つ。いいかえれば、映像は人それぞれの違った「読み方」を拒否きよひするのである。

(1) a ( ) e ( ) に入れる適切な語句を、次の中から選びなさい。

- (ア) 画一的
- (イ) 能動的
- (ウ) 抽象的
- (エ) 具体的
- (オ) 受動的

a ( ) b ( ) c ( ) d ( ) e ( )

映像による情報伝達と文字による情報伝達の特徴を、整理しながら読んでみるとはつきりしてきますね。

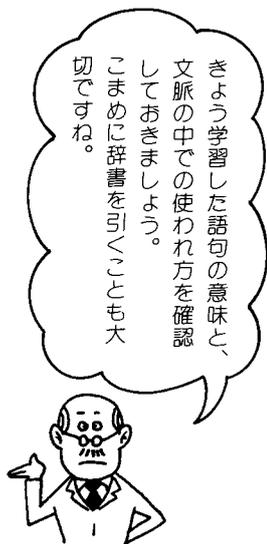
☆☆次の問題もやってみよう！☆☆

(2) 線1の「それ」とは何を指していますか。本文中の語句で答えなさい。

( )

(3) 線2と同じ趣旨を述べているものを、次の中から選びなさい。

- (ア) 書物は、送り手(筆者)側の一方的な働きかけによってはじめて意味をもつ。
- (イ) 書物は、送り手(筆者)と受け手(読者)の共同作業によってはじめて意味をもつ。
- (ウ) 書物は、送り手(筆者)側からの刺激が、受け手(読者)に、画一的に作用してはじめて意味をもつ。



—— ご苦労さまでした。次のページの「漢字・語句のトレーニング」をして終わりにしましょう。

1 次の線の漢字の読みを示しなさい。(□にチェックしなさい。)

- (1) テレビ、新聞、雑誌など、現代社会は情報が氾濫している。
- (2) 友人に勧められて、入部することを決意した。
- (3) 中学時代の思い出を胸に刻み、新しい生活に向かう。
- (4) 事務処理の合理化を図るために、コンピュータが導入された。
- (5) まじめに勉強したので、成績が著しく伸びた。
- (6) 授業でやることは、予め家で学習しておきなさい。
- (7) 敗れたとはいえ、彼の潔い態度には特筆すべきものがあつた。
- (8) 悪徳政治家の不正は、徹底的に暴かれねばならぬ。
- (9) 祖母は、使わなくなった裁縫道具を、納戸の奥にしまった。
- (10) 核実験に抗議するために、三人の僧りが断食を始めた。

2 次の線のことを漢字で示しなさい。(□にチェックしなさい。)

- (1) 自分の癖は、他人にできされてあらためて気づくことが多い。
- (2) 水平線をじっときようしたが、依然として陸地は見えなかつた。
- (3) 初めて象を見たとき、少年はその巨大さにあつとうされてしまった。
- (4) 彼はクラスの全員からしたわれている。
- (5) ベルリンは、壁をへだてて東と西に分かれている。
- (6) 春のけはいが、そここに感じられる。
- (7) まだ若いのだが、いろいろなことをこころみてみよう。
- (8) 先生は、私たちの発言をうながした。
- (9) 彼女はアメリカのいんしょうを、得々と述べた。
- (10) 湖にうつった月影が、波の間にゆらゆらと揺れている。
- (11) 私の怠慢から兄にかじような負担をかけてしまった。
- (12) がいろに植えられた木々も、新しい生命の輝きを放っている。
- (13) レモンにはビタミンCがたくさんふくまれている。
- (14) この作品はぎこちが勝ち過ぎて、作者の心が感じられない。
- (15) 最近の彼のきようには、どことなく不自然なところがある。
- (16) 警察はちまなこになって犯人を捜した。
- (17) 周囲のごかいを招くような行動は、嚴重に慎みなさい。

- (18) 夜もふけ、街はシーンと静まり返っている。
- (19) あまりのショックに、彼女はさくらん状態に陥った。
- (20) 兄は、野鳥のしゅうせいを調査するために、望遠レンズを買った。
- (21) 父はいつもじょうだんを言つて、みんなを笑わせる。
- (22) 彼の最後の歌声は、ほとんどぜつきように近かつた。
- (23) 姉は本ばかり読んでいて、世の中の出来事にはからつきうとい。
- (24) 紛争は二国間にとどまらず、周辺諸国にまではきゅうした。
- (25) 戦後の日本経済のひやく的な発展を、世界各国が注目している。

3 次のかたかなの部分の漢字(常用漢字表にある字体)に改めると、(A) 総画数は何画になりますか、(B) またその部首名は何ですか。それぞれ後から選びなさい。

- (1) せいオンな老後の日々
- (2) はいカンを砕く
- (3) ごショウらんに供します
- (4) しょうキをつかむ
- (5) 社会保険料のコウじよ

(A)	(カ) 8 以下	(キ) 9	(ク) 10	(ケ) 11	(コ) 12 以下
	14 以下	16 以上			

(B)	(a) じんべん	(b) いとへん	(c) にくづき	(d) てへん
	さんずい	きへん	のぎへん	たけかんむり

- (1) 「静オン」→(雰) 雲気や環境が(落) 落ち着いていて静かなこと。何事もなくおだやかなこと。
- (2) 「肺カン」→肺臓とカン臓の意。「肺カンを砕く」で非常に苦心することという。
- (3) 「ショウ覧」→他人に自分の物を見てもらうとき、こんなつまらないものですが、わらいながら見てくださいという気持ちで使う語。
- (4) 「勝キ」→そのとき積極的に行動すれば勝るといふとき。
- (5) 「コウ除」→(計算の対象からある金額を) 取り去ること。

〈文脈の把握〉指示する語句の内容をつかむ

きょうは、指示する語句の指している内容をつかむトレーニングをします。

指示する語句は、書き手が同じ内容を、同じことばで繰り返すのを避ける場合に使われます。そのため、指示する語句は、常に「何のことだろう」と具体的な内容を考えて読むことが必要です。



● 例題 ●

▽ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。 (中央大)

解答はこのページ

タスマニア (Tasmania) 島人には「ゴムの木」「垣かきの木」などに対する名称はあるが、「木」にあたることばはない。アフリカのズールー (Zulu) 族には「赤いウシ」「白いウシ」に対する名前はあるが、「ウシ」ということばにあたることばがない。チェロキー (Cherokee) 族には洗う物の種類に応じて「洗う」ということばが別々にあるが、「洗う」ということばはない。

木、ウシなどのことばが、われわれの社会ではあまりに普通なこ

とばであるから、これらの事実にはわれわれは非常にめずらしいこととして気をひかれる。かれらには物事を抽象ちやうしやうして見る力に欠けている証しやうこ拠こだとして、これらのことがもちだされたりしたことがあつて、よく知られた未開社会の珍奇ちんきな言語現象である。しかし、この考え方はまったく誤りであつて、いかに具体的な事物を指すことばであつても、抽象性がないということはない。なるほど木やウシにあたることばと、個々の種類の木やウシだけを指すことばとの差は小さくないが、白いウシだけを指すことばはやはり白いウシの全部を総称している。その意味で、やはり一般性いっぱんせいの意味を担になうことばである。そういうことばを使って話すかれらは、すでに頭の中に抽象の意味世界をもっているのである。 (築島謙三「ことばの本性」より)

● 語句注 (数字は行数を示す)

1 タスマニア島 2 オーストラリアの南にある島。

(1) 線 a の「この考え方」を具体的に示している箇所を本文中から抜き出さなさい。

〈解答〉

(1) かれらには物事を抽象して見る力に欠けている (9行め)

**説明**

指示する語句のオースドックスな使われ方は、「同語反復を避ける」というものです。では、どのようにして指示する語句の内容をつかんでいけばよいのでしょうか。

**1 まず、指示する語句の係っていく部分をおさえる。**

指示内容を聞かれると、すぐに前の方を探し出す人がいますが、それよりも、まず、指示する語句の係っていく部分をおさえることが大切です。

例題の場合は「この考え方」は「まったく誤りであって」に係り、主述の関係になります。「まったく誤りであるこの考え方」が「どんな考え方」なのか考えながら、2に進みましょう。

**2 次に、前後の文脈をていねいにつかむ。**

指示する語句は、前に述べた部分を指すことが多いのですが、中にはあとに述べることを指す場合もあるので、前後の文脈にはよく注意して読まなければなりません。

例題の場合、あとの内容をみると、「いかに具体的な事物を指すことばであつても、抽象性があるのだ」といっています。このことから、「誤っている考え方」が「具体的な事物を指すことばであるから、抽象性がない」という内容であることがわかります。あとは、この内容と同じ意味の部分を抜き出せばよいのです。

**3 想定した内容を指示する語句にあてはめてみる。**

内容をとらえたら、指示する語句の部分にあてはめてみて、すんなり文章が続くかどうか確かめます。しぜんに続いていけばよいの

です。

ここで、ポイントをまとめておきます。目を通したら、早速トレーニングに進みましょう。

算数でいう検算みたいなものだね。



**指示する語句の内容をつかむ**

**1 まず、指示する語句の係っていく部分をおさえる。**

**2 次に、前後の文脈をていねいにつかむ。**

\* 指示する語句は、前の内容を指すことが多いが、中には、あとの内容を指すものもあるので注意する。

**3 想定した内容を指示する語句にあてはめてみる。**

**トレーニング**

解答は103ページ

**1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。**

〔駒沢大〕

必ずしも多くを読んで、博識になる必要もない。おのれの人生への探求として、またおのれの趣味しゅみとして、その好むところを真に味わい読むならば、本は少なくとも足りる。必要なことは、なるべく高い作品を読むことであり、古典を読むことの必要が叫きけばれるものもそこそこにつながりがある。また深く読んでおのれの血肉とするために<sup>a</sup>

は、ただ作品そのものを理解しようとするばかりでなく、それとあわせて作者の「人」に触れるというような読み方が必要であろう。作品を通じて、ある一個の芸術家がいかなる人間であり、かつこの人生をいかに生き貫いたかを知ること、また逆に、その人と生涯とを知ることによって、その作品をさらによく理解し味わうこと、それによってはじめて文学の享受は完全なものとなる。

(1) 線 a の代名詞「そこ」とは具体的に何を指していますか。本文中から適切な部分を書き抜きなさい。

(2) 線 b の代名詞「それ」とは何を指していますか。本文中のこ とばを用いて簡潔に答えなさい。

(3) 線 1 の「作者の『人』に触れるというような読み方」とは、どのような読み方ですか。本文中から、具体的に表されている部分の最初と最後の五字を抜き出して答えなさい。(句読点を除く。)

☆☆次の問題もやってみよう！☆☆

〃

〃

答えを合わせて、次に進みましょう。

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〔神戸大〕

私は新かなづかいと当用漢字による国語教育を受けて育ってきたものたちの一人としてこの文章を書くことを、まず明らかにしておきたいと思う。そしてなお私は、自分のなかの「言葉」が作りあげられ、固められる工程のうえに、会津八一氏の圧倒的な日本語がもたらした厳しい影響を主張したいと思う。私は会津八一氏を語るために、十全な資格をそなえていない。しかし、言語は、とくに詩的言語は、あらゆるものたちに対して、解放的である義務を持つだろう。そして、私は会津八一氏の詩的言語から、日本語の敏感なひろがりやと収縮、がっしりした骨格、やわらかくあたたかい充実などを教えられたのだと思っている。日本語が詩的言語でない、ほかならぬ詩人たちが発言するのを私はうけつけない。私は自分を内側から支えてくれる日本語の巨人たちのためにも、それをうけつけないとできない。会津八一氏のためだけでも、私は日本語をおとしめる怠惰な意見と戦う義務を持つだろう。私ども若い人間は、武器として会津八一氏の言葉を持ちはしない。私どもは別の生硬で未成熟な言葉をしか持たない。しかし、私どもが長い戦いのあとで自分のものである「言葉」は、会津八一氏をふくむ日本語の巨人たちのかたちづくる日本語の正統に、可能なかぎり近くなければならないだろう。文化の継承はそういうしかたでおこなわれ、伝統はそういうかたちで明らかになると私は信じている。

● 語句注 (数字は行数を示す)

4 会津八一——一八八一(明治一四)——一九五六(昭和三一)。歌人、美術史学者、書家。秋、岬道人、渾齋などと号した。



答えを合わせて、ひと休みしましょう。

◆こくゴア・ラ・カルト／何を指示する◆

英語の指示代名詞などの指示内容は、直前の内容にあること、というのが原則らしい。しかし日本語では、そうは問屋がおろさない。

かなりいろんなものを指してしまう。大別してみよう。

- 1 直前の内容
- 2 かなり前の内容
- 3 あとの内容（これも必要だと思って加えた内容が…）
- 4 言外の内容（「あの話は？」「その話はもう済んだよ。」）

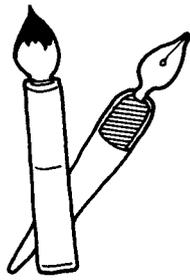
1～4以外にもいろいろあるが、例は少ない。日本語を習う外国人に難解なのが、この指示する語句の使い方、意味のつかみ方だそう。たしかに、次のような表現は何のことかよくわからないかもしれない。

「それで、そうしておけば、ああなるよりほかないんだね。」

この表現は、状況が与えられていれば、日本人にとっては何でもない。

指示する語句の指す内容の幅が広いというのは、以心伝心（言わないでも心が通じること）や不立文字（禅宗で仏道の真意は心から心に直接伝えられるもので、ことばや文字では伝えられないとする）の伝統だろうか。

ところで、論理的な文章には、このようなわかりにくい指示する語句は少ない。しかし、筆者がいつたい何を頭に置いて論を進めているかをつかもうとしながら読んでいく態度がないと、とんでもない解釈をしてしまうこともある。大いに気をつけよう。



では、きょう最後のトレーニングです。

ちよつと、手ごわいぞ。がんばろう。



トレーニング

解答は104ページ

4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〔北海道大〕

常識といわれるものの最大の盲点<sup>もうちん</sup>は、それがいつまでも通用するものと信じられやすい所にあるのではないか。今日の常識だと思っていたことが、実は昨日の常識にすぎないのを知らずにいる場合が少なくない。

人工衛星がまわりだすというような、だれの目にも明らかな事態が生ずると、すべての人は否応なしに、「宇宙旅行は単なる空想だ」という昨日の常識を捨てさせられる。しかしこんな場合はむしろ少ない。多くの人がそれと気づかぬ間に、事態が変わってしまった場合の方が多い。

わが国のようにエネルギー資源の足りない国では、石炭をいくらか掘ってもおつつかないのではないかと思っていれば、いつの間にか貯炭の山ができていく。石炭産業が危機に陥<sup>おちい</sup>っていると知らされて愕然<sup>がくぜん</sup>とする。

農地改革で細分化されたわが国の農業の機械化は不可能だろうと、つい最近まで思われていた。今日はそうではない。そしてアメリカ式の大農の機械化だけがわたくしたちの頭の中に固定観念として鎮座<sup>ざい</sup>しておいたということ、改めて反省させられる。

これから先もわたたくしたちは度々、昨日の常識を今日の常識に切りかえて行かねばならないであろう。しかし、もしもそういう切りかえを始終やらなければならぬのなら、常識の常識たる値打ちがずっと減ってしまう。

( ) 科学文明の急激に進展する現代世界に生きるわたくしたちは、常識に關しても、こういうディレンマに陥らざるを得ない。このディレンマからのがれるにはどうしたらよいか。それには、世の中の変<sup>25</sup>化のうわべにはなるべく氣をとられぬようにし、底流の方に目をつけるのがよい。同じように新聞に大きく、あるいは小さくでていることの中にも、うわべの変化ともっと深い所での動きと両方ある。後者を中心になされた常識は、昨日の常識、今日の常識というよりも、むしろ明日の常識ともいべき性格を帯びる。そしてそれだけ永続性があることになる。

● 語句注 (数字は行数を示す)

24 ディレンマ 進退きわまること。板ばさみ。

(1) 線 a、b、c の「それ」は、それぞれどのようなことを指している

ますか。本文中の語句を用いて、簡潔にまとめなさい。



線 b の「それ」が指している内容は、ちょっとややこしいですよ。よく考えて、簡潔にまとめましょう。

☆☆次の問題もやってみよう！☆☆

(2) 本文中の ( ) に入れるのに最も適切な文を、次の中から選びなさい。

- (ア) 世の中が変わっても、すこしも変化しないところにこそ常識の値打ちがあったからである。
- (イ) 常識とは学問上の真理に基づくものでなければならず、そこにこそ常識の値打ちがあったからである。
- (ウ) 常識とは科学の急激に進展する現代社会では成り立ちのないものだから。
- (エ) 少しぐらいいは世の中が変わっても、変えずにすむ所に常識の値打ちがあったのである。
- (オ) 世の中が変わるにつれて、常識も進歩していくもので、そこに、常識の値打ちがあったのである。



指示する語句は、前に述べた部分を目指すとは限りませんね。後に述べている場合もあるのです。注意しましょう。

ご苦労さまでした。これで今日の読解はおしまいです。次のページの「漢字・語句のトレーニング」をして終わりにしましょう。

1 次の線の漢字の読みを示しなさい。(□にチェックしなさい。)

- (1) この庭園は四季をとおして美しいが、秋は特に風情がある。
- (2) 懸念していた最悪の事態が、現実となってしまった。
- (3) たまに食卓を花で彩ると、気分まで華やいてくる。
- (4) 伯爵夫人は、毎夜毎夜、趣向をこらしたパーティーを催した。
- (5) それを最後に、船からの通信はパツタリ途絶えてしまった。
- (6) あまりに身近すぎて、その人のありがたさがわからないときがある。
- (7) ジブシーは流浪の民と呼ばれる。
- (8) 彼の失敗は、自分の怠慢が原因なのだから、まったく同情に値しない。
- (9) アスピリンは、解熱剤として用いられる。
- (10) 領主の悪政に怒った家来は、ついに謀反を起こした。

2 次の線のことをばを漢字で示しなさい。(□にチェックしなさい。)

- (1) 同じことをしているのに、私だけしかられるのはなつとくできない。
- (2) その問題は、文字というよりも、むしろ心理学のりょういきに属する。
- (3) 古代文字の解説には、何よりも鋭いどうさつ力が必要とされる。
- (4) 銀行の資金援助で、父の会社は倒産をまぬかれた。
- (5) この料理は塩のかげんが特に難しい。
- (6) わたしのきおくでは、その日は確か朝から雨が降っていた。
- (7) 彼がいなくなつたくわしい理由は、だれも知らない。
- (8) 川でおぼれた小さな子どもを、勇敢な男性が助けた。
- (9) 姉はお花を習っているせいか、立ち居振る舞いがゆうがである。
- (10) 建物がろうきゆう化して危険なので、新しく建て直すことが望まれる。
- (11) あすの午後お宅をほうもんしたいのですが、ご都合はいかががでしょうか。
- (12) 出火と同時に、冷静な彼女は、客を安全な場所へゆうどうした。
- (13) 中世の騎士は、何よりもまずめいよを重んじた。
- (14) 古く西欧では、ぶじよくされたとき、相手に決闘を申し込んだ。
- (15) 年相応のふんべつは必要である。
- (16) 世界中で食糧危機がせまられているのに、物をむだにする人が多い。
- (17) 試験前に勉強しなければならぬことが多すぎて、とほうにくれた。

- (18) 摩周湖は、世界有数のとうめい度を誇っている。
- (19) 酒気をおびた運転は、非常に危険である。
- (20) 討論会では、多くの人たちのそつちよくな意見が聞きたい。
- (21) いつ見ても、彼女の服装はとでもせんれんされている。
- (22) 細かい部分はしよりやくして、要点だけを述べます。
- (23) このつばは高価なものですから、けつして手をふれないでください。
- (24) 宇宙には、まだ数多くのしんびが残されている。
- (25) 老作家は、その小説の完成にしゅうねんを燃やした。

3 次のかたかなの部分の漢字(常用漢字表にある字体)に改めると、(A)総画数は何画になりますか、(B)またその部首名は何ですか。それぞれ後から選りなさい。

- (1) 不定しゆうソ
- (2) 新聞のシユクさつ版
- (3) かダンな行動
- (4) せいレン潔白
- (5) 泰然じジャク

(A)	(ア) 8 以下	(イ) 9	(ウ) 10	(エ) 11	(オ) 12 以下
	(カ) 14 以下	(キ) 16 以上			

(B)	(a) しめすへん	(b) ごんべん	(c) くさかんむり	(d) つきへん
	(e) いとへん	(f) てへん	(g) まだれ	(h) おのつくり

- (1) (5)の意味を次にあげておきます。参考にしましょう。  
「不定愁ソ」→「愁ソ」は嘆きうったえること。「不定愁ソ」とは、原因がはっきりしない苦痛や不快感などの症状をうったえること。
- (2) 「シユク刷版」→版の大きさを、以前に印刷したものより小さくして印刷したもの。
- (3) 「果ダン」→ためらわずに思い切って行うこと。
- (4) 「清レン潔白」→心が清く、行いが正しいこと。
- (5) 「泰然自ジャク」→落ち着いていて、物事に動じない様子。

## 〈文脈の把握〉文や語句の接続関係をつかむ

論理的文章に限らず、一般に文章の中の語句と語句、文と文は、常に何らかのつながりをもっています。そして特に、それらの文や語句が接続する語句で結ばれている場合、その接続関係を正しくつかむことは、文脈の把握のうえでも大切なことです。

きょうは、接続する語句を中心に、文や語句の接続関係をつかむトレーニングをしましょう。



▽ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(明星大)

解答はこのページ

学校の教師をしていつもおもしろくもふしぎにも思うのは、教室で学生たちが教師といつも一定の距離をおきたがることだ。百人ほどはいる教室で二、三十人しか学生のいないばあい、その学生たちは、なるべく教師から遠いところへ、壁にそって「散開」している。彼らは教師とある「へだたり」を感じており、それを物理的間隔によって表現しているのである。

A、大講堂かなにかで壁ぎわまで教師の声のとどかないよう

な時には、事態はもう少しこみいつてくる。声のとどく範囲に、しかし、教師とのへだたりは計って、学生たちは慎重に場所えらびをやっている。

教師はなるべく学生たちに身近に来てほしい。そのとき教師は、学生をさしまねくのである。「まねく」とはへだたりをとろうという意志表現である。ひとを自宅に招待するのを「まねく」というのは、対人距離をちぢめたいということである。また「お近づきのしるしに」などといって物をさしだすのは、その物を相手にさしだすことで、相手との距離感をちぢめることである。文字どおり「近づく」ことで、お近づきになるのである。

(多田道太郎「しぐさの日本文化」より)

● 語句注 (数字は行数を示す)

4 散開 散らばり広がること。

(1) A に入れる適切な語句を、次の中から選びなさい。

- (ア) さて (イ) さらに (ウ) もっとも (エ) また  
(オ) そして

解答

- (1) (ウ)

説明

接続する語句が前後をどのような関係でつないでいるか？また逆に、前後の関係から考えて、どのような接続する語句を用いればよいのか？

このような疑問は、どのように考えてゆけばよいのでしょうか。

1 接続関係の種類と、それに対応する接続する語句を知る。

接続関係には次のような種類があり、それに対応して用いられる接続の語句には（一）に示したようなものがあります。

順接……前のことから原因・理由とすることがらが、あとに來ることを表す。（だから、それで、すると、したがって、など）

逆接……前のことからは逆のことがらがあとに來ることを表す。（しかし、けれども、ところが、だけど、など）

累加・並立……前のことから付け加えたり並べあげたりすることを表す。（そのうえ、さらに、そして、また、および、など）

説明……前のことについての説明や補いを表す。（つまり、なぜなら、たとえば、ただし、もつとも、など）

対比・選択……前のこととあとのこととを、比べたり、どちらかを選ぶことを表す。（または、あるいは、それとも、など）

転換……話題を転じることを表す。（さて、ところで、など）

これらの基本的なことを頭に入れておけば、とても便利です。なお、（一）に示したのはいずれも接続詞ですが、接続する語句には、ほかにも接続助詞（が、から、ので、ば、など）や、一部の副詞（ただ、むしろ、特に）などもあります。

2 接続する語句が接続させている範囲をおさえる。

接続する語句は、語句と語句、文と文、あるいはそれ以上の部分と部分を接続させています。まず、その範囲をおさえ、前のようなことからあとのどのようなことからを接続させているか、はっきりさせましょう。

3 前後の文脈をおさえて、どういう接続関係をつかむ。

例題では、まず「学校の教師をしていつもおもしろくもふしぎにも思うのは、教室で学生たちが教師といつも一定の距離をおきたがることだ。」（1行め）と述べたあと、「百人ほどはいる教室で二、三十人しか学生のいないばあい」（2行め）について、具体的な説明をしています。そして次に、「大講堂かなにかで壁ぎわまで教師の声のとどかないような時」（7行め）の例を補っていますね。この接続関係は、説明（前のことについての説明や補い）であり、したがって、**A**には「もつとも」という接続の語句が適切であることがわかります。

ここでポイントをまとめておきます。一読しておきましょう。

文や語句の接続関係をつかむ

- 1 接続関係の種類と、それに対応する接続する語句を知る。
- 2 接続する語句が接続させている範囲をおさえる。
- 3 前後の文脈をおさえて、どういう接続関係をつかむ。



トレーニング

解答は104ページ

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。 [城西大]

考えてみればしかし、日本の文芸というものも、不思議な待遇を受けていたもので、源氏物語が小説であるということが、明らかに言い切られたのは、今からわずか百五十年くらい前のことなので、

A 源氏物語が書かれてから、七、八百年のあいだというものは、それがいったい何物であるかが、日本人自身に、はっきりはわからなかつたのである。 B さすがに自国の文学のこととて、実に多くの人たちが、この物語に魅せられた。更級日記の作者の、菅原孝標のむすめという、今から九百年ほど前の文学少女は、「後の位も何にかはせむ」と強く言い切った。今の言葉でいえば、「この物語を読むうれしさにくらべれば、後の位など問題にならない。」といったものだ。宮仕をして幸運にめぐまれば、更衣、女御と進み得た当時としては、たいした入れあげ方というべきではないか。

10

(1) A・B に入れる適切な語句を次の中から選び、「」に記号で答えなさい。

- (ア) そして
- (イ) しかし
- (ウ) さて
- (エ) つまり

A ( ) B ( )

☆☆次の問題もやってみよう！☆☆

(2) — 線の「それ」とは何を指していますか。本文中の語句で答えなさい。

( ) ( )

—— 答えを合わせて、次に進みましょう。

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。 [岐阜経済大]

通常われわれの一生は、概して平凡な日々の連続である。きまりきった勤め、家族や親戚のあいだでの変わりばえもしない心配ごとや喜び、友人同僚との珍しくもない不和や親交、その他その他、という日々が際限もなくくり返されて過ぎて行く。

そういう平凡な日々のくり返しの上に、 A 時たま、全く異質の、異常に緊張した、くり返しも廻れ右もきかぬひとつながりの時期が続くことがある。 B 恋の六ヶ月間というような時期である。フランスの作家ロジェ・ヴァイヤンの用語を借りて、季節ということばでその時期を呼ぶならば、季節のなかで、人は初めて一種純

粹な統一感を体験することができる。

C 人生における季節のおとずれは、本人の意志とは無関係に  
くることがある。少年時代のある一時期、オコリのようにとりついで  
パツと落ちてしまう「野球熱の季節」のようなものである。……  
(中略)……だが季節は、恋愛の場合に見られるように、内にねむる  
意志と外からの働きかけとが微妙に一致したとき、その最も完璧な  
進行をスムーズに開始する。そしてマクベスと魔女たちの出会いは、  
その典型の、ほとんど極致だったといえる。戦勝の帰途、ヒース茂  
る雷鳴の荒野を通りかかった「第一幕第三場」のこの日から、美し  
く悲痛な快感と緊張の、くり返しのきかぬひとつながりの時期、完  
璧な [ ] が、それはマクベスがついにマクダフの剣のもとに倒れ  
るその日までの——D・A・ダニエルの計算に従えば——約一ヶ月、  
マクベスの上に休むことなく続くのである。

● 語句注 (数字は行数を示す)

12 オコリ——一定の時間において発熱、寒けを起こす病気。

16 マクベス——イギリスの作家シェークスピアの戯曲「マクベス」の主  
人公。

17 極致——(あるものごとが到達しうる) 最高の状態・境地。

(1) [A] [C] に入れる適切な語句を次の中から選び、[ ] に記号  
で答えなさい。

- (ア) たとえば (イ) だから (ウ) しかし (エ) ところで  
(オ) さらに (カ) または

A [ ] B [ ] C [ ]

10

☆☆次の問題もやってみよう!☆☆

(2) [ ] に入れる適切な語句を、本文中から抜き出しなさい。

—— 答え合わせをしてから、次に進みましょう。

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(立正大)

科学技術ということばがよく使われますが、科学と技術とは一応  
分けて考えることが必要です。科学は、世界に関する知識の追求で  
す。A、技術は知識が目的ではない。技術は、世界を変えようと  
いうか、何か特定の、科学外の現実の社会のなかでの必要をみたす  
こと、ある特定の目的に役立つことを目的としています。与えられ  
た目的をはたすためにどういう手段をとったらいいか、能率のよい  
手段をつくり出すことが技術なのです。これは科学の目的とは全く  
違うものです。科学は、極端にいえば、全く役に立たなくても、世  
界についての知識を求める。一方、技術の方は、役に立たない知識  
を求めるのではなく、まず役に立つ目標があつて、その目標を達成  
するための手段を知ろうとする。科学と技術という、二つのことは、  
区別して考えなければならない。

B 重力の法則とか、人間の神経の作用のしかた、そういう問  
題についての知識を、科学は求めます。それは役に立つ場合もある  
し役に立たない場合もあるけれど、役に立つからそういう知識を求  
めるのではなくて、世界の基本的な構造を知るために、そういう知  
15

識を求めます。

その科学的な知識を、人間社会の役に立つように利用する。たとえば、重力に関する法則を、橋をつくったり、建物を建てたり、飛行機を飛ばせたりするために、利用する。これは技術です。

C、神経の働き方、神経生理学の知識を神経病を直すために医者が使う場合には、それはつまり技術の問題です。

20

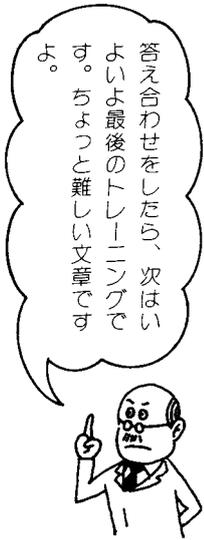
(1) A C に入れる適切な語句を次の中から選び、( ) に記号で答えなさい。

- (ア) ところで (イ) ところが (ウ) たとえば (エ) また
- (オ) つまり (カ) そのうえ

A ( ) B ( ) C ( )

☆☆次の問題もやってみよう！☆☆

(2) 「科学と技術とは一応分けて考えることが必要です。」(1行め)とありますが、筆者はこの文章で、科学と技術をどのような観点から区別していますか。本文中の漢字二字で答えなさい。



### トレーニング

解答は105ページ

4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。 [甲南女子大]

日本が過去一世紀の間に異常な変化をとげたことは、東海の孤島に千年以上隔離されていたその文化が、あらゆる時間的空間的距離を短縮しつつある近代欧米文化との接触に入ったことを考えれば当然のことであると言えよう。 A、そこに混乱があつたことはほとんど避けられない事態であると言えよう。しかし変化は何も日本に限つたことではない。ヨーロッパ文明そのものが、今大きく変貌しつつあることは、これまたほとんど常識となつている。

B、その変化が具体的にはどういふことなのか、これについては少数の人々を除いては、余り明白に考えられていないのではないかとと思う。これはある意味でやむをえないであろう。ある巨大な変化が社会に起こる時、それを正しく測定し、その意味を悟るのは、後世の歴史家の仕事であり、変化の渦中にある当事者ではない。かれらはただ精一杯に考え、精一杯に生きるだけである。その意味では現代はことにそういう意味での計測と反省が困難な時代であると思

われる。しかしそれは別の意味で、もつとも生き甲斐のある時代ではないであろうか。 C、問題は、現代の文明の巨大な変貌に驚き、その外面的な成果を汲々として追うには尽きない、ということである。もつとも深い問題は、人類のこれまでの文化が、あらゆる意味で経験の蓄積とそれへの決意であつたのに対して、新しい文明の構造が全く別の姿を露呈してきていることであると思う。何年か

前のこと、日本から来られたある哲学の教授をソルボンヌのある哲

の老大家のところへ御案内したことがあったが、話題が西洋とアジアの思想上の相違ということに及んだ時、このフランスの哲学教授は、ヨーロッパ思想の枢軸は、ガリレイ以来の自然科学の建設をめぐって、展開する、という意味のことを言われ、そこにアジアの思想との最大の相違を見ておられるようであった。これは常識的な何でもないことのようにあるが、**D**、それはヨーロッパとアジアとの思想構造の相違ということにとどまらず、いな、根本的には近代から現代へかけての思想を過去全体の思想から区別することになるであろう。それは更に言いかえると、経験の分野に、実験科学の操作による成果が大きい有効性をもって侵入して来た、ということと、更に換言すると、経験と計量装置の操作とが、主客の位置を転倒しはじめた、とも言えるであろう。

● 語句注 (数字は行数を示す)

12 渦中 渦の中。ある事態の真つただ中。

21 ソルボンヌ フランスの大学。

24 枢軸 〓ものごとの大事などころ。

32 主客 〓主なものとして付けたりと。主となるものと従となるもの。

(1) **A** **く** **D** に入れる適切な語句を次の中から選び、**「」**に記号で答えなさい。

- (ア) しかし (イ) また (ウ) 考えてみると (エ) それとも  
(オ) 言うまでもなく

A ( ) B ( ) C ( ) D ( )

接続する語句の中には、(ウ)の「考えてみると」や(オ)の「言うまでもなく」のような連語句もありますよ。

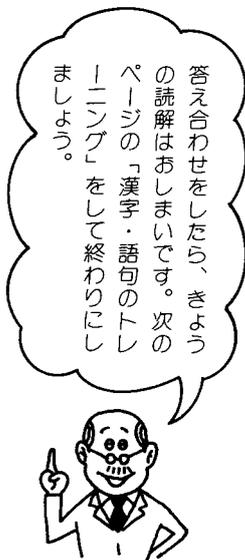
☆☆次の問題もやってみよう！☆☆

(2) 線ア「そういう意味での」の「そういう」が指している内容を本文中から抜き出し、最初と最後の五字をそれぞれ書きなさい。

(句読点を除く。)


(3) 線イの「全く別の姿を露呈してきている」とは、具体的には「経験と計量装置の操作とが、主客の位置を転倒しはじめた」(32行め)ということですが、これをくわしく説明するとすれば、次のどちらが適切ですか。

- (ア) 近代以前の思想は経験の主としてきたが、現代では実験科学の操作を主とする方向へ変わってきた。  
(イ) 近代以前では、思想の優秀性は経験の多少によって判断されたが、現代では、科学的計量装置の操作が上手か下手かによって判断されるようになった。



1 次の線の読みを示しなさい。(□にチェックしなさい。)

- (1) 何度も練習を繰り返して、ようやくその技術を会得した。
- (2) 彼は自分の意志で、その申し出を拒んだ。
- (3) 日本の政党は保守と革新に分けられる。
- (4) 月に人類が到達できるなんて、驚異的なできごとだ。
- (5) 銀行に初めて口座を作ることにした。
- (6) 結婚は新たな人生の門出である。
- (7) 通常日本人は、食事にあまり時間をかけない。
- (8) 宇宙は際限もなく広い。
- (9) この二つの表現の微妙な違いがわかりますか。
- (10) 彼に仕事を頼むと、完璧に仕上げてくる。

2 次の線のことをばを漢字で示しなさい。(□にチェックしなさい。)

- (1) 交通事故のせい者はあとを絶たない。
- (2) コンサートが始まったときから、会場はいような興奮に包まれた。
- (3) 無差別な殺人は、市民のぞうおの的となった。
- (4) 父は子どもの意見もそんちようして聞いてくれるので好きだ。
- (5) 実験室からの出火をそうていして、避難訓練を行った。
- (6) 彼の物理学におけるぎようせきは、海外でも高く評価されている。
- (7) 日本の石油の需要は、そのほとんどもをゆに頼っている。
- (8) 高校生になったのに、母はまだ私を子どもあつかいする。
- (9) この数日のいじょうな寒さで、祖父は風邪をひいてしまった。
- (10) この店の評判がよいのは、店員が客にいていねいにおうせつするからだ。
- (11) 漢文の素養のある彼の文章は、とてもかくちようが高い。
- (12) 兄は今年からかんちように勤めることになった。
- (13) 私は心が狭いので、かんだいな人にあこがれる。
- (14) 勉強でも仕事でも、きほんをしつかり押さえる必要がある。
- (15) その男も、今度の事件に関係があるとしてぎわくがもたれている。
- (16) 彼は事実をオーバーにきやくしよくして私たちに語った。
- (17) 増大した失業者をきゆうさいするために、緊急の措置がとられた。

- (18) 両選手のけいかな動きは、試合終了まで衰えなかった。
- (19) 最終戦で、勝ち残った強いチームどうしがげきとつした。
- (20) あまりにも手口がごうみようだったので、だれもがだまされた。
- (21) いろいろなものにきようみをもつことは大切なことである。
- (22) 負傷した隊長に代わって、若い下士官が部隊のしきをとった。
- (23) この国は、石炭、石油などの地下しげんに恵まれている。
- (24) 彼のじゆんばくな人からは、多くの人を引き付けた。
- (25) あらゆる悪条件をしようちしたうえで、彼女は実行に踏み切った。

3 次のかたかなの部分の漢字(常用漢字表にある字体)に改めると、(A)総画数は何画になりますか、(B)またその部首名は何ですか。それぞれ後から選りなさい。

- (1) ショろんに既述した
- (2) しょうコウ状態に入った
- (3) センぶく期間十四日
- (4) えんショウのにおい
- (5) 罪のセイさん

(A)	
(ア) 8 以下	(イ) 9
(カ) 14 以下	(ウ) 10
(ク) 15	(エ) 11
(ケ) 16 以上	(オ) 12 以下

(B)	
(a) てへん	(b) いしへん
(c) いとへん	(d) ごんべん
(e) しんによう	(f) まだれ
(g) くさかんむり	(h) さんずい

- (1) (5)の意味を次にあげておきます。参考にしましょう。
- (1) 「シヨ論」→本論に入る前に述べたおおよその議論。序論。
  - (2) 「小コウ」→悪かった病状が少しよくなること。ものごとの悪い状態がしばらくおさまること。
  - (3) 「セン伏期間」→病気に感染してから発病するまでの期間。
  - (4) 「煙シヨウ」→火薬の別称。
  - (5) 「セイ算」→貸し借りを計算して、その支払いを済ませること。(転じて)これまでのよくない関係・状態に結末をつけること。

〈総合〉読解の過程をふんで

毎月、第5日は、総合的読解の学習日となっています。

第2日の最初のページにあるように、論理的文章の読解の過程には、**文脈の把握**→**文章構成の把握**→**要旨の把握**という三つの大きなポイントがあります。そして、第2日から第4日までは、文脈の把握に焦点を絞って、その中のいくつかの要素を学習しました。

さて、きょうは、その学習の成果も生かしながら、読解の過程を一つ一つふんで、テキストを総合的に読んでいこうというわけです。

トレーニングは大きく三つに分かれています。最初は文脈把握のトレーニング、次が文章構成の把握、要旨の把握のトレーニングです。ここまでで、論理的文章の読解の過程はすべて満たされるわけですが、最後にもう一つトレーニングがあり、ここでは筆者の考えや意図について記述式の設問を扱います。

では、さっそく学習に入りましょう。

きょうのテキストは、唐木順三の『詩とデカダンス』の一節で、九州大で出題されました。

まず、じっくりとテキストを読みましょう。



- きょうのテキスト●
- ① ラジオやテレビにいわゆる教養番組が多くなった。また日本や諸外国の文物風土を紹介し、現状を分析批判するような現地報告の番組も多くなった。それらはそれぞれにおもしろい。おもしろい以上に、ときにわれわれに疑問を投げかけてくる。ところで残念ながら電波ジャーナリズムというものは、疑問を自分で考えてみたいから、5ちよつと待つてくれといつても待つてくれない。電波の機械的なテンプをもつて、さつさと歩み去つてしまふ。われわれは考えることをやめて、眼や耳でついでゆかなければ前後の脈絡を失つてしまふ。
  - ② 十五分か三十分の番組が終わると、とつきにとんでもないコマーシャルが聞こえてきたり、何の関係もない音楽になったり、さては白菜、トマトの百グラム当たりの今日の値段になったり、美容体操になったりする。見るともなく、聞くともなくそれらを見、聞きしているうちに、さきに疑問に思い、考えてみたいと思つたことも、どこかに消えて、跡形もなくなつてしまふ。
  - ③ このことの人間に及ぼす影響はかなり大きい。現代において、人間の生活、生涯が断片化し、瞬間化し、昨日と今日、今年と来年との間の精神のつながりが希薄になつたことが言われている。これにはいろいろな原因があろう。たとえば仕事が多業化し、専門化し、機械化して、人間の経験、過去の蓄積を不用にするという傾向が強

まってきたということもその原因のひとつであろう。さらにいえば、その人の個性を必要としないのみか、かえって個性を邪魔ものとするような職場、仕事が多くなってきた。機械の番人、また追隨者になることが要求せられるということもある。経験も個性もいらないということは、人間から誰々でなければならぬということ奪い、アノニムな存在、すなわち誰でもかまわない誰かですむということである。そういうことを長年にわたってやっておれば、人間の断片化は当然に起こってくるだろう。

④ここでわたしは言葉のことを考える。ラジオやテレビの言葉は、待つてくれといつても待つてくれぬ。そのとき言葉はわたしに関係なく流れてしまう。待つてくれという場合、前後の脈絡が自分の頭の中でつきかねてのそういうこともある。また果たしてそこで言われていることが事実であり、本当だろうかと思うときのこともある。さらにはそこに言われていることを自分の納得するまで考えてみたいということもある。そういうさまざまな色合を含んだ待つてくれを無視して流れてゆく言葉とは何であろうか。ラジオやテレビのマイクの前でしゃべっている当人には意味もあり、ときに背景のある言葉であっても、機械を通して流れ出てしまった言葉は、その背景を失って、責任のない言葉になってしまう。ここに無責任というものは、聴取者の心理にも個性にも、そのときの状態にもかかわりを持たないということである。

⑤ラジオ・テレビはもちろん便利なもの、ときに有益でもあるが、それに寄りかかき、閑をそれでつぶしてばかりいたのでは、人間は人間らしくなくなってしまう。断片化にいいよ拍車をかけてしまう。ひとつひとつの言葉において、その言葉の出現してきた深い背

景を思い、その言葉の負っている歴史を思い、言葉の味わいを味わうということが消失するとき、言葉が石ころとなって、無味乾燥のままごろごろしている精神の沙漠が出現するだろう。

⑥生きた言葉は本来は海面にあらわれた氷山の一角のようなもので、海面下にはそれを浮かしている巨大なかくれた部分がある。言葉がそういうものであるということを知らしてくれるのが、すぐれた古典、文学的、宗教的古典である。その上、書物はラジオ・テレビと違つて、いくらでも待つてくれる。一時間でも二時間でも、ときには五年十年と待つていてくれる。理解がとどかなければ、本を開いたまま、半日を考えてもよい。その考える領域、資料の蓄積ができてということが、奥行ができるということである。また一度開いた本が、そのときの己が心に合わず、そつともとの書棚にもどしておいたのに、五年十年と経つた後、その書物の方から、自分を招きよせ、呼びかけてきてくれるという経験を、少しものを考えつづける人ならば、誰しも一度や二度は味わっているだろう。書物との対話、著者との会話ができるといふこと、時空を超えて邂逅ができるということの果報は、それを知らない人には伝えがたい。

⑦ところで「待つ」ということにはかなりの緊張と心の修練が必要である。たえず自分の問題を考えつづけているという状態が必要なのだが、今日来るか、明日来るかという待ち方は、実は本当に待つてではない。むずかしくいえば、待たないように待つてことが、待つてことの極意である。緊張して待機するというのと違つて、いわば等閑に待つてのである。時が熟し、時節到来するのを、待たないように待つてというのが、修行というものである。訪れるもの、呼びかけ来るものは、いつ来るかわからない。そのいつ訪れるかわからない



③ 「このことの人間に及ぼす影響はかなり大きい。」(15行め)とありますが、その影響が具体的に述べられているのは何段落ですか。次の「」に、その段落番号を書きなさい。

( ) ( ) 段落

「このこと」とは、①段落の後半から②段落で述べられていた内容を指しています。ひと言で言えば、「ラジオやテレビは、人間の側の疑問を待ってくれないということ」ですが、それは人間に対して、具体的にどのような影響を及ぼすのでしょうか。すぐあとには述べられていませんよ。ずっと文脈をたどってみましょう。

④ 「これにはいろいろな原因があるう」(17行め)について、次の問いに答えなさい。

(1) 「これ」とは何を指していますか。本文に——線を引いて答えなさい。

(2) 「いろいろな原因」について、筆者は次に具体例をあげていますが、その部分の最後の五字を書き抜きなさい。(句読点は除く。)


⑤ 「すなわち」(25行め)は接続する語句ですが、前後のどのようなことがらを接続していますか。それぞれ、適切な部分を書き抜いて答えなさい。

(1) 前 ( )  
(2) 後 ( )

「すなわち」は、接続関係の種類でいうと、「説明」(前のことから)についての説明や補いを表す。になりますね。

⑥ 「そういうこと」(26行め)とは何を指していますか。次の中から最も適切なものを選びなさい。

- (ア) 仕事が多業化し、専門化し、機械化してきたこと。
- (イ) 経験も個性もいらぬということ。
- (ウ) 経験も個性もいらぬ、誰でもかまわない誰かですむような仕事。

前後の文脈をおさえて、うまくつながるものを選びましょう。

⑦ 「そういうさまざまな色合を含んだ待ってくれ」(34行め)とは、具体的にどのような「待ってくれ」ですか。本文に三か所——線を引いて答えなさい。(ただし、次のように、下に「待ってくれ」がうまく続くように引くこと。)

(待ってくれ)。

⑧ 筆者が「責任のない言葉」(38行め)という表現で意味しているのは、どのような言葉のことですか。次の「」に、本文から適切な部分を選んで書き抜きなさい。

言葉。

⑨ ③段落の最初に、「このことの人間に及ぼす影響はかなり大きい。」とありましたが、③④⑤段落を参考にして、それを具体的に次のようにまとめました。後から適切な語句を選んで「」に書きなさい。また「」には、適切な段落番号を書きなさい。

「このこと(ラジオやテレビは、人間の側の疑問を待たずとれないこと)は、①「」について考えれば、②「」段落で述べられたように、ラジオやテレビの言葉が、③「」の心理・個性・状態などに一切かわりを持たない④「」な言葉だということである。

だから、ラジオやテレビに寄りかかり、閑をそれでつぶしてばかりいると、ひとつひとつの言葉の⑤「」や歴史を思い、その味わいを味わうということが⑥「」してしまい、そのとき人間の⑦「」は、比喩的に表現すると、言葉が⑧「」のようになって、無味乾燥のままごろごろしている⑨「」のような状態となってしまう。それはつまり、人間が人間らしくなくなってしまうということである。

結局、「このこと」は、人間が人間らしくなくなるといふ悪影響、

言いかえれば、⑩「」段落で述べられていた「人間の⑪」に、いよいよ⑫「」をかけてしまうという悪影響を及ぼすことになるのである。

消失	聴取者	精神	言葉	石ころ
背景	断片化	沙漠	拍車	無責任

「このこと」の人間に及ぼす影響は、具体的には⑤段落で述べられていますが、③④⑤段落で述べられている内容が、どのような形でつながり合っているかを、正確におさえてください。

ここで、ここまでの答え合わせをして、解説をよく読んでおきましょう。

⑩ 筆者は、「(生きた)言葉」(48行め)を、「海面にあらわれた氷山の一角」にたとえています。では、「それを浮かしている巨大なかくれた部分」(49行め)とは、何をたとえたものですか。本文中から、できるだけわかりやすい形で二つ書き抜きなさい。

「生きた言葉」の「生きた」とは、その前の「言葉が石ころとなって、無味乾燥のままごろごろしている」(46行め)状態、つまり言葉が死んでいる状態を、否定する意味で使われています。ですから、その「生きた」を取って、「言葉は本来は……」と続けても文意は変わりません。

11 筆者は、「すぐれた古典」(50行め)が、どういうことを「知らしてくる」(50行め)と言いたいのですか。次の中から適切なものを選びなさい。

- (ア) 言葉には深い背景や歴史があり、本来は味わいのあるものであるということ。
- (イ) ラジオやテレビに寄りかかっていると、人間が人間らしくなくなってしまうということ。
- (ウ) ラジオやテレビに寄りかかっていると、言葉が無味乾燥むみかんそうの石ころのようになってしまうということ。

12 「時空を超えて遡返さうへんができる」(60行め)という表現について、次の問いに答えなさい。

(1) 「時空を超えて」を、⑥段落中の別の表現で言い表すとすれば、どの部分が適切ですか。九字で書き抜きなさい。(句読点を除く。)


(2) 「遡返ができる」とは、「書物」(59行め)や「著者」(60行め)に遡返ができるということですが。それが可能なのは、書物がテレビやラジオと比較ひかくして、どのような相違点さういてんを持っているからですか。十文字で書き抜きなさい。(句読点を除く。)


「時空を超えて(書物や著者と)遡返ができる」というのは、前のある部分を要約した表現です。それはどの部分でしょうか。「一度開いた本が、自分を引きよせ、呼びかけてきてくれる」(55〜58行め)という部分ですね。

13 ⑦段落では、「ところで」と話題の方向を転換てんかんしていますが、途中からまた前の話題に戻もどっています。それはどこからかを、最初の五字を書き抜いて答えなさい。(句読点を除く。)


14 「待つ」ということに必要な「かなりの緊張と心の修練」(62行め)について、そのあと、具体的に述べられています。それぞれ指示にしたがって、適切な個所を書き抜きなさい。

(1) 「かなりの緊張」を具体的に述べた部分。

--

(2) 「心の修練」について、最もくわしく述べた一文。

--

「心の修練」については、さまざまな表現で繰り返し述べられています。最も適切な一文を探しましょう。





確認テスト

今月の「現代文」では、詩と論理的文章、それに漢字やことばの学習をしました。きょうは確認テストをして、それがあなたの実力としてどのくらい身についたか試してみましよう。

詩は一つ一つの表現に注意して、十分味わってください。また、論理的文章では、今月学習したように、語句の意味、指示する語句、文や語句の接続関係などをしっかりおさえて読みましよう。

● 古文の語釈・通釈は、解答中で示してあります。

● 答え合わせをするときは、解説や採点をよく読んで確かめなさい。

● 始める時刻を確かめて、さあ、スタートです。

時 間
50分
得 点
100

解答は107ページ

① 次にあげるのは、千家元磨の詩「雁」とその解説です。よく読んで後の問いに答えなさい。

〔北九州大〕

暖い静かな夕方の空を

百羽ばかりの雁が

一列になって飛んで行く

天も地も動かぬ静かな景色の中を、不思議に黙って

同じ様に一つ一つセッセと羽を動かして  
黒い列をつくって

静かに音も立てずに横切つてゆく  
側へ行つたら翅の音が騒がしいのだろう

息切れがして疲れて居るのもあるのだろう、  
だが地上にはそれは聞えない

彼等はみんなが黙って、心でいたわり合い助け合つて飛んでゆく。  
前のものが後になり、後ろの者が前になり

心が心を助けて、セッセセッセと  
勇ましく飛んで行く。

その中には親子もあろう。兄弟姉妹も友人もあるにちがいない  
この空気も柔いで静かな風のない夕方の空を選んで、

一団になって飛んで行く  
暖い一団の心よ。

天も地も動かぬ静かさの中を汝許りが動いてゆく  
黙ってすてきな早さで

見て居る内に通り返してしまふ。

やわらかな空気の春の暮方の空。視野いっぱい一列の雁の群が

「音も立てずに横切つてゆく」。空間に描かれた A・B のこの不思議なバランスは、まるで一枚の絵のようである。千家元麿はわかいころから油絵を描いていたので、それによってやしなわれた造型感覚が、こういう構図となつてあらわれたのかもしれない。「セッセと羽を動かして、黒い列をつくつて」と、日常語にひとしい言葉で綴つているため、いかにも無雑作のようにみえるけれども、この構図の取り方はかならずしも無雑作ではない。

この詩をはじめて読んだとき、私は幼いころうたつた童唄（わらべうた）を思い出した。雁を対象にした童唄はひろい地域に分布しているが、いちばんよくうたわれるのは「雁 雁 わたれ 大きな雁は先に 小さな雁は後に 仲よく渡れ」という唄だ。千家元麿の「雁」の発想はこれに似ている。感動に発した呼びかけという点では童唄とほとんど同じである。作者はそのとき東京の街のどこかで、偶然に夕暮の空をわたる雁をみた。そして子供たちが童唄をうたうように、それを一篇の詩に綴つた。

「百羽ばかり」というとかなり大きな集団だが、その群に作者はいろいろ呼びかけた。その感動をとおして、鳥のいのちから生命感的なものを汲みとつた。またこの詩ぜんたいが動的な感じをあたえ、ることや、その動的な感じが作者の呼吸と溶けあっていることなど、そういうところからも生命感的なものを感じさせる。

その雁の一行はどこをめざして羽搏くのか。候鳥は本能的にその行手を知っているが、「百羽ばかりの雁が 一行になつて飛んで行く」「暖い静かな夕方の空を」おもうと、私どももどこか分らないとおい空への C にさそわれる。

●語句注（数字は行数を示す）

19 汝（なんじ）おまえ。

26 造型感覚―絵をかいいたり彫刻をつくつたりするのに必要な、形や配置に対する感覚。

26 構図―芸術作品の中の、いろいろな要素の配置、組み立て。

39 生命感―いかにも生きていて、命をもつて息づいているという感じ。

「生命感的なもの」とは、生命感のようなものという意味。

43 候鳥―わたりどり。

(1) 千家元麿の「雁」は、形式上、次の(ア)(イ)(ウ)のどれにあたりますか。適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。(2点)

- (ア) 文語定型詩 (イ) 口語自由詩 (ウ) 散文詩

(2) 「雁」の詩に使われていることばの大部分は日常語ですが、日常にはけつして使われないことば（代名詞）が一つだけ含まれています。その代名詞を書き抜きなさい。(3点)

(3) 雁の羽の動きを表す擬態語が二か所で使われています。それぞれを、詩の中から副詞の形で書き抜きなさい。(各2点計4点)

〔 〕

〔 〕

〔 〕

(4) 4行め、5行め、6行めには、歯切れのよい動的な感じを出すために、ことばのくふうがされています。各行の終わり方に注意し、どんなくふうであるか、簡潔に述べなさい。(8点)

(5) この詩の前段1〜7行めと、8行め以後とは、作者の、雁の描き方が違ってきます。それぞれの部分での、作者の描写態度を簡潔に説明しなさい。(各三十字以内) (各8点計16点)

(ア) 1行め〜7行め


(イ) 8行め以後


(6) A・Bに入れる適切な漢字を次の中から一字ずつ選び、それぞれ○で囲みなさい。(4点)

A || 明・静・寒

B || 動・暗・暖

(7) 25行めの「それ」は、どういうことを指していますか。本文中から八字で書き抜いて答えなさい。(4点)


(8) 「子供たちが童唄をうたうように、それを一篇の詩に綴った。」(36行め)とありますが、これはどんな意味ですか。次の中から最も適切なものを選びなさい。(6点)

(ア) 子供たちが童唄をうたうときのような無邪気な心で、作者はこの詩を綴った。

(イ) 子供たちが雁をみて心を動かし、童唄をうたうように、作者も雁をみて感動し、この詩を綴った。

(ウ) 作者は、子供たちにうたわせるための童唄として、この詩を綴った。

(9) 「『百羽ばかり』というとかなり大きな集団だが、その群に作者はいろいろに呼びかけた。」(38行め)とあります。この「集団だが」の「が」と同じ用法の「が」を含む文を、次の中から選びなさい。(5点)

- (ア) 私は山田君をよく知っているが、田中君のことは知らない。
- (イ) 私は山田君をよく知っているが、彼はたいへん正直な男だ。
- (ウ) 私は山田君をよく知っているが、彼は私のことを知らない。

(10) 39行めに「その感動をとおして」とありますが、どんなとき、だれの感動ですか。簡潔にまとめなさい。(二十字以内) (5点)

(11) 「その感動をとおして、鳥のいのちから生命感的なものを汲みとった。」(39行め)という文の主語は何(だれ)ですか。本文中の二字で答えなさい。(3点)

(12) 「生命感的なもの」(39行め)が、生命感的でないものと対比されて、特に強く表現されている一行が詩の中にあります。その一行を書き抜きなさい。(6点)

(13) 40・41行めの「動的な感じ」は、羽の動きを表す擬態語の音や、4〜6行めのことばのくふうによって表現されていますが、このほかに作者は、ある一つの動詞を行の終わりで何度も使うことによって「動的な感じ」を出しています。その動詞を、この詩で使われている二とおりの表記法で書きなさい。(4点)

(14) 41行めに「動的な感じが作者の呼吸と溶けあっている」とあります。詩の中で、「作者の呼吸」は、具体的にどんな形で表れていますか。次のうちから最も適切なものを選びなさい。(4点)

- (ア) 読みにくい文語を避けて、やさしい日常語だけが使われている。
- (イ) 短い文だけの組み合わせによって詩が作られている。
- (ウ) 各行の長さが変化に富んでおり、句読点の打ち方がくふうされている。

(15) Cに入れる最も適切なことばを、次の中から選び、記号を○で囲みなさい。(6点)

- (ア) 幻想
- (イ) 虚無
- (ウ) 郷愁
- (エ) 悲哀
- (オ) 想像

2 次の——線の漢字の読みを、それぞれ後の「」に書きなさい。(各1点計5点)

- (1) 大雨が降り続き、河川が氾濫した。
- (2) 春には春の、冬には冬の風情というものがある。
- (3) 何度も練習を繰り返し、ようやくその技術を会得した。
- (4) 政府が懸念したとおり、米国側はわが国の要求を拒否した。
- (5) 彼は自分の意志で、その申し出を拒んだ。

3 次の——線のことばを、後の「」にそれぞれ漢字で書きなさい。

(各1点計12点)

- (1) 自分の癖は、他人にしてきされて初めて気づくことが多い。
- (2) 彼は自然科学の分野で、目覚ましいいきようせきをあげた。
- (3) その議案は、あつとう的多数で可決された。
- (4) 彼女はクラスの全員からしたわれている。
- (5) どう考えても、その処置にはなつとくできない。
- (6) ある国の飛行機が、日本のりよういき内に無断で侵入した。
- (7) 彼は鋭いどうさつ力で、そのトリックを見破った。
- (8) 友人の援助で、最悪の事態だけはまぬかれることができた。
- (9) 交通事故のぎせい者はあとを絶たない。
- (10) 工場の方角から、いような臭気が漂ってきた。
- (11) 彼は、ぞうおに満ちたまなざしで敵をにらんだ。
- (12) もつと他人の意見をそんちようしなさい。

(9)	(5)	(1)
_____	_____	_____
(10)	(6)	(2)
_____	_____	_____
(11)	(7)	(3)
_____	_____	_____
(12)	(8)	(4)
_____	_____	_____

4 次のかたかなの部分を漢字(常用漢字表にある字体)に改めると、

(A)総画数は何画になりますか、(B)また、その部首名は何ですか。それ  
 ぞれ後から選び、「」に記号で答えなさい。(各1点計3点)

- (1) 社会保険料のコウじよ (A) \_\_\_\_\_ (B) \_\_\_\_\_

(2) 新聞のシュクさつ版 (A) \_\_\_\_\_ (B) \_\_\_\_\_

(3) 罪のセイさん (A) \_\_\_\_\_ (B) \_\_\_\_\_

(A)	(ア)	8 以下
(B)	(カ)	14 ~ 15
(A)	(イ)	9
(B)	(キ)	16 以上
(A)	(ク)	10
(B)	(ケ)	11
(A)	(コ)	12 ~ 13
(B)	(カ)	さんずい

- (e) いとへん (f) しんによう (g) こめへん

古  
典

---

# 〈宇治拾遺物語〉児のかいもちひするに空寝したること

古きを知って、新しきを知る——ということわざがありますね。高校

での古文の学習もこれと同じです。「古き」を学んで、自分なりの「新しき」ものをつかむことがだいじですよ。

きょうは、古文の学習のはじめとして、「宇治拾遺物語」の中の一節

## ● 古語の意味を覚えよう ●

▽古語や文語文を音読しながら、「」に古語の意味を書きこんでいきましょう。

① つれづれ【徒然】 (名) 手持ちぶさた。退屈。

例 僧たち、宵のつれづれに、(宇治拾遺物語・巻一ノ十二)

訳 僧たちが、宵の「」しのぎに、

② さだめて【定めて】 (副) きつと。さだめし。

例 定めて驚かさんずらんと、(宇治拾遺物語・巻一ノ十二)

訳 「」(だれかがわたしを) 起こしてくれるだろうと、

③ おどろかす【驚かす】 (動四) 起こす。目をさまさせる。

例 定めて驚かさんずらんと、(宇治拾遺物語・巻一ノ十二)

訳 きつと(だれかがわたしを)「」てくれるだろうと、

▼ほかに、「びっくりさせる」という意味でも使われる。

を読んでみます。まず、基本的な古語の学習から始めましょう。

最初が肝心！はりきって学習していきましょう。



④ ねんず【念ず】 (動サ変) がまんする。

例 いま一声呼ばれていらへんと、念じて寝たるほどに、

(宇治拾遺物語・巻一ノ十二)

訳 もう一声呼ばれて返事をしようと、「」て寝ていたところ、

▼「一心に祈る」「祈願する」の意味でもよく使われる語である。

⑤ な……そ (連語) ……するな。……してはいけない。

例 な起こし奉りそ。(宇治拾遺物語・巻一ノ十二)

訳 お起こし申しあげる「」。

▼「な……そ」は、禁止の表現で、「な」と「そ」には含まれた部分の動作などを強く否定するはたらきをする。

⑥ わびし【侘し】 (形シク) つまらない。残念だ。

例 あな、わびしと思ひて、(宇治拾遺物語・巻一ノ十二)

訳 ああ、「」と思つて、

▼「さびしい」とか、「つらい」「苦しい」の意味もある。

1 次の古語を音読しながら、その意味を後から選んで書きなさい。

- (1) つれづれ ( )  
 (2) 定めて ( )  
 (3) 驚かす ( )  
 (4) 念ず ( )  
 (5) な……そ ( )  
 (6) わびし ( )

●がまんする。 ●手持ちぶさた。 退屈。 ●つまらない。 残念だ。  
 ●きつと。 さだめし。 ●……するな。 ……してはいけない。  
 ●起こす。 目を覚まさせる。

2 太字の語に注意しながら、次の(1)～(6)の口語訳を完成させなさい。

- (1) つれづれわぶる人はいかなる心ならん。(徒然草・七五段)  
 訳( ) ( )をつらく思う人はどのような心(の持ち主)であろうか。
- (2) この社の獅子ししの立てられやう、定めて慣なひある事にはべらむ。(徒然草・三三六段)  
 訳この神社のこま犬こまぬいのすえ方は、( ) ( )いわれのある事なのでしょう。
- (3) 寝たる人を、心なく驚おどかすものか。(紫式部日記)  
 訳寝ている人を、思いやりなく( ) ( )ものだなあ。
- (4) すべてあらぬ世を念ねんじすぐしつづつ。(万葉記)  
 訳すべてのことが思うようにならない世の中を( ) ( )しながら、
- (5) 声高こゑたかになのたまひそ。(竹取物語)

訳大声おこゑでお言いなさる( ) ( )。

(6) 童わらわの名は例のやうなるはわびしとて、(堤中納言物語)

訳子どもわらわの名はありふれたのは( ) ( )と言って、

重要な古語は、出てくるたびに着実に覚えていくことが大切です。

さて、いよいよきょうのテキストに入るわけですが、その前に「宇治拾遺物語」について、簡単に説明しておきましょう。

◆「宇治拾遺物語」と庶民の生活

「宇治拾遺物語」は、鎌倉時代前期に成立した説話集である。

説話集とは、説話——民衆の間で語りつがれてきた話——を集めた書物のことであり、この「宇治拾遺物語」には、百九十余編の説話が収められている。それらの説話は、民衆が語りついできたものだけに、当時の人々の生活ぶりや、感情をよく表しており、興味深いものが多い。

例えば、きょうのテキストの話なども、今から七、八百年前の話ではあるが、子どもの心は今も昔も変わっていないことがわかって、おもしろいはずである。このように、説話とは、歴史の教科書ではわからない庶民の姿を私たちに生き生きと伝えてくれる貴重な遺産なのである。

幼いころ「こぶとりじいさん」や「雀すずめの恩返し」などの話を聞かされたことを覚えていた人も多いだろう。じつは、それらの「昔話」も、この「宇治拾遺物語」に収められているのである。

このような説話を集めた説話集は数多く現存しているが、中でもこの「宇治拾遺物語」は、説話内容の豊かさや、当時の人々のことばづかいがよくわかる点などで、重要なものとされている。

編者は、源隆国みなもとのおたかくにであるともいわれているが、はっきりとはしていない。この人は、「今昔物語集」(平安時代に成立した説話集)の編者であるともいわれている人で、この二つの説話集には、共通した話が八十余りある点も、よく知られていることである。

●●きょうのテキスト●●

\* これも今は昔、比叡の山に児ありけり。僧たち、宵のつれづれに、  
 1 「いざ、かいもちひせん。」と言ひけるを、この児、心寄せに聞きけ  
 2 り。さりとて、し出ださんを待ちて寝ざらんもわろかりなんと思ひ  
 3 て、片方に寄りて、寝たるよしにて、出でくるを待ちけるに、既に  
 4 し出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。  
 5 この児、定めて驚かさんずらんと、待ちゐるたるに、僧の、「もの申し  
 6 候はん。驚かせ給へ。」と言ふを、うれしとは思へども、ただ一度に  
 7 いらへんも、待ちけるかともぞ思ふとて、いま一声呼ばれていらへ  
 8 んと、念じて寝たるほどに、「や、な起こし奉りそ。幼き人は、寝入  
 9 り給ひにけり。」と言ふ声のしければ、あな、わびしと思ひて、いま  
 10 一度起こせかしと、思ひ寝に聞けば、ひしひしと、ただ食ひに食ふ  
 11 音のしければ、すべなくて、無期ののちに、「えい。」といらへたり  
 12 ければ、僧たち笑ふこと限りなし。

13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

語釈

上の数字は行数を示す

- 1 これも今は昔 此の話も今となつては昔のことだが。「今は昔」は、説話や古い物語などの書き起こしに使われるきまり文句。
- 1 比叡の山 比叡山延暦寺のこと。京都市の北東、滋賀県との境にある。当時「やま」と言へば、ふつう、「比叡山延暦寺」を指した。
- 1 児 少年の意。寺で預かつて、学問させたり、給仕に使つたりした。貴族や武士の子弟が多かつた。
- 1 宵 夜になつて間もないころ。古代の夜は、夕↓宵↓夜↓暁↓朝の順に進行した。1 つれづれ 手持ちぶさた。することがなくて退屈なこと。
- 2 かいもちひせん かいもちひを作ろう。「かいもちひ」は、米の粉などを固めてゆでた、だんごのようなものといわれる。あるいは、そばがきともいわれる。一般には、ぼたもちのようなものと理解されている。当時のごちそうの一つだつた。「せん」は、しよう、という意。ここでは、作ろう、の意となる。

- 2 心寄せに 期待に胸をときめかせて。本来は、思いを寄せる、ということ。ここは、かいもちひのことを聞いて、胸がわくわくしている様子。
- 3 さりとて とはいふものの。そうはいつても。
- 3 し出ださんを 僧たちがかいもちひを) 作り出すのを。
- 3 わろかりなん 良くないだろう。「わろし」は、ほかと比較すると悪い、という意。
- 4 片方 (部屋の) 片隅。傍ら。片つ方の略であろう。
- 4 寝たるよし 寝ているふり。「よし」には、口実、手がかり、体裁、その他の意がある。ここは、体裁の意で、「ふり」と訳す。
- 5 ひしめき合ひたり 騒ぎ合っている。「ひしめく」は、擬態語「ひし」と接尾語「めく」からなる。「ひし」は、密着するさまを表している。
- 6 定めて ぎつと。さだめし。
- 6 驚かさんずらん (だれかがわたしを) 起こしてくれるだろう。「驚く」は、ぼんやりしていた意識がはつきりする、ということ。あるいは、眠りから覚めること。「驚かす」はしたがって、起こす、という意になる。
- 6 もの申し候はん 丁寧な呼びかけのことば。「ものを申しあげましょう」ということ。ここでは「もしもし」と訳す。
- 7 驚かせ給へ お起きになつてください。「せ」「給へ」は、両方とも尊敬を表す。児は、寺でだいにされていたので、尊敬の表現が使われている。
- 8 いらへんも 「いらふ」で、応答する、返事をする。「いらへんも」は、答えてしまふのも、ということ。「ん」が婉曲な表現(柔らかな表現)になつている。
- 8 待ちけるかともぞ思ふとて 「(起こすのを) 待ちかねていたか」と(相手)思うかも知れないと思つて。
- 9 念じて じつとがまんして。「念じて」には、ほかに、思いをこらす・念じる、という意がある。
- 9 な起こし奉りそ お起こし申しあげるな。「な…そ」は、禁止の表現。「奉る」は謙讓を表す。
- 10 あな、わびし ああ、つまらない。ああ、残念だ。
- 11 起こせかし どうか起こしておくれ。「かし」は強めの表現。
- 11 思ひ寝に 思いながら寝(たふりをし)て。
- 11 ひしひしと むしやむしやと。「ひしひし」は擬音語。
- 12 すべなくて どうしようもなく。「すべ」は、しかた・手段・方法の意。
- 12 無期ののち ひどく時間がたつてから。「無期」は限りがないという意だが、ここでは、誇張して使われている。

—— さあ、いよいよトレーニングに入りましたよ。

## トレーニング

解答は110ページ

③ 「きょうのテキスト」を、一回、ゆつくりと音読しなさい。

—— 古文は、まず読みなれることが大切です。恥ずかしがらずに声に出して読みましょう。

④ 次の語のテキストでの読みを、現代かなづかいで書きなさい。

(1) 児 (1) 思ひて

(3) 待ちゐたる (4) 候はん

(5) 給へ (6) 思ふ

(7) 一声 (8) 奉り

—— 「歴史的かなづかい」ではなく、「現代かなづかい」で書くのですよ。

⑤ もう一回、ゆつくりと音読しなさい。

⑥ 次の(1)～(10)の線部を語釈を参考にしながら口語訳しなさい。

(1) これも今は昔、比叡の山に児ありけり。

(2) この児、心寄せに聞きけり。

(3) し出ださんを待ちて寝ざらんもわろかりなと思ひて、

(4) 片方に寄りて、寝たるよしにて、出でくるを待ちけるに、

(5) この児、定めて驚かさんずらんと、待ちゐたるに、

(6) 僧の、もの申し候はん。驚かせ給へ。」と言ふを、うれしとは思へども、

(7) いま一声呼ばれていらへんと、念じて寝たるほどに、

(8) や、な起こし奉りそ。

(9) あな、わびしと思ひて、いま一度起こせかしと、思ひ寝に聞けば、

(10) ただ食ひに食ふ音のしければ、すべなくて、無期ののちに、「えい。」  
 といらへたりければ、

古文には、現代語では耳慣れない表現が多いですね。最初は口語訳するの  
 もたいへんですが、なれてしまえばそれほど苦にはなりません。口語訳する  
 ことが楽しくなればしめたもので、あなたの実力もグンとアップしますよ。  
 それでは、答え合わせをしてから、次の通釈に目をおしておきましょう。

通釈

この話も今となつては昔のことだが、比叡の山に一人の児がいた。(ある夜)僧た  
 ちが宵の退屈のぎに、「さあ、かいてもちひを作ろう。」と言つたのを、この児は、  
 (きつと自分も呼んでくれるだろうと)期待に胸をときめかせて聞いていた。とはい  
 うものの、(僧たちがかいてもちひを)作り出すのを待つて眠らないでいるのも具合  
 が悪かろうと思つて、(部屋の)片隅に寄つて、寝ているふりをして(かいてもちひが)  
 出てくるのを待つていたところ、もうすでに作り上がった様子で、(僧たちが)騒ぎ  
 合っている。

この児は、きつと(だれかがわたしを)起こしてくれるだろうと、待つていると  
 (ある)僧が、「もしもし。お起きになつて下さい。」と言つたのを(聞いて)うれし  
 いとは思つたけれども、ただ一度で返事をするのも、(起こすのを)待ちかねていた  
 かと(相手が)思うかもしれないと思つて、もう一声呼ばれて返事をしようと、(起  
 きたいのを)がまんして寝ていたところ、「やつ、お起こし申しあげな。幼い人は  
 寝入りなさつてしまった。」と言つたので、ああ、残念だと思つて(どうか)  
 もう一度起こしておくれと思ひながら寝て聞いていると、(もう起こそうとするも  
 のもなく)むしやむしやと、ただ食う音(ばかり)がしたので、どうしようもなく  
 なつて、ひどく時間がたつてから、「はい。」と答えたので、僧たちの笑うことはそ  
 れはもう)限りがなかった。

トレーニング

解答は110ページ

それでは、今度はもう少し  
 わしくテキストを読み込んで  
 いきましょう。



7 テキストには、禁止表現になつている部分が一か所あります。その  
 部分を七字で書き抜きなさい。(句読点は除く。)

▼禁止表現「……してはいけない」「……するな」というように、強く否  
 定する表現。

.....

8 テキストの禁止表現の部分を参考にして、次の文の□に、適切な語  
 を書き入れなさい。

(1) 月な見給ひ

月をこらんなさいませぬ。

□

(竹取物語)

(2) 物知らぬこと

物の情けのわからないことをおっしゃいますな。

□

のたまひそ。(竹取物語)

この形の禁止表現は、これからもよく出てきますから、しっかりとマスタ  
 ーしておきましょう。

9 次に——線で示してある部分の主語は、「児」か「僧」か、テキス

トをよく読んで答えなさい。

○ し出ださん<sup>(1)</sup>を待ちて寝ざらん<sup>(2)</sup>もわろかりなと思ひて、(3行め)

(1) \_\_\_\_\_  
(2) \_\_\_\_\_

○ 定めて驚かさ<sup>(3)</sup>んずらんと、待ち<sup>(4)</sup>ゐたるに、(6行め)

(3) \_\_\_\_\_  
(4) \_\_\_\_\_

○ 僧の、「もの申し候<sup>(5)</sup>はん。驚かせ<sup>(6)</sup>給へ。」と言<sup>(6)</sup>ふを、(6行め)

(5) \_\_\_\_\_  
(6) \_\_\_\_\_

○ ただ一度<sup>(7)</sup>にいらへんも、待ち<sup>(8)</sup>けるかともぞ思ふとて、(7行め)

(7) \_\_\_\_\_  
(8) \_\_\_\_\_

○ 思ひ寝<sup>(9)</sup>に聞<sup>(10)</sup>けば、ひしひしと、ただ食<sup>(10)</sup>ひに食<sup>(10)</sup>ふ音のしければ、(11行め)

(9) \_\_\_\_\_  
(10) \_\_\_\_\_

主語を考えるとときは、その部分だけではなく、話の前後の関係や場面の移り変わりを頭に描きながら考えなければいけませんね。わからなくなったら、慌てずに、もう一度ゆっくりと全文を読み直してみましよう。

10 次の表の上段には僧たちの会話や動作をまとめてありますが、それぞれの場面で児が心の中で思っている部分を下段の「」に書き抜いて答えなさい。

僧たちの動作	児の心理
<p>宵<sup>よひ</sup>のつれづれに、 「いぎ、かいもちひせん。」と言ひける 既にし出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。 「もの申し候<sup>(5)</sup>はん。驚かせ<sup>(6)</sup>給へ。」と言ふ</p>	<p>(1) _____ し出ださんを待ちて寝ざらんもわろかりなん (2) _____ うれし (3) _____ あな、わびし (4) _____</p>
<p>「や、な起こし奉<sup>(4)</sup>りそ。幼<sup>(4)</sup>き人は、寝入り給<sup>(4)</sup>ひにけり。」と言ふ</p>	<p>(4) _____</p>

ひしひしと、ただ食ひに食ふ

「えい。」といらへたり

「……と思ふ」「……と言ふ」などの「と」を「引用の」といいます。この「引用の」と(古文では、「……とて」という形もある)の上にある部分が、会話文または心の中で考えている部分になっていることを覚えておきましょう。

さて、ここで7と10を振り返りながら、もう一度「通釈」と対照させましょう。特に10では、児の心理の動きを、よく確かめておきましょうね。

#### ◆こくニア・ラ・カルト／芥川龍之介と説話文学◆

芥川龍之介の「鼻」という小説は、あなたも読んで経験があるだろう。

腸づめのようにブラリとたれさがった長い鼻に悩まされる僧と、彼を嘲笑する人々の様子をとおして、人間の自尊心の愚かさを描いたこの作品は、あまりにも有名である。

ところで、この「鼻」は、実は「今昔物語集」と「宇治拾遺物語」に収められている、鼻の長い僧の説話にヒントを得て作られた作品なのである。

芥川はきつと、この何百年も前の僧の話を読んだとき、僧が自分の長い鼻をなんとか短くしようと四苦八苦する様子に、ニンマリとしたに違いない。外見だけを繕おうとする人間の愚かさは、今も昔も変わらぬものなのだなと思いつながら……。

『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』には、このような人間の心理を鋭く描いた説話が数多く収められている。芥川もその点に注目し、この二つの説話集の中の話を中心に、「鼻」以外にも、「羅生門」「地獄変」などの傑作を残している。



芥川龍之介 (1892~1927)

#### トレーニング

解答は110ページ

さあ、最後のトレーニングで、テキストの内容をさらにくわしく読み取っていくことにしましょう。



11 「この児、心寄せに聞きけり。」(2行め)とありますが、児はどういうことに期待を寄せていたのですか。次の中から選びなさい。

- (ア) かいもちひを自分にも作らせてくれること。
- (イ) 夜おそくまで起きている許可をくれること。
- (ウ) かいもちひを自分にも食べさせてくれること。

12 「し出ださんを待ちて寝ざらんもわろかりなん」(3行め)と児が思ったのはなぜですか。次の中から最も適切なものを選びなさい。

- (ア) 自分にも手伝わせてくれと、催促しているようで心苦しいから。
- (イ) かいもちひ食べたさに起きてきている意地きたなさを悟られるから。
- (ウ) もう夜もおそく、子どもが起きてはいけない時刻だから。

11も12も、問題個所だけを見て考えてはいけませんよ。全文をよく読んで、どういう内容の話かを、まず考えるところから始めましょう。

10なども参考にするとよいですね。

13 「いま一声呼ばれていらへん」(8行め)と、この児が思ったのはなぜですか。その理由を書いた部分をテキストの中から抜き出して答えなさい。

理由の説明は、古文でも現代文でも、問題個所の前かあとの、それほど離れていない所にあるのがふつうでした。

14 「あな、わびし」(10行め)と、この児が思ったのは、どういう理由からですか。次の中から適切なものを選びなさい。

- (ア) 一回だけしか起こしてくれない僧たちの薄情さに腹がたつたから。
- (イ) 自分の空寝を僧たちに見破られて、いじわるをされたから。
- (ウ) ほんとうに寝ていると思われ、かいもちひを食べられそうにならないから。

15 「すべなくて、無期ののちに、『えい。』といらへたり」(12行め)とありますが、このときの児の心理を簡潔に述べなさい。

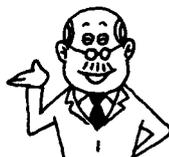
この児は、僧たちの思わくをあれこれと気にして、空寝をしていたようですね。でも、ここでどうとうほんねが出てしまうわけです。さて、そのほんねとは、どういうことだったのでしょうか。

16 「僧たち笑ふこと限りなし。」(13行め)とありますが、この部分について次のように説明しました。適切な語句を後から選び、に記号で答えなさい。

意地きたない子だと思われはしないかと、の心理をよんでいるようだが、結局は自分の欲望をおさえられなかったらしい心理の動きに気づいて、僧たちは気分になって、笑っているのである。

- (ア) 子ども
- (イ) おとな
- (ウ) 意地悪な
- (エ) ほほえましい

この児のような経験はだれにでもありますね。きょうの読解はここまでです。答え合わせをしましょう。



最後に、文学史的なことから確認しておきましょう。

17 「宇治拾遺物語」のはいる文学のジャンル名を、漢字四字で答えなさい。

18 「宇治拾遺物語」の成立した時代を、次から選びなさい。

- (ア) 平安時代後期
- (イ) 鎌倉時代前期
- (ウ) 鎌倉時代後期

# 宇治拾遺物語 絵仏師良秀家の焼くるを見てよろこぶこと

きょうは、「宇治拾遺物語」から、「絵仏師良秀家の焼くるを見てよろこぶこと」という一節を読んでいます。

では、はじめに、基本的な古語の学習から入りましょう。

### ● 古語の意味を覚えよう ●

▽古語や文語文を音読しながら、「」に古語の意味を書きこんでいきましょう。

① さながら (副) そのまま。

例 また衣着ぬ妻めづこ子なども、さながら内にありけり。(宇治拾遺物語・巻三ノ六)

訳 またるくに衣類もつけない妻や子なども、「」で屋内にいた。

② あはれ (感) 感動したときに発することば。ああ。

例 あはれ、しつるせうとくかな。(宇治拾遺物語・巻三ノ六)

訳 「」、「えらいもうけものをしたことだ。」  
▼ほかに、名詞として、「しみじみとした情趣」とか「愛情」の意で使われる。また「あはれなり」(形動ナリ)で、「かわいい」「恋しい」「しみじみとした情趣がある」などの意を表す。

③ としごろ【年頃】(名) 長年。何年も。

例 年ごろはわろくかきけるものかな。(宇治拾遺物語・巻三ノ六)

訳 「」(「火炎を、ほんものに比べると)劣って描いていたことだ)なあ。

▼副詞的にも用いる。

④ あさまし (形シク) あきれたものだ。

例 こはいかに、かくては立ち給たまへるぞ。あさましきことかな。(宇治拾遺物語・巻三ノ六)

訳 これはいったいどうしたことですか、(どうして)そのように(何もせず)に)お立ちなさっているのですか。「」ことだ。

▼ほかに、「意外だ」「卑しい」などの意味がある。

⑤ なんてふ【何でふ】(副) どうして……か。(反語の意を表す。)

例 なんてふものつくべきぞ。(宇治拾遺物語・巻三ノ六)

訳 「」怪しげなものがとりつくことなどであろう「」。  
▼読み方は、「ナンジョウウ」。

⑥ させる (連体) (多く、下に打ち消しの表現を伴って)これといった。

例 わたうたちこそ、させる能もおはせねば、ものをも惜たましみ給へ。

訳 お前さんたちこそ「」才能ももっておられない  
のだから、(そんな人たちこそ)物を惜しみなさい。



1 次の古語を音読しながら、その意味を後から選んで書きなさい。

- (1) さながら ( )
- (2) あはれ ( )
- (3) 年ごろ ( )
- (4) あさまし ( )
- (5) なんでも ( )
- (6) させる ( )

●長年。何年も。 ●これといった。 ●どうして……か。  
●ああ。 ●あきれたものだ。 ●そのまま。

2 太字の語に注意しながら、次の(1)～(6)の口語訳を完成させなさい。

- (1) まだ格子もさながら、梅の香をかしきを見出だして、ものし給ふ。  
(源氏物語・未摘花)
- (2) あはれ、走り出でて舞はばやと思ふを、(宇治拾遺物語・巻一ノ三)  
を(部屋の中から)眺めていらつしやる。
- (3) 年ごろあそびなれつる所を、あらはにこぼち散らして(更級日記)  
〔 〕、走り出て舞いたいものだと思うが、
- (4) あさましきもの。さしぐしすりてみがくほどに、物につきさへて折りたる心  
くちやにこわして  
〔 〕遊びなじんできた部屋を、中がまる見えになるように、めっちゃ

地。(枕草子・九七段)

〔 〕しまうもの。髪にさすくしを、すつてみがくうちに、物にひっかけて折ってしまったときの気持ち。

(5) なんでも名により文字にはよるべき。幸いはただ前世の生れつきでこそあんなれ。(平家物語・祇王)

〔 〕名や文字によることであろう〔 〕。幸せは、ただ前世の生まれつきだということだ。

(6) 下ざまより事おこりて、させる本説なし。(徒然草・六一段)  
〔 〕根拠となる説はない。

古語で、意味のわからないものは、〔 〕を参考にし、①～⑥の基本古語をしつかり覚えましょう。

◆中世説話文学と「宇治拾遺物語」

中世説話文学としてあげられる作品には、「今昔物語集」「宇治拾遺物語」「十訓抄」「古今著聞集」などがある。「宇治拾遺物語」一九七話のうち、約八十話は、「今昔物語集」と同話であり、さらにその約五十話は、ほとんど同文でもある。また、「十訓抄」「古今著聞集」とも同話あるいは同文の説話が収められている。これらの説話文学は、「源氏物語」「枕草子」などの王朝貴族文学がとりあげることのなかった題材を扱い、王朝貴族文学に描かれた世界とは異なる、民衆を主人公とした世界を展開させている。

「宇治拾遺物語」が生まれたのは、鎌倉時代前期であると考えられる。この前後には、清盛の執政、平氏の滅亡(一一八五)、鎌倉幕府の開設(一一九二)、北条時政の執権(一二〇三)、承久の乱(一二二二)というように、戦乱と政権交替が相次ぎ、世相の変転が激しかった時期である。

しかし、そのような変革期であっても、人間の日常的な実態というものは、たいして変わらない。「宇治拾遺物語」はさまざまな説話を集めつつ、人間とは結局こういうものだという、ありのままの人間を描写し、大きく変動する世相の底辺に存在する、ゆるがぬ人間の実態性を描き出している。

● きょうのテキスト ●

\* これも今は昔、絵仏師良秀といふありけり。家の隣より火出で  
 て、風おしおほひてせめければ、逃げ出でて大路へ出でにけり。人  
 のかかする仏もおほしけり。また衣着ぬ妻子なども、さながら内に  
 ありけり。それも知らず、ただ逃げ出でたるをことにして、向かひ  
 のつらに立てり。  
 5  
 見れば、既にわが家に移りて、煙、炎くゆりけるまで、大方向か  
 ひのつらに立ちて眺めければ、「あさましきこと。」とて、人ども来  
 とぶらひけれど、騒がず。「いかに。」と人言ひければ、向かひに立  
 ちて、家の焼くるを見て、うちうなづきて、ときどき笑ひけり。「あ  
 9  
 はれ、しつるせうとくかな。年ごろはわろくかきけるものかな。」と  
 10  
 言ふときに、とぶらひに来たる者ども、「こはいかに、かくては立ち給  
 11  
 へるぞ。あさましきことかな。もののつき給へるか。」と言ひけれ  
 12  
 ば、「なんでふものをつくべきぞ。年ごろ不動尊の火炎をあしくかき  
 13  
 けるなり。今見れば、かうこそ燃えけれど、心得つるなり。これこ  
 14  
 そせうとくよ。この道を立てて世にあらんには、仏だによくかき奉  
 15  
 らば、百千の家も出できなん。わたうたちこそ、させる能もおほせ  
 16  
 ねば、ものをも惜しみ給へ。」と言ひて、あざ笑ひてこそ立てりけ  
 17  
 れ。そののちにや、良秀がよぢり不動とて、今に人々めで合へり。  
 18

語釈

上の数字は行数を示す

1 これも今は昔―この話も今となつては昔のことだが、「今は昔」は、説話や古い物  
 語などの書き起こしに使われるきまり文句。

1 絵仏師良秀―絵仏師は、仏の絵像を専門に描く職業画家。良秀については伝未詳  
 だが、実在した人物と思われる。

2 おしおほひて―(風が火を)おし包んで。「おし」は強めを表す接頭語。「おほふ」  
 はものが一面にかぶさる様子。「被ふ・覆ふ・掩ふ」の漢字があたる。

2 せめければ―迫ってきたので。「せむ」には、「迫む・攻む・責む」の漢字があたる。

2 大路―都の広い通り。古くは、オホチと濁らないで読んだらしい。

2 人のかかする仏―他人が(注文して)描かせる仏。

3 さながら―そのまま。ここでは、衣類もろくに着けず、そのままであったこと。

4 それも知らず―「それ」は、屋内の仏画や妻子のことを指す。「それも知らず」  
 は、仏画や妻子のこともかまわないで、という意。

4 こととして―(それを)もつけの幸いとして。「こと」には、「事・殊」の漢字が  
 あたり、多義となるが、ここでは、理由・事情・成り行きとかいった意。

4 向かひのつら―向かいの通りに面した側。「つら」にはほかに、辺り・顔面とい  
 う意がある。

6 大方―およそ。ほとんど。

7 あさましきこと―大変なことだ。「あさまし」にはほかに、意外だ・情けない・卑  
 しい、などの意がある。

8 とぶらひけれど―訪ねたけれど。見舞いにやってきたけれど。

9 あはれ、しつるせうとくかな―ああ、えらいもうけものをしたことだなあ。「せう  
 とく」には、「所得」「抄徳」の二通りの説があるが、どちらの漢字をあて  
 も、もうけもの・うまいことこの意。

10 年ごろ―長年。何年も。

11 こはいかに―これはいったいどうしたことだ。「しつる」などが省略されている。

11 かくては立ち給へるぞ―そのように(何もしないで)お立ちになっていらつしや  
 るのですか。「給へ」は、尊敬を表す。

12 あさましきことかな―あきれ返ったことだ。

12 もののつき給へるか―何か怪しげなものが取りついていらつしやるのですか。  
 「もの」は、霊・鬼・もののけなどの超自然的な存在を意味することは、「もの  
 がつく」で、何か(不可解なもの)が取りつくの意になる。

13 なんてふものをつくべきぞ―「なんでふ……ぞ」と対応し、反語の意。どうして  
 怪しげなものが取りつくことなどあろうか(そんなことはない)、と訳す。

13 不動尊―不動明王。いつさいの邪悪を打ち破り、仏法を守護する明王のこと。背  
 に火炎の光背を負っている。

13 あしく―「あし」は悪いということ。ここでは「まずく」の意。

14 かうこそ燃えけれ―このようにこそ燃えるものであったよ。「こそ……けれ」は、係  
 り結びで強めの意を表す。

15 世にあらん―世を送る。世を渡る。

15 仏だけに「仏だけでも。仏さえ。」  
 16 わたうたち「お前さんたち。あなたたち。「わ覚・吾覚」と書き、このころ使われ  
 た呼びかけのことば。

16 させる能「これといった才能。特別に取り立てることのできる才能。」

17 ものを惜しみ給へ「物を惜しみなさるのだ。「給へ」は上の「こそ」の結びで、「給ふ」の已然形。「こそ」の結びが「おはせねば」で消えたとして「給ふ」を命令形とする考え方もある。

18 よちり不動「不動尊の光背の火炎が、よじれてほんものの火炎のような迫真力があつたのでこう呼ばれたもの。」  
 18 めで合へり「褒め合っている。称賛し合っている。」

——では、「きよようのテキスト」についてのトレーニングに入りましょう。

トレーニング 解答は山ページ



火炎と不動尊

③ 「きよようのテキスト」を、一回、ゆっくりと音読しなさい。

——「いふ」「おしおほひて」などの歴史的かなづかいにも注意して読みましよう。

④ 次の語のテキストでの読みを、現代かなづかいで書きなさい。

- (1) 大路 ( ) (2) 衣 ( ) (3) 妻子 ( )
- (4) 煙 ( ) (5) 百千 ( )

⑤ もう一回、ゆっくりと音読しなさい。

⑥ 次の(1)～(10)の——線部を語釈を参考にしながら口語訳しなさい。

(1) 家の隣より火出でてきて、風おしおほひてせめければ、逃げ出でて大路へ出でにけり。

(2) 人のかかする仏もおはしけり。

(3) また衣着ぬ妻子なども、さながら内にありけり。

(4) ただ逃げ出でたるをことにして、向かひのつらに立てり。

(5) 見れば、既にわが家に移りて、煙、炎くゆりけるまで、大方向かひのつらに立ちて眺めければ、

(6) あはれ、しづるせうとくかな。

(7) 年ごろはわろくかきけるものかな。

(8) 今見れば、かうこそ燃えけれど、心得つるなり。

(9) 仏だによくかき奉らば、百千の家も出できなん。

(10) わたうたちこそ、させる能もおはせねば、ものをも惜しみ給へ。

必要な個所には、主語や修飾語を補って、わかりやすい口語訳にすることが大切です。

答え合わせをしてから、次の通釈に、一とおりの目をおしておきましょう。

### 通釈

この話も今となつては昔のことだが、絵仏師の良秀という(者)がいた。(その良秀の)家の隣から火事が起こつて、風が(火を)おし包んで(その火が)間近に迫つてきたので、(良秀は)逃げ出して大路へ出ていった。(屋内には)他人が(注文して)描かせている仏もいらつしやつた。またろくに衣類も着けない妻や子ども、そのまま屋内にいた。そのこともかまわないうで、ただ逃げ出てきたのをものけの幸いとして、(家の)向かいの通りに面した側に立っている。

見ると、(火は)すでにわが家に移つていて、煙、炎がくすぶり燃えるまで(になつていても)、ほとんど(家の)向かい側に立って眺めているので、「大変なことだ。」と、人々が見舞いにやつて来たけれど、(良秀は)騒がない。「(いつたい)どうしたのですか。」と人が言うと、(大路の)向かい側に立って、家の焼けるさまを見て、うなずいたりして、ときどき笑つたりしていた。「ああ、えらいもうけものをしたことだ。長年(火災を、ほんものに比べると)劣つて描いていたことだなあ。」(などと)言うときに、見舞いに来ている者たちが、「これはいつたいどうしたことですか、(どうして)そのように(何もせずに)お立ちなさいているのですか。あきれ返つたことだ。何か怪しげなものが取りついていらつしやるのですか。」と言つたところ、(良秀は)「どうして怪しげなものが取りつくことなどあるうか。長年不動尊の(光背の)火炎をまざく描いていたのだ。今(こうして)見ると、このようにこそ(炎とは)燃えるものであったのだと、心得たのだ。これこそえらいもうけものよ。この(絵師としての)道を立てて世間を渡るからには、仏さえりつばに描き申しあげれば、百千もの家もできるだろう。お前さんたちは、これといつた才能ももつておられないから、物を惜しみなされるのだ。(私にはその必要はない。)」と言つて、あざ笑つて立っていたのだ。そののちになつてからだろうか、良秀のよぢり不動といつて、今でも人々が(彼の仏画を)称賛し合つているのである。

話の内容が理解できたらこんどは、表現の細部をもう少し検討してみましょう。



7 次の——線部の、省略されている主語を指摘しなさい。

(1) 「あざましきこと。」とて、人ども来とぶらひけれど、騒がず。

(7行め)

(2) 「いかに。」と人言ひければ、向かひに立ちて、家の焼くるを見て、

うちうなづきて、ときどき笑ひけり。(8行め)

「逃げ出でて」(2行め)、「それも知らず」(4行め)、「あざ笑ひてこそ立てりけれ」(17行め)などの主語も良秀ですね。また、「なんでもものつくべきぞ。……惜しみ給へ」(13～17行め)と言ったのも良秀です。

8 テキスト中には、反語表現の用いられた文が一つあります。Aその一文を書き抜きなさい。Bまた、それを口語訳しなさい。

▼反語表現＝疑問の形で言いながら、実はそうではないと否定する表現法。

A

B

9 テキストから、係り結びの文を抜き出してみました。例にならつて、係り結びになっている係助詞と結びの語に——を引きなさい。

▼係り結び＝文中に係助詞「ぞ・なむ・や・か」が用いられているとき、文末を連体形、「こそ」が用いられているとき、文末を已然形で結ぶさま。〔ぞ・なむ・こそ〕は強意を示す係助詞。「や・か」は疑問・反語を示す係助詞である。

例 隆家なかいへこそいみじき骨は得て侍れ。(枕草子・二〇二段)  
隆家はすばらしい(扇の)骨を手に入れております。

- (1) 今見れば、かうこそ燃えけれど、心得つるなり。  
(2) わたうたちこそ、させる能もおはせねば、ものをも惜しみ給へ。  
(3) あざ笑ひてこそ立てりけれ。

(1)・(3)の「けれ」は「けり」の已然形。(2)の「給へ」は「給ふ」の已然形。活用形については、あとでくわしく学習するので、ここでは係り結びの対応を確認しておくだけでいいですよ。

10 「人のかかする仏もおはしけり」(2行め)、「わたうたちこそ、させる能もおはせねば」(16行め)には、どちらも、「あり」の尊敬語「おはす」が使われています。それぞれ、だれからだれに対する敬意を表していますか。

(1) 「人のかかする仏もおはしけり」(2行め)

から

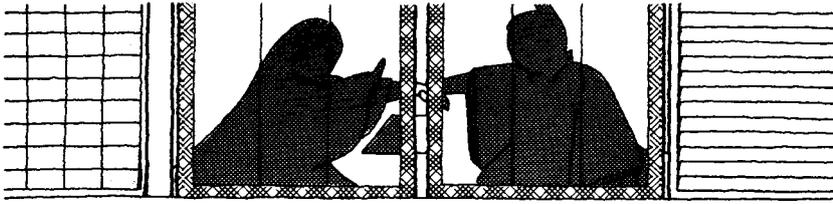
に対する敬意。

(2) 「わたうたちこそ、させる能もおはせねば、」(16行め)

から

に対する敬意。

7と10を振り返りながら、ここでもう一度「通釈」と対照させましょう。残りあと少しです。ここで、ちょっと、ひと休みしましょう。



◆こくニア・ラ・カルト／宇治拾遺物語の笑い話◆

宇治拾遺物語巻九ノ八に、「目鼻ひと所にとり寄せたるやう」なぶ男の話がある。この男、長者の娘と結婚するため、「天の下の顔よし」と言つて、ハンサムであることを宣伝しておく。このつじつまを合わせるために、仲間の一人が鬼となり、男の美ぼうを奪つてしまうという芝居をうつのである。鬼が、「吸ふ吸ふ」と言いながら、この男の顔かたちを奪い、男は男で、顔をかかえて「あらあら」と言つて転げ回る。なんともこつけない話である。

また、巻三ノ二は、藤大納言忠家という人が、「美々しき色好みなりける」女房(宮中などで、個室を与えられて仕える女官)と語り合つているときの話である。夜もふけ、月も明るく、忠家が女房の肩に手をかけようとする、女房は、「あな、あさまし」(あら、困るわ)などと言つて、髪を振り払つているうちに、ブツと一発、高く鳴らしてしまつた! 女房は、「くたくた」としてその場に伏してしまふ。忠家は、「出家せん」(仏門に入ろう)と考え、二間(柱と柱の間)ばかり行が、やつぱりそれもナンセンスと思ひ直して、どこかに走り出してしまうという話である。

このように、宇治拾遺物語には、ユーモアに富んだ話が数多く収められているが、そこには、素朴な人間のあり方を広く理解する編者の態度をうかがうことができる。「枕草子」「源氏物語」などの王朝貴族文学とは違つた、説話文学の特色がここにもあるといえよう。

トレーニング

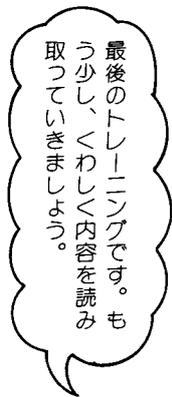
解答は111ページ

11 「それ」(4行め)が指している部分に——線を引きなさい。

自分の家が火事で、その中には、人の注文でかいた仏や、自分の妻子までもいたというのに、良秀は逃げ出して、火事を眺めているのです。

12 「あさましきこと。」(7行め)とありますが、人々は、良秀のどういう態度について、こう言っているのですか。簡潔に述べなさい。

13 「あさましきこと。」(7行め)、「こはいかに、かくては立ち給へるぞ。あさましきことかな。ものつぎ給へるか。」(11行め)という人々の発言に対し、良秀はどんな態度をとっていますか。それを示す部分を、それぞれ書き抜きなさい。



(1) 「あさましきこと。」(7行め) に対して。

(2) 「こはいかに、かくては立ち給へるぞ。あさましきことかな。ものつき給へるか。」(11行め) に対して。

—— 自分の家が焼け、その中に妻子が残されているとなると、心配で落ち着かないのが人情なのに、良秀は、いっこうに気にしていない様子です。世間一般の常識と、良秀の芸術家としての非凡さが対照的に表現されている部分です。

14 「これこそせうとくよ。」(14行め)とは、どういうことを言っているのですか。わかりやすく説明しなさい。

15 「この道」(15行め)とは、何の道のことですか。次の中から適切なものを選びなさい。

- (ア) 僧としての道 (イ) 絵師としての道 (ウ) 武士としての道

16 「あざ笑ひて」(17行め)の説明として、次の中から最も適切なものを選びなさい。

(ア) これといった才能もない人々が、良秀の描いた不動尊の火炎をばかにしたので、逆に良秀が、その人たちのことを軽べつして笑っている。

(イ) 良秀は、自分の家が焼けていくのを、なすすべもなく眺めていなければならぬので、大声で泣き笑いをしている。

(ウ) 良秀は、不動尊の火炎の描き方がわかったという満足感で満たされており、周囲の凡俗な人間の心配を問題にせず、超然としてあざ笑っている。

17 きょうのテキストにおいて、良秀は、どのようなタイプの人間として描かれていますか。次の中から最も適切なものを選びなさい。

- (ア) 純粋な芸術家タイプ。  
(イ) 災難のときには逃げてしまっておく病者。  
(ウ) 仏の絵も燃やしてしまう不信心者。

—— こうして、良秀が、不動尊の火炎の描き方を、ひたすら追究した結果、「良秀がよぢり不動」として、今でも人々が称賛し合っているのですね。答え合わせをしたら、きょうの学習は終わりです。ご苦労さまでした。

# 竹取物語 かがや姫の生ひ立ち

きょうは、「竹取物語」から、冒頭部分「かがや姫の生ひ立ち」を読んでいきます。では、いつものように、基本的な古語の学習から入りましょう。

### ● 古語の意味を覚えよう ●

▽古語や文語文を音読しながら、「」に古語の意味を書きこんでいきましょう。

① あやしがる【怪しがる・奇しがる】(動四) 不思議に思う。

例 あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。(竹取物語)  
「て近寄って見ると、(竹の)筒の中が光っている。」

▼「あやし」(形シク)に、接尾語「がる」がついて動詞になった語。  
「あやし」は、「不思議だ」「変だ」の意である。

② うつくし【愛し】(形シク) かわいらしい。

例 とうつくしうてゐたり。(竹取物語)  
「様子で座っていた。」

▼口語の「美しい」の意味になったのは中世以降である。文語では「清らなり」「けうらなり」(形動ナリ)が「美しい」の意味をもっている。

③ ある【居る】(動上一) 座る。

例 とうつくしうてゐたり。(竹取物語)  
「座りたいそうかわいらしい様子で」 「ていた。」  
▼たんに「いる」という意味ではないことに注意。対義語は「立つ」。

④ やうやう【漸う】(副) しだいに。だんだんと。

例 かくて、翁やうやう豊かになりゆく。(竹取物語)  
「豊かになっていく。」

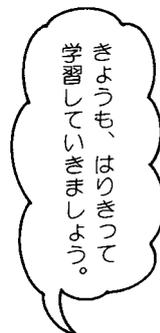
▼「やうやく」「やや」も同義。口語の「ようやく」「やっと」とは意味が違っていることに注意する。

⑤ かたち【形・容・貌】(名) 顔だち。容貌。

例 この児のかたちけうらなること世になく。(竹取物語)  
「この幼子の」 「の華やかで美しいことはこの世で比べるものもなく、」

⑥ ひさし【久し】(形シク) 長い間である。時間(月日)が長い。

例 翁、竹を取ることに久しくなりぬ。(竹取物語)  
「続いた。」



1 次の古語を音読しながら、その意味を後から選んで書きなさい。

- (1) あやしがる ( )  
 (2) うつくし ( )  
 (3) るる ( )  
 (4) やうやう ( )  
 (5) かたち ( )  
 (6) 久し ( )

●かわいらしい。 ●顔だち。容貌。  
 ●長い間である。時間が長い。 ●不思議に思う。 ●座る。

2 太字の語に注意しながら、次の(1)～(6)の口語訳を完成させなさい。

- (1) こまやかになどしもあらぬ人の、ふりはへたるをあやしがる。(蜻蛉日記)  
 鬨特に親密でもない人が、わざわざ来たことを ( )。  
 (2) なにもなにも、ちひさきものはみなうつくし。(枕草子・一五一段)  
 鬨何もかも、小さいものはみな ( )。  
 (3) その沢のほとりの木の蔭におりゐて、乾飯食ひけり。(伊勢物語・九段)  
 鬨その沢(水の中に草が多く生えている所)の水辺の木かげに(馬から)おりて ( )て、干し飯を食べた。  
 (4) 花もやうやうけしきだつほどこそあれ、折しも(徒然草・一九段)  
 鬨桜の花も ( ) 咲きそめるころだというのに、ちようどその

時分に

- (5) おひさき見えて、うつくしげなるかたちなり。(源氏物語・若葉)

鬨将来(の美しさ)が想像されて、かわいらしい ( ) である。

- (6) 旅に久しくもありぬべきものども(蜻蛉日記)

鬨旅先で ( ) 滞在するのに必要な品々

着実に基本古語を覚えていくことが大切です。

さて、いよいよ「竹取物語」を読んでいくわけですが、「きょうのテキスト」に入る前に、「竹取物語」について簡単に説明しておきましょう。

◆「竹取物語」

「竹取物語」が、いつ、だれの手によって書かれたのかということは、現在わかっていないが、平安時代の初期に成立したらしく、日本最古の物語といわれている。「源氏物語」の「絵合」の巻に、「まづ物語のいではじめの祖なる、竹取の翁」とあり、平安時代中期から、すでに「竹取物語」が「物語文学の元祖」として人々に認められていたことが知られる。

また、右の記事からもわかるように、「竹取物語」は正式名称ではなく、古くは「竹取の翁(の物語)」とか、「かぐや姫の物語」(源氏物語・蓬生)などと呼ばれており、江戸時代まで「竹取翁物語」という呼称が使われていた。「竹取物語」と呼ばれるようになったのは、人々が略して「竹取」と呼んでいたのが、近年になって定着したためと考えられる。

ところで、「竹取物語」は、純粹に作者の創作によるものではない。奈良時代以前から、民間伝承の形で、つまり、口から口へと語り継がれていく形で、「竹取物語」の原型となる話が存在しており、それが作者の手でまとめられ、ふくらませられて現在の形になったのである。このような、口承文学の要素をとり入れた文学を「伝奇物語」と呼んでいる。

さて、「竹取物語」は大きく次の三つの部分から成っている。

- (1) 竹取の翁が竹の中からかぐや姫を発見し、養育するとたちまちこの世には比べようもないほどの美女に成長する。  
 (2) 五人の貴公子がかぐや姫に求婚するが、結婚の条件として提示される難題につきつぎと失態をさらして敗退してしまう。  
 (3) ついに帝の求婚となるが、かぐや姫はこれも受け入れず、八月十五夜、天人の迎えによって月世界へ昇ってゆく。

「竹取物語」が、以後の物語文学に大きな影響を与えたことは言うまでもない。

●きょうのテキスト●

\* 今(いま)は昔(むかし)、竹取(たけとり)の翁(おきな)といふ者(もの)ありけり。野山(のやま)にまじりて竹(たけ)を取りつ  
 つ、よろづのことに使(つか)ひけり。名(な)をば、さかきの造(みやつて)となむいひける。<sup>2</sup>  
 その竹(たけ)の中に、もと光(あ)る竹(たけ)なむ一筋(ひとすぢ)ありける。あやしがりて寄りて<sup>3</sup>  
 見るに、筒(つつ)の中(なか)光(あ)りたり。それを見(み)れば、三寸(さんすん)ばかりなる人(ひと)、いと<sup>4</sup>  
 うつくしうてゐたり。翁(おきな)言(い)ふやう、「われ、朝(あ)ごと夕(ゆふ)ごとに見る竹(たけ)の<sup>5</sup>  
 中(なか)におはするにて、知(し)りぬ。子(こ)となり給(たま)ふべき人(ひと)なめり。」とて、手(て)<sup>6</sup>  
 にうち入れて家(いへ)へ持ちて来(き)ぬ。妻(つま)の女(むすめ)にあづけて養(やし)はす。うつくし<sup>7</sup>  
 きこと限(かぎ)りなし。いと幼(よ)ければ籠(かご)に入れて養(やし)ふ。<sup>8</sup>  
 竹取(たけとり)の翁(おきな)、竹(たけ)を取(と)るに、この子(こ)を見(み)つけてのち(ち)に竹取(たけとり)るに、節(ふし)を<sup>9</sup>  
 隔(へだ)ててよごと(よごと)に金(かね)ある竹(たけ)を見(み)つくること重(おも)なりぬ。かくて、翁(おきな)やう<sup>10</sup>  
 やう豊(とよ)かになりゆく。<sup>11</sup>  
 この児(こ)養(やし)ふほどに、すくすくと大(お)きになりまさる。三(み)月(つき)ばかり<sup>12</sup>  
 になるほどに、よきほどなる人(ひと)になりぬれば、髪(かみ)上げなどさうして、<sup>13</sup>  
 髪(かみ)上げさせ、裳(も)着(き)す。帳(ちやう)の内(うち)よりも出(で)ださず、いつき養(やし)ふ。この児(こ)<sup>14</sup>  
 のかたちけうらなること世(よ)になく、屋(や)の内(うち)は暗(く)き所(ところ)なく光(あ)り満(み)ちた<sup>15</sup>  
 り。翁(おきな)、心(こゝろ)地(ぢ)あしく苦(くる)しきときも、この子(こ)を見(み)れば、苦(くる)しきことも<sup>16</sup>  
 やみぬ。腹(はら)立(た)たしきことも慰(なぐさ)みけり。翁(おきな)、竹(たけ)を取(と)ること久(ひさ)しくなり<sup>17</sup>  
 ぬ。勢(いきほ)ひ猛(まう)の者(もの)になりけり。この子(こ)いと大(お)きになりぬれば、名(な)を<sup>18</sup>  
 三(み)室(むろ)戸(と)斎(い)部の(べ)あきたを呼(よ)びてつけさす。あきた、なよ竹(たけ)のかぐや姫(ひめ)<sup>19</sup>  
 とつけつ。<sup>20</sup>

語釈

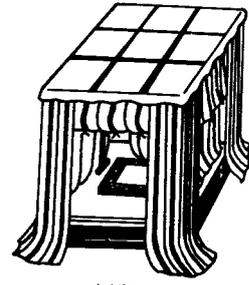
上の数字は行数を示す

1 今(いま)は昔(むかし)―今(いま)となつては昔(むかし)のことだが。説話(せつわ)や古(ふる)い物語(ものがたり)の書き起(き)こしに用(もち)いられる  
 きまり文句(ぶんく)。

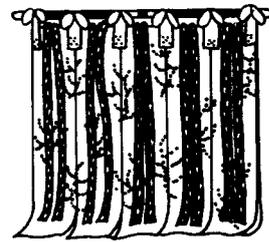
- 1 竹取(たけとり)の翁(おきな)といふ者(もの)ありけり―竹取(たけとり)の翁(おきな)という者(もの)がいたということだ。「竹取(たけとり)の翁(おきな)」は、竹(たけ)を取(と)り、細工(こぎ)物(もの)を作(つく)つて生計(せいけい)を立ててゐる老年(らうねん)の男(おとこ)の意(い)。「けり」は、人(ひと)づてに聞(き)いたことを回想(こうわう)して述(のたま)べるときに用(もち)いられる。
- 1 まじりて―分け入(い)りて。
- 2 よろづのことに使(つか)ひけり―いろいろのことに使(つか)つていたということだ。
- 2 さかきの造(みやつて)となむいひける―さかきの造(みやつて)というのだった。「さかき」「さぬき」「さるき」と書く本(ほん)もある)が姓(せい)で、「造(みやつて)」が名(な)。「なむ：ける」は係(けい)り結び。
- 3 あやしがりて―不思議(ふしぎ)に思(おも)つて。
- 4 三寸(さんすん)ばかりなる人(ひと)―三寸(さんすん)ぐらいの人(ひと)。一寸(いちすん)は約(やく)三(さん)センチメートル。
- 5 うつくしうてゐたり―かわいらしい様子(ようす)で座(ま)つていた。「うつくし」はかわいい、「あ」は座(ま)るの意(い)。
- 6 おはするにて、知(し)りぬ―いらつしやることで、わかつた。
- 6 子(こ)となり給(たま)ふべき人(ひと)なめり―(わしの)子(こ)とおなりになるはずの人(ひと)であるようだ。竹(たけ)が籠(かご)となるように、子(こ)となる、というしやれ。「なめり」は「なるめり」の音便(おんべん)で、ナンメリと読む。
- 7 妻(つま)の女(むすめ)文字(もじ)どおり解(と)けると、妻(つま)である女(むすめ)。「女(むすめ)」を、媪(おきな)・媪(おみな)・おむな・おうな)のあて字(あてじ)とし、妻(つま)である老女(らうにょ)とする考(こう)えもある。ここでは前者(ぜんしやう)による。
- 9 節(ふし)を隔(へだ)ててよごと(よごと)に―節(ふし)と節(ふし)との間(ま)の空(くわ)洞(どう)ごとに。「よ」は、節(ふし)と節(ふし)との間(ま)のうつろの部分(ぶぶん)。
- 10 やうやう―だんだんと。しだいに。
- 13 よきほどなる人(ひと)になりぬれば―一人(ひとり)前の背(せ)たけの人(ひと)になつたので。
- 13 髪(かみ)上げ―女子(じよし)が成人(せいじん)になつたしるしに、髪(かみ)を結(むす)ひ上げること。
- 13 さうして―「左右(さうじやう)して」で、あれこれと手配(てはい)しての意(い)。別に、「相(あ)して」で、よい日(ひ)を選び定(さだ)めての意(い)とする考(こう)え方(かた)や、「とかくして」とする説(せつ)もある。
- 14 裳(も)着(き)す―裳(も)を着(き)せる。女子(じよし)の成人(せいじん)式(しき)のとき、初(はじめて)めて裳(も)をつける。「裳(も)」は、女性(じよせい)の正装(せいさう)用の衣(い)服(ふく)で、袴(はかま)の上に、腰(こし)から下(した)の後方(こうほう)につけたもの。
- 14 帳(ちやう)―とばり。「帳(ちやう)台(たい)」(寢殿造(ねでんぞう)りの母屋(ははや)に台(たい)を置(お)き、その四方(よっぺ)方に垂(た)れ幕(まく)をかけたもの)、あるいは「几帳(きちやう)」(台(たい)の上に柱(はしら)をつけ、それに渡(わた)した横木(よこぎ)に幕(まく)をかけたもの)を指(さ)す。
- 14 いつき養(やし)ふ―大(お)切(き)に育(そだ)てる。
- 14 この児(こ)のかたちけうらなること―この幼子(こうし)の顔(かほ)だちの華(は)やかで美(うつく)しいことは。「けうら」は、もと「きよら」か。
- 17 翁(おきな)、竹(たけ)を取(と)ること久(ひさ)しくなりぬ―翁(おきな)は、(黄金(おうごん)の入(い)つてゐる)竹(たけ)を取(と)ることが長い間(ま)続(つ)いた。
- 18 勢(いきほ)ひ猛(まう)の者(もの)―勢(いきほ)ひの盛(も)んな金持(かねもち)。

19 三室戸齋部のあきた＝神官の名。「三室戸」は地名、「齋部」は祭礼をつかさどる氏の名。

19 なよ竹のかぐや姫＝「なよ竹」はしなやかで柔らかい竹の意。「かぐ」は、光り輝くの意と考えられる。



帳台



几帳

—— さあ、いよいよトレーニングに入りますよ。

### トレーニング

解答は11ページ

③ 「きょうのテキスト」を、一回、ゆつくりと音読しなさい。

④ 次の語のテキストでの読みを、現代かなづかいで書きなさい。

- (1) 翁 ( ) (2) 造 ( )  
 (3) なめり ( ) (4) 妻 ( )  
 (5) 籠 ( ) (6) 心地 ( )

—— 「なめり」の読みには特に注意しましょう。また、「うつくしう」は「うつくしゅう」、「たまふ」は「たもう」と読む点にも注意が必要ですね。

⑤ もう一回、ゆつくりと音読しなさい。

⑥ 次の(1)～(11)の——線部を語釈を参考にしながら口語訳しなさい。

(1) 野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。

(2) あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。

(3) それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

(4) われ、朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて、知りぬ。

(5) 子となり給ふべき人なめり。

(6) かくて、翁やうやう豊かになりゆく。

—— 自分で口語訳していくということは、たいへんなことですね。もう少し、がんばってみましょう。

(7) 三月ばかりになるほどに、よきほどなる人になりぬれば、髪上げなどさうして、髪上げさせ、裳着す。

(8) 帳の内よりも出ださず、いつき養ふ。

(9) この児のかたちけうらなること世になく、屋の内は暗き所なく光り満ちたり。

(10) 翁、竹を取ること久しくなりぬ。

(11) 勢ひ猛の者になりけり。

原文に忠実に、ていねいに口語訳をつけることが大切なのです。



すぐに答え合わせをしておきましょう。  
次の通釈にじっくり目をおしてから、先に進みましょう。

### 通釈

今となつては昔のことだが、竹取の翁という者がいたということだ。野山に分け入つて竹を取つては、いろいろのことに使つていたということだ。名を、さかきの造まがというのだつた。(あるとき)その翁が取つた竹の中に、根もとの光る竹が一本あつた。不思議に思つて近寄つてみると、(竹の)筒の中が光つている。それを見ると、三寸ぐらいの人が、たいそうかわいらしい様子で座つていた。翁が言うことには、「わしが毎朝毎晩見る竹の中にいらつしやることでわかつた。(わしの)子とおなりになるはずの人であるようだ。」と言つて、手の中に入れて家へ持つてきた。妻である女に預けて育てさせる。かわいらしいことは限りない。たいへん幼いので籠に入れて育てる。

竹取の翁が竹を取るときに、この子を見つけてからのちに竹を取ると、節と節との間の空洞ごとに黄金の入つている竹を見つけたことがたび重なつた。こうして、翁はしだいに豊かになつていく。

この幼子は、育てるうちに、すくすくと大きく成長していく。三か月ほどがたつうちに、一人前の背たけの人になつたので、髪上げなどをあれこれ手配して、髪を上げさせ、裳を着せる。とぼりの中からも出さないで、大切に育てる。この幼子の顔だちの華やかで美しいことはこの世で比べるものもなく、家の中は(この子の美しさで)暗い所がなく光が満ち満ちている。翁は、気分が悪くて苦しいときも、この子を見ると、苦しいこともやんで(治つて)しまった。腹の立つことも慰むのだつた。翁は、(黄金の入つている)竹を取ることが長い間続いた。勢ひの盛んな金持ちになつた。この子がたいそう大きくなつたので、名前を三室戸齋部のあきたを呼んでつけさせる。あきたは、なよ竹のかぐや姫とつけた。

次のトレーニングでは、表現の細部を検討しながら、より正確で深い理解をめざしていきましょう。

### トレーニング

解答は12ページ

7 係り結びの文が、テキスト中に二文あります。その文を抜き出し、例にならつて、係り結びになつている係助詞と結びの語に——を引きなさい。

▼係り結び＝文中に係助詞「ぞ・なむ・や・か」が用いられているとき、文末を連体形、「こそ」が用いられているとき、文末を已然形で結ぶきまり。「ぞ・なむ・こそ」は強意を示し、「や・か」は疑問・反語を示す係助詞である。

例 いかなるをか知るといふべき。  
(徒然草・三八段)  
とんなものを(真の)知るといふべきだろうか。

⑧ テキストから、尊敬表現の入っている文を抜き出してみました。  
——の語に注意して、口語訳しなさい。

▼尊敬表現＝敬語法の一つで、相手や、第三者(話題となっている人物)の動作を高めて敬意を示す表現。動詞そのものが尊敬の意味をもっている場合と、一般の動詞に「給ふ」などの補助動詞や、「る・らる」などの助動詞をつけて尊敬の意味を示す場合とがある。

(1) われ、朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて、知りぬ。

(2) 子となり給ふべき人なめり。

—— 古典の学習では、敬語法は最も重要なポイントの一つです。敬語法には、他に謙讓表現と丁寧表現とがあります。今後、じっくり学習していきましょう。

⑨ 接続助詞の「ば」は、口語では「君が行けば、僕も行く。」のように、活用語の仮定形について、一般に仮定条件を示します。

ところが、文語では、仮定条件(文語の場合、未然形につく。)のほかに、確定条件(已然形について、「……すると」「……なので」「……だから」などの意を表す。)を示す場合がよくあります。

さて、テキストから抜き出した次の(1)～(5)の文では、「ば」がいずれも確定条件を示しています。——線部によく注意して、それぞれの文を口語訳しなさい。

(1) それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

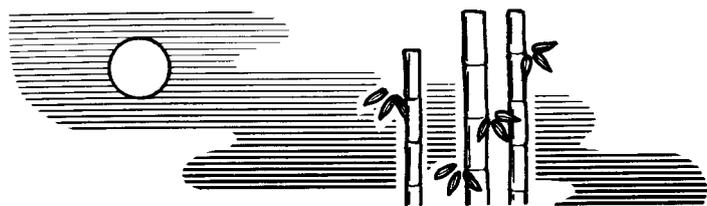
(2) いと幼ければ籠に入れて養ふ。

(3) 三月ばかりになるほどに、よきほどなる人になりぬれば、髪上げなどさうして、髪上げさせ、裳着す。

(4) この子を見れば、苦しきこともやみぬ。

(5) この子いと大きになりぬれば、名を三室戸齋部のあきたを呼びてつけさす。

7と9を振り返って、もう一度「通釈」と対照させておきましょう。残りあと少しです。ここで、ちよつとひと休みしましょう。



◆こくニア・ラ・カルト／伝承説話あれこれ◆

「竹取物語」が吸収したと考えられる伝承が、いくつか記録に残っている。「近江国風土記」や「丹後国風土記」にある、いわゆる羽衣説話に見られる天人昇天の話はよく知られているが、他にも「海道記」に伝える「鶯姫」の話などは、竹林の中の鶯の卵から生まれた小さな姫がわずかの間に成長する話で、興味深い類似性が見られる。

ところが、昭和四十七年ごろから、中国西奥のチベット地方の民間伝承のひとつ「斑竹姑娘」の話が紹介され、研究者たちは驚きのあまり声も出なくなつたという。それほど、この話は「竹取物語」とよく似ているのである。あらすじを紹介しておこう。

貧しい母子がわずかばかりの竹林を育てているが、領主のためにその竹を売られてしまう。竹を愛するこの少年がその竹の一本を割ると中からかわいい女の子が現れ、わずかの間に成長する。やがて成人すると、五人の求婚者が登場するが、娘はそれぞれに難題を与えて退けてしまい、この母子に富と幸福をもたらす。

細部にいたるまで、実によく似ていること驚くばかりだが、まだこの二つの話の関係はよくわかっていない。世界には不思議なことがまだまだあるものだ。

トレーニング

解答は112ページ

10 テキストの構成を、次のように整理してみました。( )に、適切な行数を書き込みなさい。

- (1) 竹取の翁おきなの紹介。 1行め〜 ( )行め
- (2) かぐや姫ひめの発見と養育。 ( )行め〜 8行め
- (3) 金かねのはいった竹により、翁おきなが豊かになつていく。 9行め〜 ( )行め
- (4) かぐや姫の不思議な成長ぶりと美しさ。 ( )行め〜 17行め
- (5) 翁が、さらに豊かになり、大金持ちになる。 17行め〜 ( )行め
- (6) かぐや姫の命名 ( )行め〜 20行め

きよつ最後のトレーニングで、内容をもう少し詳しくわしく読み取っていくことにしましょう。



11 テキストには、不思議な現象がいくつか描かれています。それを次のように整理してみました。「」に、不思議なことを簡潔に書きなさい。

(1) かぐや姫に直接かかわること。

(2) かぐや姫と関係はあるが、翁の視点からとらえられたこと。

12 テキスト中に一か所、誇張表現こちやうがあります。Aその部分を抜き出さない。Bまた、どんなことを誇張しているのか説明しなさい。

A

B

—— お疲れさま。よくがんばりましたね。では、最後に、文学史的なことがらを確認して、きょうのすべての学習を終わりにしましょう。

きょうの読解は「こ」までです。すぐに答え合わせをしましょう。



13 「竹取物語」のはいる文学のジャンル名を、漢字四字で答えなさい。

14 「竹取物語」の成立した時代を次から選びなさい。

- (ア) 奈良時代の終わりごろ (イ) 平安時代初期 (ウ) 平安時代の終わりごろ

〈文法〉文語と口語

古い日本語の文章を読んでいくとき、なにか頼りになるものがほしいなあ、とだれもが思うことでしょう。意味のわからないことばに出会うと、まず手もとの古語辞典を開いてみるが、けつきよく前後の続きぐあいがはつきりしなかったりしてよくわからない、こんな経験はだれもがもっているものです。

古文の学習を始めてから間もないあなたは、見知らぬ町を歩いている旅人のように、どこかに道しるべや案内図がないだろうか、と思っっているはずで。

この道しるべや案内図にあたるもの——これが「文法」だと考えてください。「文法」を理解していると、古文を読んでも、応用がきくのです。見知らぬ町を歩いていても、曲がりかどにくると道しるべがあり、案内図があるのですから、安心して歩いて行くことができるということです。

しかし、いくら道しるべや案内図があっても、その読み方がわからなくてはいかたがありません。「文法」もそれと同じです。まず身につけてしまうことが必要なのです。

ここでは、古文の学習で扱う教材の中から、文法的なことから整理して、それを体系的に（理解しやすい形にして）学習していこうというわけです。

さあ、とにかく、がんばっていきましょう。

五十音図

それでは、きょうの学習に入りましょう。まず五十音図からです。

ワ行	ラ行	ヤ行	マ行	ハ行	ナ行	タ行	サ行	カ行	ア行	
わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ	ア段
る	り	(い)	み	ひ	に	ち	し	き	い	イ段
(う)	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う	ウ段
ゑ	れ	(え)	め	へ	ね	て	せ	け	え	エ段
を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お	オ段

◎ 古典では、ワ行の「ゐ」と「ゑ」がたびたび出てきます。字体に注意して正しく書けるようにしましょう。

◎ 五十音図は、かなづかいなどを説明するのに用いられます。なかでも、「ア行」「ヤ行」「ワ行」の三行は、まちがいやすいのでしっかりと覚えてください。

### トレーニング

解答は12ページ

1 次の五十音図を完成させなさい。

												ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段
ワ行																
ラ行																
ヤ行																
マ行																
ハ行																
ナ行																
タ行																
サ行																
カ行																
ア行																

ヤ行・ワ行をまちがえてはいませんか。これができるうちには先に進んではいけません。



### 〈参考〉いろは歌

五十音図のほかにも、かな文字を示したものがあり、その代表的なものが「いろは歌」である。濁点を補って考えるのがポイント。

いろはにほへと ちりぬるを 色は匂へど 散りぬるを  
 わかよたれそ つねならむ わが世誰ぞ 常ならむ  
 うるのおくやま けふこえて 有為の奥山 今日越えて  
 あさきゆめみし ゑひもせす 浅き夢見じ 酔ひもせず

「いくら美しくても花は必ず散ってしまうものだ。そのようにこの世ではすべてが無常なのである。だから目の前のいろいろな現象に心を奪われることなく、夢に酔ったような生活をおくるまい。」の意。平安時代の中ごろには成立していた。

では次に、歴史的かなづかいについて学習しましょう。

### 歴史的かなづかい

▼古典のかなづかいを「歴史的かなづかい」といい、現代文に用いられるかなづかいを「現代かなづかい」という。

▼歴史的かなづかいの読み方で、現代かなづかいと異なる点は、主に次の二点である。

1 語中・語尾にあるハ行のかな(は・ひ・ふ・へ・ほ)は、それぞれ、ワ・イ・ウ・エ・オと読む。

2 母音が、あう・いう・えうと続く語は、それぞれオウ(ô)・ユウ(yū)・ヨウ(yô)と読む。

◎ 少しわかりづらい説明ですね。例をあげてくわしく説明すると次のようになります。特に長音(2)の読み方は、しっかりと覚えてください。

1 語中・語尾（語の初めでない部分）にあるハ行のかな（は・ひ・

ふ・へ・ほ）は、それぞれ、ワ・イ・ウ・エ・オと読む。

①は あはれ↓アワレ にはかに↓ニワカニ かは↓カワ

②ひ 笑ひにけり↓笑イニケリ かいもちひ↓カイモチイ

③ふ 食ふ↓食ウ 思ふ↓思ウ あらそふ↓アラソウ

④へ いらへたり↓イラエタリ 立ち給へり↓立チ給エリ

⑤ほ かほ（顔）↓カオ こほり（氷）↓コオリ

2 母音が、あう・いう・えうと続く語は、それぞれ、オウ（ô）・ユ

ウ（yû）・ヨウ（yô）と読む。1により、あふ・いふ・えふも同じで

ある。

①あう・あふ あふぎ（扇）↓オウギ

さうらふ（候ふ）↓ソウロウ

まうす（申す）↓モウス

②いう・いふ いうぜん（悠然）として↓ユウゼントシテ

わかしふ（和歌集）↓ワカシユウ

ひうが（日向）のくに↓ヒユウガノクニ

③えう・えふ えうなし（要なし・用なし）↓ヨウナシ

けふ（今日）↓キヨウ

てふてふ（蝶々）↓チヨウチヨウ

〈参考〉字音かなづかい

漢字の音をかなで表したものを「字音かなづかい」という。「歴史的か

なづかい」の一部である。例えば「京の都」は現代かなづかいでは「きよ

うのみやこ」であるが、字音かなづかいでは「きやうのみやこ」である。古文に出てくる漢語の意味を古語辞典で調べるときには、字音かなづかいで引かなければならないので注意が必要だ。

— それでは、トレーニングに進みましょう。

トレーニング

解答は112ページ

2 次にあげた語の読み方を、現代かなづかいで書きなさい。

(1) たはぶれ ( ) (2) やはらか ( )

(3) あらそひ ( ) (4) 思ひて ( )

(5) 問ふ ( ) (6) ゆふべ ( ) (7) うへ ( )

(8) かへる ( ) (9) さほ ( ) (10) しほ ( )

3 次にあげた語の読み方を、現代かなづかいで書きなさい。

(1) ひやうし ( ) (2) かうべ ( )

(3) たふとぶ ( ) (4) しゃうじ ( )

(5) いふ ( ) (6) きうり ( ) (7) りう ( )

(8) 行きませう ( ) (9) めうと ( )

(10) 酔ふ ( )

— では、実際の文章にあたって、検討してみましょう。



では、トレーニングです。

### トレーニング

解答は113ページ

#### 5 次の各文を文節にくぎり、傍線で示しなさい。

(1) 野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。(竹取物語)

野山に分け入って竹を取ってはいろいろのことに使っていたということだ。

〔 〕 文節

(2) かくて、翁おきなやうやう豊かになりゆく。(竹取物語)

こうして翁はしだいに豊かになってゆく。

〔 〕 文節

#### 6 次の各文を単語に分け、傍線で示しなさい。

(1) それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。(竹取物語)

それを見ると、三寸ぐらゐの人が、たいそうかわいらしい様子で座っていた。

〔 〕 語

(2) 翁、竹を取ること久しくなりぬ。(竹取物語)

翁は、(黄金の入っている)竹を取ることが長い間続いた。

〔 〕 語

次に、文節の種類について簡単にふれてみましょう。

### 文節の種類

1 主語・述語 花(主語)咲く。(述語)

2 修飾語 美しき花咲く。花美しく咲く。

3 独立語 あな、わびし。いざ、かいちひせむ。

#### ○ 文節を、その文中ではたらきによって分けると、主要なものは、次の三種類です。

1 主語・述語 花(主語)咲く。(述語) 〔何がどうする。〕

花 美し。 〔何がどんなだ。〕  
花 夕顔なり。 〔何が何だ。〕

このように、「何が」を示す文節を主語といい、「どうする」、「どんなだ」、「何だ」にあたる文節を述語といいます。

2 修飾語 美しき花咲く。(連体修飾語)  
花美しく咲く。(運用修飾語)

このように、「どんな」、「どんなに」と意味をくわしく表している文節を修飾語といいます。

3 独立語 あな、わびし。いざ、かいちひせむ。  
あ、残念だ。 さあ、かいちひを作ろう。

このように、文の一部を構成しているが、他の文節との関係が薄く、独立して用いられる文節を独立語といいます。

#### 〈参考〉並立の関係・補助の関係

文節のはたらきは、主に右にあげた三種類であるが、文によってはこの三種類では説明のつかない文節を含んでいる。ここにあげる、並立・補助がそれである。

1 並立の関係 われ、朝ごと夕ごとに見る竹の中に……

このように、上下の文節が対等の資格で並んでいるとき、それぞれを並立語といい、この関係を並立の関係という。

2 補助の関係 幼き人は、寝入り給ひにけり。

このように、上の文節(ここでは「寝入り」)を補助する文節を補助語といい、このような上下の関係を補助の関係という。

—— さあ、トレーニングをしましょう。

### トレーニング

解答は13ページ

7 次の各文中の傍線部分の、文節の種類をそれぞれ書きなさい。

(1) <sup>1</sup>あな、<sup>2</sup>わびし。  
(宇治拾遺物語・巻一の十二)  
ああ、残念だ。

1 ( ) ( ) 2 ( ) ( )

(2) <sup>1</sup>この児、<sup>2</sup>養ふほどに、<sup>3</sup>すくすくと<sup>4</sup>大きになりまさる。  
(竹取物語)  
この幼子は、育てるうちに、すくすくと大きく成長してゆく。

1 ( ) ( ) 2 ( ) ( )  
3 ( ) ( ) 4 ( ) ( )

—— 次は、いよいよ単語の学習です。まず、自立語と付属語から入りましょう。

### 自立語と付属語・活用

▼単語のうちで、単独で文節となれるものを「自立語」といい、単独では文節になれず、上にくる自立語について文節となるものを「付属語」という。

▼単語のうち、下にくる語によって語形の変わる語を「活用語」といい、語形が変わることを「活用」または「活用する」という。

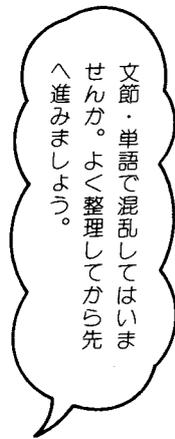
○ 次の文で、○をつけた語が自立語、×をつけた語が付属語です。確認してみましょう。

○×○×○×○×○×○×○×○×○×

これも今は昔、比叡の山に児ありけり。

「これも」が一つの文節でしたね。「これ」は、「これ、児なり。」というように単独で文節とされますから自立語、「も」はこの語だけでは文節になりません(意味がとれません)から付属語なのです。

○ 前の文のうち、「あり」は「ある」、「あれ」のように語形の変わる語です。このような語を活用語といい、このように語形が変わることを活用、または活用するといふのですね。



### トレーニング

解答は13ページ

8 次の各文をそれぞれ単語に分け、傍線で示しなさい。そして、自立語には○、付属語には×をつけなさい。

(1) あやしがりて寄りて見るに、筒つつの中光りたり。  
(竹取物語)  
不思議に思つて近寄つて見ると、(竹の)筒の中が光っている。

(2) 帳ちやうの内よりも出ださず、いつき養ふ。  
(竹取物語)  
とばりの中からも出さないうで、大切に育てる。

—— さあ、いよいよきょうの最後の学習に入りましょう。品詞とその分類についてです。

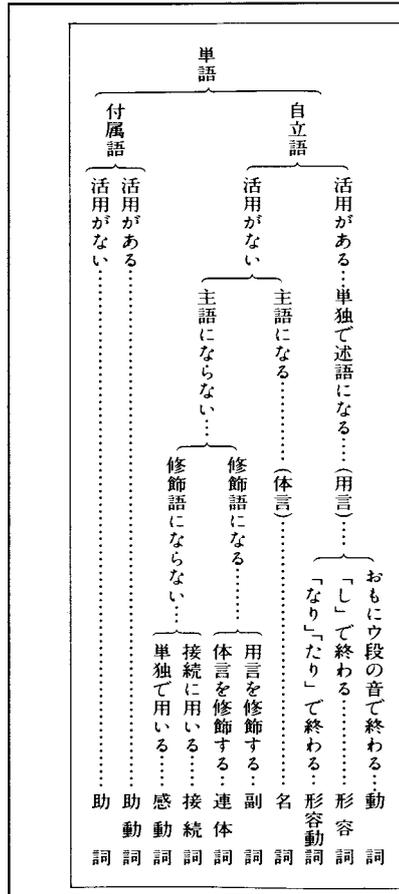
品詞と品詞分類表

▼すべての単語を、①自立語か付属語か、②活用するかしないか、③主語・述語・修飾語などになるかならないか、などの事項に基づいて区別したものを「品詞」という。

▼品詞は、次の十種類に分かれる。

- 1 動詞      2 形容詞      3 形容動詞      4 名詞      5 副詞
- 6 連体詞      7 接続詞      8 感動詞      9 助動詞      10 助詞

▼品詞分類表



① 一つ一つの品詞については、これから一年間でゆっくり学習していくわけです。きょうは、まず大きな気持ちで、右の品詞分類表とじっくりにらめっこをしてください。

② それぞれの品詞を説明するときは、品詞分類表を上から順にたどればよいのです。たとえば動詞なら、「自立語で、活用があり、単独で述語になり、言い切りの形がおもにウ段の音で終わる語」と説明し、助詞なら、「付属語で、活用がない語」と説明するわけですね。

＜参考＞活用連語

用言や体言に助動詞がついたものを「活用連語」という。「ありけり」「人なり」などの形をとる。

代名詞・数詞

「これ」「かれ」などの代名詞や、「一」「十」などの数詞は、本来は名詞であるが、品詞として取りあげることも多い。

さあ、トレーニングです。がんばりましょう。

トレーニング

解答は113ページ

⑨ 十品詞をすべて書きなさい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

⑩ 次の各説明で分類される品詞を、それぞれ書きなさい。

- (1) 自立語で、活用があり、単独で述語になり、言い切りの形がおもにウ段の音で終わる単語。 ( )
- (2) 自立語で、活用がなく、単独で主語になる単語。 ( )
- (3) 自立語で、活用がなく、主語にも述語にもならず、接続に用いられる単語。 ( )

きょうはここまでです。歴史的かなづかいと、文・文節・単語、それに品詞について学習したことになります。次のトレーニングでチェックしましょう。

<input type="checkbox"/> 五十音図・歴史的かなづかい	1
<input type="checkbox"/> 文・文節・単語	2
<input type="checkbox"/> 文節の種類	3
<input type="checkbox"/> 自立語と付属語	4
<input type="checkbox"/> 品詞と品詞分類表	5

右のまとめは、きょう学習したことがらが、それぞれ次の①～⑤の中の、どの問いで扱われているかを示しています。

きょう学習したことの総復習です。がんばりましょう。

**1** 次の各文中の傍線部は、それぞれどう読みますか。現代かなづかいで答えなさい。

(1) 昔、<sup>1</sup>を<sup>2</sup>とこ、うひかうぶりして、奈良の京、<sup>3</sup>春日の里に、しるよ  
 として、狩りに往<sup>い</sup>にけり。(伊勢物語・一段)  
昔、ある男が、元服して、奈良の都、春日の里に領地があつた縁で、狩りに出かけたということだ。

1 ( )                      2 ( )                      3 ( )

(2) いにしへの奈良の都の八重桜<sup>1</sup>けふ九重<sup>2</sup>にはほひぬるかな  
古都である奈良の都に咲いていた八重桜が、今、この京の都の宮中で、美しく咲き誇っていることだ。(詞花集・巻)

1 ( )                      2 ( )                      3 ( )

**2** 次の各文を文節に分け、それぞれ何文節になるか書きなさい。

(1) 管絃<sup>くわんげん</sup>は、よくよく用心あるべきことなり。(古今著聞集・巻六の十七)  
楽器を演奏するときには、細心の注意をはらわなければならないのである。

(2) 立てる者どもは、装束<sup>しやうとく</sup>の清らなること、物にも似ず。(竹取物語)  
立っている人たちは、衣装の美しいことといったら、たとえようもない。

(1) ( ) 文節                      (2) ( ) 文節

**3** 次の各文中の傍線部の、文節の種類を答えなさい。

(1) 昔、男、和泉の国<sup>1</sup>へ行きけり。(伊勢物語・六八段)  
昔、ある男が、和泉の国へ行ったということだ。

1 ( )                      2 ( )                      3 ( )

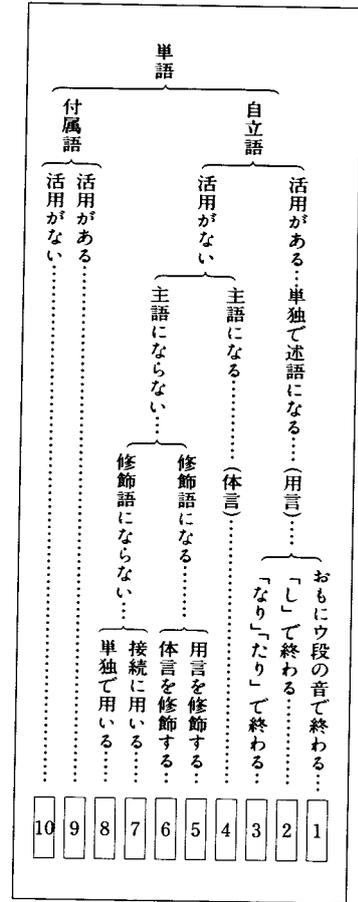
(2) いで、あな、をさなや。(源氏物語・若紫)  
あら、まあ、ずいぶんおとなげのないことですね。

1 ( )                      2 ( )                      3 ( )

**4** 次の文を単語に分け、自立語に○、付属語に×をつけなさい。

なにもなにも、ちひさきものはみなうつくし。(枕草子・二五一段)  
なんでもかんでも、小さいものはみな愛らしい。

5 次の品詞分類表の1〜10に入る品詞をそれぞれ書きなさい。



10	7	4	1
( )	( )	( )	( )
	8	5	2
	( )	( )	( )
	9	6	3
	( )	( )	( )

よくがんばりましたね。次回(来月)は、活用形の種類と、動詞の活用について学習しますよ。お疲れさま!

〈漢文入門〉送りがな・返り点

漢文とは何でしょう。漢文はもともと中国の古典語で書かれたもので、  
 調べてみれば、外国語です。次の文がそうです。

温故而知新。

これを日本人は、日本語で

故きを温ねて 新しきを知る。

と読めるようにしました。

これを訓読といます。つまり、訓読とは外国語である漢文を、日本語として読むことを意味しています。

訓読は、奈良から平安にかけてあみだされたようです。その訓読のおかげで、わたしたちは、ほんのわずかのルールを知れば、数千年前の外国の文章が、原文で読めるのです。

今日から少しずつ、そのルールを覚えて、「故きを温ねて 新しきを知る」喜びにひたろうではありませんか。

まず送りがなの学習から入っていきましょう。

送りがな

▼送りがなとは、漢文を訓読するときに、日本語の助詞・助動詞や、用言の活用語尾などを補って、漢文に書き加えるかなのことである。

▼送りがなは、原則として、歴史的かなづかいを用い、漢字の右下に、必ずかたかなで、小さく書く。

例 天<sup>てん</sup>長<sup>ちやう</sup>地<sup>ち</sup>久<sup>きう</sup>。(「天は長く 地は久し。」と読む)  
天地は永遠である。

● 漢文には日本語の用言の活用語尾にあたるものがなく、助詞(てにをは)や助動詞にあたる文字もほとんど用いません。ですから、漢文を訓読するときには、語と語との関係を明らかにするための適当な日本語の助詞・助動詞や、用言の活用語尾を「送りがな」として補います。

例えば、「天長地久」を、日本語で「天は長く 地は久し。」と読むためには、助詞の「は」と形容詞の活用語尾「く」・「し」を補って、「天<sup>てん</sup>長<sup>ちやう</sup>地<sup>ち</sup>久<sup>きう</sup>。」とします。このかなが「送りがな」です。

① 送りがないは、「天、長、地、久」の例でもわかるように、原則として、歴史的かなづかいを用い、漢字の右下に、必ずかたかなで、小さく書きます。次の具体例で確認しておきましょう。

(1) 大器 晩成。 (大器は晩成す。と読む。)

大きな器(偉大な人物のたとえ)は、完成するのに時間がかかる。

(2) 日暮途遠。 (日暮れて途遠し。と読む。)

日が暮れてしまったが、行く先の道のりはまだ遠い。(年をとっても、しなげればならないことがまだたくさんあることのとえ)

(3) 国破山河在。 (国破れて山河在り。と読む。)

都は(戦乱のために)破壊されてしまったが(自然の)山河は昔のまま残っている。

② 漢文にでてくる読みの難しい漢字に読み方を示すときには、「ふりがな」をひらがなでつけます。「送りがない」のかたかなと混同しないように注意してください。

(1) 去者日以疎。 (去る者は日に以て疎し。と読む。)

(親しかった人でも)離れるにしたがって、しだいに疎遠になっていく。

(2) 善游者溺、善騎者墮。 (善く遊ぶ者は溺れ、善く騎

る者は墮つ。と読む。)

うまく泳ぐ人は、(油断して)おぼれることがあるし、うまく馬に乗る人は、(油断して)落馬することがある。



## トレーニング

解答は114ページ

① ( )の中の読み方に従って、次の漢文に「送りがない」をつけなさい。

(1) 大器 晩成。 (大器は晩成す。)

(2) 日暮途遠。 (日暮れて途遠し。)

(3) 国破山河在。城春草木深。 (国破れて山河

在り。城春にして草木深し。)

都は(戦乱のために)破壊されてしまったが、(自然の)山河は昔のまま残っている。町に春はやってきたが(ただ)草や木が深々と茂っているだけだ。

② ( )の中の読み方に従って、次の漢文に「送りがない」をつけなさい。

(1) 一挙 兩得。 (一挙にして兩得す。)

一つのことをして、二つの利益を得る。

(2) 去者日以疎。 (去る者は日に以て疎し。)

(3) 善游者溺、善騎者墮。 (善く遊ぶ者は溺れ、善く騎る者は墮つ。)

答え合わせをし、まちがえていたら、もう一回説明を読んでから、トレーニングを繰り返しておきましょう。ひと息入れてから、次の学習です。

〈参考〉ヲコト点とテニヲハ

わたしたちの祖先は、漢文に送りがないなをつけるかわりに、点(・)を用いた。漢字の周りのきまつた位置に点をつけ、その位置によって「ヲ」と読んだり「コト」と読んだりするようにしたのである。

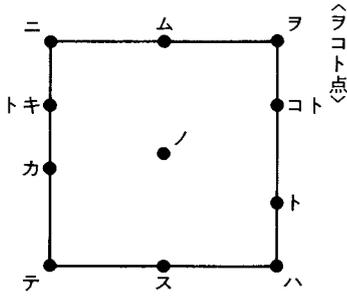
この点のことを「ヲコト点」といった。「ヲコト点」のつけ方は、時代や専門家によって違っていた。あとに示した図は、そのうちの代表的なものである。

図に示したきまりによって、たとえば「書」の右上のすみに点をつければ「書ヲ」と読み、「ヲ」の少し下の位置に点をつければ「書くコト」と読むことがわかる仕組みになっている。

「ヲコト点」ということばの由来は、簡単にわかるであろう。図の右上の二つの名(ヲとコト)をとってきたのである。

ところで、助詞のことを「テニヲハ」ということがある。この「テニヲハ」の名の由来も「ヲコト点」の図からきている。図の四すみの点を、左下から順に、時計回りで読んでいけば、「テニヲハ」になることがわかるであろう。

この「ヲコト点」も、かなの普及とともにすたれてしまったのである……。



書 ↓ 書ヲ

書 ↓ 書くコト

書 ↓ 書ハ

トレーニングの 1 2 で学習した漢文は、語順が日本語と同じです。確認しておきましょう。日本語と同じ語順の漢文は、それぞれの漢字を「音」または「訓」で読み、さらに適当な助詞・助動詞や、用言の活用語尾を補えば、訓読することができます。では、日本語と語順の違う漢文は、どうして訓読すればいいのでしょうか。それを次に学習します。

返り点 (一) レ点

▼返り点とは、漢文の語順を変えて、読む順序を示した符号のことをいう。返り点には「レ点」「二点」「上下点」などがあり、漢字の左下に小さく書く。「返り点」と「送りがない」を合わせて「訓点」という。

▼「レ点」(れてん)は、「レ」の符号のことで、下の一字からすぐ上の一字に返って読むことを示す。

例 治<sub>レ</sub>国。(国を治む。)

● 漢文と日本語の語順が違う場合、漢文の語順を日本語の語順に直して訓読します。例えば、漢文の「治国」は、日本語では「国を治む」となるから、語順を変える符号をつけて「治<sub>レ</sub>国<sub>二</sub>」とします。「レ」のような符号を返り点といいます。

返り点には「レ点」「二点」「上下点」などがあります。まず、「レ点」から順に学習していくことにしましょう。

● 「レ点」は「レ」の符号のことで、下の一字からすぐ上の一字に返って読むことを示しています。次に例をあげ、読む順序がわかりやすいように□に番号を入れておきます。

(1) 得<sub>レ</sub>狐。(狐を得たり。)

(2) 縁<sub>レ</sub>木 求<sub>レ</sub>魚。(木に縁りて魚を求む。)

(3) 傍<sub>レ</sub>若 無<sub>レ</sub>人。(傍に人無きがごとし。)

(4) 玉 不<sub>レ</sub>琢 不<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>器。(玉 琢かざれば 器を成さず。)

- 1
- 3
- 2
- 6
- 5
- 4

玉は(もともと美質をそなえているが)、みがかなければ(立派な器にならない)。

○ 「返り点」は、前ページの例のように、漢字の左下に小さく書きます。

では、トレーニングです。

### トレーニング

解答は114ページ

③ ( ) の中の読み方に従って、次の漢文に「レ点」をつけなさい。

(1) 得 狐。(狐を得たり。)

(2) 縁 木 求 魚。(木に縁りて魚を求む。)

(3) 傍 若 無 人。(傍に人無きがごとし。)

(4) 玉 不 琢 不 成 器。人 不 学 不 知 道。(玉 琢か

ざれば 器を成さず。人 学ばざれば 道を知らず。)

玉は(もともと美質をそなえているが)、みがかなければ、立派な器にならない。  
(同様に) 人も(もともとよい素質をそなえているが)、学ばなければ道理がわからない。

ここで答え合わせをし、まちがえていたら、もう一度説明を読み、トレーニングを繰り返しておきましょう。

④ ( ) の中の読み方に従って、次の漢文に「レ点」と「送りがない」をつけなさい。

(1) 有 備 無 憂。(備へ有れば 憂ひ無し。)

(ふだんからいざというときの)準備をきちんとしておけば(万一)のことが起こっても)少しの心配もな

(2) 寸 鉄 殺 人。(寸鉄 人を殺す。)

小さな刃物で人を殺す。(簡単なことほど人の急所をつくたとえ)

(3) 少 年 易 老 学 難 成、一 寸 光 陰 不 可 輕。

(少年 老い易く 学 成り難し、一寸の光陰 軽んず可からず。)

若いと思つているうちにすぐに年老いてしまい、志している学問はなかなか進まないものである。(年月の進みは速いので) 少しの時間も惜しんで勉学に励みなさい。



### 返り点 (二) 一二点

▼返り点とは、漢文の語順を変えて、読む順序を示した符号のことをいう。返り点には「レ点」「二点」「上下点」などがあり、漢字の左下に小さく書く。「返り点」と「送りがない」を合わせて「訓点」という。

▼「一二点」は、「一・二・三……」の数字で、二字以上離れた下から、上の字に返って読むことを示す。

例 見 南 山。(南山を見る。) ③ ① ②。

① 「一二点」は、「一・二・三……」の数字で、二字以上離れた下から、上の字に返って読むことを示しています。具体例を見てみましょう。

(1) 思<sub>ニ</sub> 故郷<sub>ヲ</sub>。(故郷を思ふ。) ③ ① ②。

(2) 疑<sub>ニ</sub> 心<sub>ヲ</sub> 生<sub>ス</sub> 暗<sub>ニ</sub> 鬼<sub>ヲ</sub>。(疑心 暗鬼を生ず。)  
疑いの気持ちでいると、ありもしない恐れが生まれる。

① ② ⑤ ③ ④。

(3) 揚<sub>ニ</sub> 名<sub>ヲ</sub> 後<sub>ニ</sub> 世<sub>ニ</sub>。(名を後世に揚ぐ。)  
名を後世にとどろかせる。

① ④ ① ② ③。

(4) 吾<sub>ニ</sub> 無<sub>シ</sub> 以<sub>テ</sub> 見<sub>ニ</sub> 子<sub>ヲ</sub> 胥<sub>ヲ</sub>。(吾<sub>ニ</sub> 以<sub>テ</sub> 子<sub>ヲ</sub> 胥<sub>ヲ</sub> 見る<sub>ナシ</sub>。)  
わたしは子胥(人名)に顔を合わせられない。

① ⑥ ② ⑤ ③ ④。

② 返って読む語が二字の熟語の場合、続けて読む二字の間に「」を入れて、返り点をその間につけます。

(1) 得<sub>ニ</sub> 天<sub>ヲ</sub> 下<sub>ヲ</sub> 英<sub>ヲ</sub> 才<sub>ヲ</sub> 教<sub>ニ</sub> 育<sub>ス</sub> 之<sub>ヲ</sub>。(天下の英才を得て、之を教  
 育す。) ⑤ ① ② ③ ④ ⑦ ⑧ ⑥。

③ 「レ点」と「二点」とが、同じ文の中で使われるときには、次の例のようにして、読みます。

(1) 低<sub>レ</sub> 頭<sub>ヲ</sub> 思<sub>ニ</sub> 故郷<sub>ヲ</sub>。(頭を低れて 故郷を思ふ。)

② ① ⑤ ③ ④。

(2) 百<sub>ヲ</sub> 聞<sub>ハ</sub> 不<sub>レ</sub> 如<sub>シ</sub> 一<sub>ニ</sub> 見<sub>ユ</sub>。(百聞は一見に如かず。)  
百回聞くよりも一回見るほうがわかりやすい。

① ② ⑥ ⑤ ③ ④。

④ 「レ点」と「二点」の「一」が組み合わさった「レ」は、まず「レ点」で返り、次に「一」から「二」に返ります。

(1) 先<sub>ニ</sub> 即<sub>チ</sub> 制<sub>ス</sub> 人<sub>ヲ</sub> 後<sub>ニ</sub> 則<sub>チ</sub> 為<sub>ス</sub> 人<sub>ヲ</sub> 所<sub>ニ</sub> 制<sub>ス</sub>。(先んずれば即ち人を制し、後るれば則ち人の制する所と為る。)

① ② ④ ③ ⑤ ⑥ ⑩ ⑦ ⑨ ⑧。

先手を取れば人をおさえることができるが、後手に回れば他の人におさえられてしまう。

たくさん学習しました。トレーニングで確かめてみましょう。

## トレーニング

解答は114ページ

⑤ ( ) 中の読み方に従って、次の漢文に「一二点」をつけなさい。

(1) 疑<sub>ニ</sub> 心<sub>ヲ</sub> 生<sub>ス</sub> 暗<sub>ニ</sub> 鬼<sub>ヲ</sub>。(疑心 暗鬼を生ず。)

(2) 揚<sub>ニ</sub> 名<sub>ヲ</sub> 後<sub>ニ</sub> 世<sub>ニ</sub>。(名を後世に揚ぐ。)

(3) 吾<sub>ニ</sub> 無<sub>シ</sub> 以<sub>テ</sub> 見<sub>ニ</sub> 子<sub>ヲ</sub> 胥<sub>ヲ</sub>。(吾<sub>ニ</sub> 以<sub>テ</sub> 子<sub>ヲ</sub> 胥<sub>ヲ</sub> 見る<sub>ナシ</sub>。)

(4) 得<sub>ニ</sub> 天<sub>ヲ</sub> 下<sub>ヲ</sub> 英<sub>ヲ</sub> 才<sub>ヲ</sub> 教<sub>ニ</sub> 育<sub>ス</sub> 之<sub>ヲ</sub>。(天下の英才を得て、之を教

育す。)

(5) 懸<sub>ニ</sub> 羊<sub>ノ</sub> 頭<sub>ヲ</sub> 売<sub>ス</sub> 狗<sub>ノ</sub> 肉<sub>ヲ</sub>。(羊頭を懸けて、狗肉を売る。)  
(みかけの立派な羊の頭を見本に出して、(実際には粗末な)犬の肉を売る。)

(4)には、二字熟語があります。二字熟語の間には、「」が必要でしたね。

⑥ ( ) 中の読み方に従って、次の漢文に「レ点」や「二点」、「送りがな」をつけなさい。

(1) 低頭思故郷。(頭を低れて 故郷を思ふ。)

(2) 百聞不如一见。(百聞は一見に如かず。)

(3) 先即制人、後則为人所制。(先んずれば即ち人を制し、後るれば則ち人の制する所となる。)

(4) 不入虎穴、不得虎子。(虎穴に入らずんば、虎子を得ず。)

虎のいる穴に入っていかなければ、虎の子はとらえることができない。冒険しなければ、志していることは成し遂げられない、というたとえ。

(5) 為鶏口勿為牛後。(鶏口と為るも牛後と為る勿かれ。)

ここで答え合わせをし、できたら、次に進みましょう。まちがえていたら、その部分を繰り返してから次に進みましょう。



返り点 (三) 上下点

▼返り点とは、漢文の語順を変えて、読む順序を示した符号のことをいう。返り点には「レ点」「二点」「上下点」などがあり、漢字の左下に小さく書く。「返り点」と「送りがな」を合わせて「訓点」という。

▼「上下点」は、同じ文中で「二点」を一度以上使い、さらに「二点」を越えて読むときに使う符号で、「上・下」あるいは「上・中・下」を用いる。

例 悪<sub>下</sub>称<sub>二</sub>人之<sub>レ</sub>悪<sub>上</sub>者<sub>上</sub>。(人の悪を称する者を悪む。)

⑥<sub>下</sub> ④<sub>二</sub> ① ② ③<sub>レ</sub> ⑤<sub>上</sub>

◎ 「上下点」は、同じ文中で「二点」を一度以上使い、さらに「二点」を使いたいのだが、すでに使ったものと混同してしまう場合に使います。

たとえば、  
「悪称人之悪者。」  
という文を

「人の悪を称する者を悪む。」  
と読むためには、最初に読む方に「二点」をつけて、

称<sub>二</sub>人之<sub>レ</sub>悪<sub>上</sub> (人の悪を称する)

とし、次に読む方に「上下点」をつけて、  
悪<sub>下</sub> ( ) ( ) ( ) 者<sub>上</sub> (者を悪む)

とすれば、  
悪<sub>下</sub> 称<sub>二</sub>人之<sub>レ</sub>悪<sub>上</sub> 者<sub>上</sub>

となります。

例をもう一つあげておきましょう。

客有能為鶏鳴者。(客に能く鶏鳴を為す者有り。)

食客(「しよつかく」と読む。いそろうろうの一種)の中に、にわたりの鳴きまねのうまい者がいる。

上・中・下は、上・中・下の順に読むことを示しています。

如揮快刀断乱麻。(快刀を揮って乱麻を断つがごとし。)

よく切れる刀をふるって、もつれた麻糸を断ち切るようだ。(難問題を明快に解決することのたとえ)

「レ点」と「上下点」の「上」とが組み合わさった「上」は、まず「レ点」で返り、次に「上」から「中」や「下」に戻ります。

勿以恶小为之。(悪の小なるを以て之を為すこと勿かれ。)

悪事が小さなことだからといって、これを実行してはいけない。

〈参考〉 甲乙丙点・天地人点

なお、「上下点」を使い、さらに「上下点」を越えて返るときは、「甲乙丙点」を使います。さらに「甲乙丙点」を越えて返るときは、「天地人点」を使います。

しかしこれらは、高校の漢文では、ほとんど使いません。また、でてきても、「一二点」や「上下点」と同じ手順で読めばいいので、ここでは、とりたてて扱いません。

では、トレーニングです。

トレーニング

解答は114ページ

7 (一)の中の読み方に従って、次の漢文に返り点(レ点・一二点・上下点)と送りがないをつけないさい。

(1) 悪称人之恶者。(人の悪を称する者を悪む。)

(2) 客有能為鶏鳴者。(客に能く鶏鳴を為す者有り。)

(3) 如揮快刀断乱麻。(快刀を揮って乱麻を断つがごとし。)

(4) 勿以恶小为之。(悪の小なるを以て之を為すこと勿かれ。)

(5) 不為兒孫買美田。(兒孫の為に美田を買はず。)

子孫のために財産(美田)を残さない。

きょうの学習はここまでです。次のトレーニングで、きょう学習したことをチェックしましょう。

まとめのトレーニング

解答は114ページ

1 (一)の中の読み方に従って、次の漢文に「送りがない」をつけないさい。

(1) 大器晚成。(大器は晩成す。)

(2) 善游者溺、善騎者墮。(善く遊ぶ者は溺れ、善く騎る者は墮つ。)

② (一)の中の読み方に従って、次の漢文に「レ点」と「送りがない」をつけなさい。

(1) 有備無憂。(備へ有れば 憂ひ無し。)

(2) 傍若無人。(傍に人無きがごとし。)

③ (一)の中の読み方に従って、次の漢文に「レ点」や「二点」、「送りがない」をつけなさい。

(1) 百聞不如一見。(百聞は一見に如かず。)

(2) 先即制人、後則為人所制。(先んずれば即ち人を制し、後るれば則ち人の制する所と為る。)

④ (一)の中の読み方に従って、次の漢文に返り点(レ点・二点・上下点)と送りがないをつけなさい。

(1) 不為兒孫買美田。(兒孫の為に美田を買はず。)

(2) 勿以惡小為之。(惡の小なるを以て之を為すこと勿

かれ。)

—— 高校のトレペでの初めての漢文、いかがでしたか。よくがんばりましたね。次回は「書き下し文」の学習になります。

ご苦労さま。ひと休みして、ほかの教科の勉強もがんばってください。なにことも初めが肝心ですね。



〈漢文入門〉書き下し文

漢文の学習の二回目です。

前回は、訓点(返り点や送りかな)について学習しましたね。きょうは、「書き下し文」について学習します。

漢文を訓点に従って日本語の語順に書きあらためた文を「書き下し文」といいます。前回の学習で、漢文の読み方を日本語の文で示してしましたね。それが「書き下し文」です。

「書き下し文」に従って漢文に訓点をつけたり、漢文を「書き下し文」に書きあらためたりする練習は、とても大切なことです。

まず、前回の復習をしてから、きょうの学習を進めていきましょう。

復習トレーニング

解答は114ページ

① ( ) の中の読み方に従って、次の漢文に送りかなや返り点(レ点や一二点、上下点)をつけなさい。

- (1) 国破山河在。(国破れて山河在り。)
- (2) 少年易老学难成。(少年老い易く学成り難し。)
- (3) 玉不琢不成器。(玉琢かざれば器を成さず。)

- (4) 懸羊頭、売狗肉。(羊頭を懸けて、狗肉を売る。)
- (5) 百聞不如一見。(百聞は一見に如かず。)
- (6) 不入虎穴、不得虎子。(虎穴に入らざれば、虎子を得ず。)
- (7) 惡称人之惡者。(人の惡を称する者を惡む。)
- (8) 不為兒孫買美田。(兒孫の為に美田を買はず。)
- (9) 先即制人、後則為人所制。(先んずれば即ち人を制し、後るれば則ち人の制する所と為る。)

すぐに答えを合わせておきましょう。

ここで、送りかなと返り点について簡単に確認しておきましょう。

送りかなは、原則として、歴史的かなづかいを用い、漢字の右下に、必ずかたかなで、小さく書く。

レ点は、下の一字からすぐ上の一字に返って読むことを示す。  
一二点は、二字以上離れた下から、上の字に返って読むことを示す。  
上下点は、同じ文中で一二点を一度以上使い、さらに一二点を越えて読むときに使う。

返り点は、漢字の左下に、小さく書く。

それでは、きょうの学習に入りましょう。「書き下し文」とは何か、ということからです。

## 書き下し文 (一)

▼漢文を訓点(返り点や送りがな)に従って日本語の語順に書きあらためた文を「書き下し文」という。

○漢字だけで書かれ、(句読点・返り点・送りがなのまったくない漢文を「白文」といいます。

「白文」に訓点をつけ、それに従って、日本語の語順に書きあらためた文を「書き下し文」というのです。左の例を見て確かめましょう。

- 1 白文(漢文) 少年 易 老 学 難 成。
- 2 訓読漢字 少年 易、老、学 難、成。
- 3 書き下し文 少年 老い易く 学 成り難し。

漢文は読めなければ、どうしようもありませんね。漢文が読めるかどうかを見るには、「書き下し文」に直させるのがいちばんてっとりばやい方法です。「書き下し文」に従って漢文に訓点をつける練習をするとともに、漢文を正確に「書き下し文」に直せるように練習しましょう。

「白文」と「書き下し文」の違いを、トレーニングで確認しましょう。



## トレーニング

解答は115ページ

1 次の文のどちらが「白文」で、どちらが「書き下し文」ですか。〔 〕に書きなさい。

- (1) 百聞 不如 一見。〔 〕
- (2) 百聞は一見に如かず。〔 〕

漢文を読む実力をつけるためには、一度習った文を自分で「白文」に直し、これを繰り返し朗読して、訓点を正確につけられるようにし、さらに「書き下し文」に直せるように練習するといいですよ。

次は、「書き下し文」に書きあらためる学習です。

## 書き下し文 (二)

▼漢文を「書き下し文」に書きあらためるときには、一般に次の原則に従う。

- (1) 送りがないは歴史的かなづかいを用い、すべてひらがなで書く。

例 国 破 山 河 在。 ↓ 国 破れて 山河 在り。

- (2) 日本語の助詞や助動詞にあたる漢字は、ひらがなで書く。
- (3) 訓読しない漢字は書かない。
- (4) 一字で二度にわたって読む漢字は、最初に読むほうを漢字で書き、二度めに読むほうは、ひらがなで書く。

① まず、送りがなの書き方を学習します。

「書き下し文」では、送りがなはひらがなで書きます。例を見て確認しておきましょう。

(1) 大器<sup>ハ</sup> 晩成<sup>ス</sup>

↓ 大器は晩成す。

(2) 善游<sup>ハ</sup> 者<sup>ハ</sup> 溺<sup>ハ</sup> 善騎<sup>ハ</sup> 者<sup>ハ</sup> 墮<sup>ハ</sup>

↓ 善く遊ぶ者は溺れ、善く騎る者は墮つ。

右の例でわかるように、漢文につける送りがなはかたかなですが、

「書き下し文」ではひらがなで書きます。注意しましょう。

② 送りがなは、歴史的かなづかいで書きます。これは漢文につける場合と同じです。

トレーニングで、送りがなをつけて「書き下し文」に直してみましよう。

② 次の漢文を「書き下し文」に書きあらためなさい。

(1) 日暮<sup>シ</sup> 途遠<sup>シ</sup>

(2) 一挙<sup>ニ</sup> 兩得<sup>ス</sup>

(3) 去者<sup>ハ</sup> 日以<sup>テ</sup> 疎<sup>ク</sup>

(4) 国破<sup>レ</sup> 山河在<sup>リ</sup>。城春<sup>ニ</sup> 草木深<sup>ク</sup>。

(5) 読書<sup>ハ</sup> 百遍<sup>ニ</sup> 其義<sup>ハ</sup> 自見<sup>ル</sup>  
本を百回も読めば、意味が自然にわかってくる。

ふりがなは、特に指示がない限り、つける必要はありません。この文はすべて送りがなをつけるだけでいいですね。次に進みましょう。

### 書き下し文 (三)

▼漢文を「書き下し文」に書きあらためるときには、一般に次の原則に従う。

(1) 送りがなは歴史的かなづかいを用い、すべてひらがなで書く。

(2) 日本語の助詞や助動詞にあたる漢字は、ひらがなで書く。

例 玉<sup>ハ</sup> 不<sup>レ</sup>琢<sup>ル</sup> 不<sup>レ</sup>成<sup>ル</sup> 器<sup>ナリ</sup>

↓ 玉琢かざれば 器を成さず。

(3) 訓読しない漢字は書かない。

例 折<sup>レ</sup>頸<sup>ニ</sup> 而<sup>シテ</sup> 死<sup>ス</sup> ↓ 頸を折りて 死す。

(4) 一字で二度にわたって読む漢字は、最初に読むほうを漢字で書き、二度めに読むほうはひらがなで書く。

① 日本語の助詞や助動詞にあたる漢字には、次のようなものがあります。

(1) 不(「……ず」と読んで、否定の意味を表します。)

例 人 不<sub>レ</sub>学、不<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>道。

↓ 人 学ばざれば 道を知らず。

(2) 可(「……べし」と読んで、可能や許可などの意味を表します。)

例 可<sub>レ</sub>見<sub>ル</sub>。↓ 見るべし。

「可」は「不<sub>レ</sub>可<sub>ク</sub>」となると、不可能の意味を表します。

(3) 之(「の」と読んで、下の語を修飾する。)

(4) 者(「は」と読んで、主語を示す。)

(5) 也(「なり」と読んで、断定を表す。)

例 教化者、国家之急務也。

↓ 教化は、国家の急務なり。

教育によつて国民を導いていくことは、国家の第一になすべきことである。

ここにあげたのは、まだ一部ですが、これ以外のものは、徐々に学習していくことにします。ここでは、日本語の助詞や助動詞にあたる漢字はひらがなで書くというのを覚えておいてください。

② 訓読しない漢字もいくつか例をあげてみましょう。

(1) 而(接続詞。これに接続する漢字に「……て」(順接)、あるいは

「……トモ」(逆接)をつけて読む。)

例 温<sub>レ</sub>故<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>知<sub>ル</sub>新<sub>レ</sub>。↓ 故きを温ねて 新しきを知る。

古いことを研究して、そこから新しいことを理解する。

(2) 於・于・乎(場所・目的・対象などを表す。)

例 青 出<sub>ニ</sub>於<sub>ニ</sub>藍<sub>ニ</sub>而<sub>レ</sub>青<sub>ニ</sub>於<sub>ニ</sub>藍<sub>ニ</sub>。

↓ 青は藍より出でて、藍よりも青し。

青い染料は(植物の)藍草からできるが、藍草よりも青い色をしている。

(3) 矣・焉(文末に置かれて、断定・確認の意味を表す。)

例 聞<sub>ル</sub>者皆感嘆焉。↓ 聞く者は皆 感嘆せり。  
(それを)聞いていた者は、皆感動した。

これ以外の訓読しない漢字も、これから出てくるたびごとに、一つずつ確実に学習していくことにしましょう。

では、トレーニングをしながら、確認していきましょう。

### トレーニング

解答は15ページ

③ 次の漢文を「書き下し文」に書きあらためなさい。

(1) 玉不<sub>レ</sub>琢不<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>器。人 不<sub>レ</sub>学 不<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>道。

(2) 一寸光陰不可<sub>レ</sub>軽<sub>ク</sub>。

(3) 教化者、国家之急務也。

どれが日本語の助詞や助動詞にあたるかを考えれば、できますね。次は、訓読しない漢字のトレーニングです。

4 次の漢文を「書き下し文」に書きあらためなさい。

(1) 温故而知新、可以為師矣。  
古いことを研究して、そこから新しいことを理解することができれば、人の師(先生)となることができる。

(2) 青出於藍、而青於藍。

(3) 良藥苦於口、而利於病。  
良い薬は飲むとにがいが、病気にはよくきく。

(4) 有朋自遠方來、不亦樂乎。  
友人がいて、遠方からやって来るのは、何と楽しいことではないか。

(5) 聞者皆感嘆焉。

(1) のように「可」が「以」とつながると、二字で可能の意味を表します。「矣」はここでは読みません。また、「不」にも注意しましょう。まず「レ点」を読んでから「二点」に従って読むですね。  
 (2) の「而」は順接、(3) は逆接の接続詞ですね。  
 (4) の「目」は「より」と読んで、もちろんひらがなにします。「不亦……乎」は、「何と……ではないか」という意味です。

ここで答え合わせをして、まちがえているものがあつたら、繰り返しトレーニングしましょう。完全にできたら、次の学習にすすみましょう。



書き下し文 (四)

▼漢文を「書き下し文」に書きあらためるときには、一般に次の原則に従う。

- (1) 送りがなは歴史的かなづかいを用い、すべてひらがなで書く。
- (2) 日本語の助詞や助動詞にあたる漢字は、ひらがなで書く。
- (3) 訓読しない漢字は書かない。

(4) 一字で二度にわたって読む漢字は、最初に読むほうを漢字で書き、二度めに読むほうはひらがなで書く。

例 用<sub>レ</sub>人<sub>ヲ</sub>宜<sub>ク</sub>取<sub>ル</sub>其<sub>ノ</sub>所<sub>ニ</sub>長<sub>シ</sub>。

↓ 人を用ふるには宜しく其の長ずる所を取るべし。

人を使うときには、その人の長所を見て使うのがよい。

◎ 漢字一字で二度読む漢字があります。これを「再読文字」といいます。「再読文字」には、次のようなものがあります。

(1) 未(「未だ……ず」と読んで、「まだ……でない」という意味になります。)

例 学 未 成 而 帰。 ↓ 学 未 だ 成 ら ず し て 帰 る。

学問がまだ成就していないが(故郷に)帰った。

右の例でわかるように、二度めに読むときの送りがないは、漢字の左側に小さく書きます。(教科書によって少し違うこともあります。)

(2) 将(「将に……(んと)す」と読んで、「今にも……しようとする」の意味を表します。)

例 人 之 将 死、其 言 也 善。

↓ 人 の 将 に 死 せ ん と す る や、其 の 言 や 善 し。

人が今にも死にそうなどに言うことには真実がある。

(3) 猶(「猶ほ……とし」と読んで、「ちょうど……のようである」の意味を表します。)

例 過 猶 不 及。 ↓ 過 ぎ た る は 猶 ほ 及 ば ざ る が と し。

度を過ぎたものは、ちょうど足らないのと同じようによくないことである。

このほかに、次のようなものがあります。

○ 且(「且に……(んと)す」) ○ 当(「当に……べし」)

○ 応(「応に……べし」) など。

なお、「再読文字」は7月号でもう一度くわしく学習しますので、ここでは、漢字一字で二度にわたって読むものは、最初に読むほうを漢字で書き、二度めに読むほうをひらがなで書くのだ、ということをしちんと押さえておけばいいでしょう。

〈参考〉返読文字と助字(置き字)

前に出てきた「不」「可」などは、よほどの例外を除いて、訓読するときには、上に返って読みます。こういう漢字を「返読文字」という。

「返読文字」には、「非・勿・使」などの漢字がある。出てくるたびに、指摘するので、そのつど一つ一つをきちんと自分のものにするのが肝心。また、日本語の助詞や助動詞にあたる漢字を「助字」とか「置き字」とかということがある。これも、出てくるたびに指摘するから、そのたびに自分のものにしてほしい。

では、トレーニングです。

トレーニング

解答は115ページ

5 次の漢文を「書き下し文」に書きあらためなさい。

(1) 用 人 宜 取 其 所 長

(2) 学 未 成 而 帰。

(3) 人 之 将 死、其 言 也 善。

(4) 過 猶 不 及。

(1)と(3)の「其」は代名詞ですから、漢字で書きます。

⑥ 次の漢文を「書き下し文」に書きあらためなさい。

(1) 君 自<sub>二</sub>故郷<sub>一</sub>来。 応<sub>レ</sub>知<sub>二</sub>故郷<sub>一</sub>事。

(2) 兄弟<sub>ハ</sub>猶<sub>ニ</sub>左右<sub>一</sub>之手。

(1)の「応」は「応に……べし」と読みます。

きょうの学習はここまでです。  
次のトレーニングで、きょう  
学習したことをチェックしま  
しょう。



まとめのトレーニング

解答は115ページ

① 次の漢文を「書き下し文」に書きあらためなさい。

(1) 去<sub>ル</sub>者<sub>ハ</sub>日<sub>ニ</sub>以<sub>テ</sub>疎<sub>レ</sub>。

(2) 読書百遍<sub>ハ</sub>其<sub>ノ</sub>義<sub>ヲ</sub>自<sub>ラ</sub>見<sub>ル</sub>。

送りがなの確認です。

② 次の漢文を「書き下し文」に書きあらためなさい。

(1) 一寸<sub>ハ</sub>光陰<sub>ハ</sub>不可<sub>レ</sub>輕<sub>ク</sub>。

(2) 教化者、国家之急務也。

(3) 温<sub>ク</sub>故<sub>ク</sub>而知<sub>レ</sub>新<sub>ク</sub>、可<sub>レ</sub>以<sub>テ</sub>為<sub>ル</sub>師<sub>ト</sub>矣。

(4) 青<sup>ハ</sup>出<sup>テ</sup>於<sup>リ</sup>藍<sup>ニ</sup>、而<sup>シテ</sup>青<sup>ニ</sup>於<sup>リ</sup>藍<sup>ニ</sup>。

(5) 聞<sup>ク</sup>者<sup>ハ</sup>皆<sup>ハ</sup>感<sup>ズ</sup>嘆<sup>ス</sup>焉<sup>。</sup>

—— 日本語の助詞や助動詞にあたるもの、訓読しない漢字の見分けはできま  
したね。

③ 次の漢文を「書き下し文」に書きあらためなさい。

(1) 学<sup>ビ</sup>未<sup>ダ</sup>成<sup>リ</sup>、而<sup>シテ</sup>帰<sup>ル</sup>。

(2) 兄<sup>ハ</sup>弟<sup>ハ</sup>猶<sup>モ</sup>左<sup>ニ</sup>右<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>手<sup>ニ</sup>。

—— よくがんばりましたね。次回(来月)は、もう少しまとまったものを読んで  
漢文に慣れる学習です。

お疲れさま。ゆっく  
休んでください。



確認テスト

高校生になって、古典という新しい学科を、一か月学習してきましたが、感想はどうですか。今月は、古文では、「宇治拾遺物語」「竹取物語」、文語と口語、漢文では、送りがな、返り点、書き下し文の学習を行いました。

きょうは、確認テストで、その基本的なポイントを、もう一度、復習し、「十訓抄」の一節を読んで、さらに古典に親しみましょう。

● 古文の語釈・通釈は、解答中で示してあります。

● 答え合わせをするときは、解説や採点をよく読んで確かめなさい。

● 始める時刻を確かめて、さあ、スタートです。

時 間
50分
得 点
100

解答は116ページ

1 例にならって、次の各文の——線部の意味を書きなさい。

(各1点計18点)

例 さりとて、し出ださん<sup>しゅつださん</sup>を待ちて

〔 作り出す 〕

(1) 僧たち、宵のつれづれに

〔 〕

(2) 定めて驚かさんずらんと

〔 〕

(3) 定めて驚かさんずらんと

〔 〕

(4) いま一声呼ばれていらへんと、念じて寝たるほどに

〔 〕

(5) な起こし奉りそ。

〔 〕

(6) あな、わびしと思ひて

〔 〕

(7) また衣着ぬ妻子なども、さながら内にありけり。

〔 〕

(8) あはれ、しつるせうとくかな。

〔 〕

(9) 年ごろはわろくかきけるものかな。

〔 〕

(10) こはいかに、かくては立ち給へるぞ。あさましきことかな。

(11) なんてふものをつくべきぞ。

(12) させる能もおはせねば、ものをも惜しみ給へ。

(13) あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。

(14) いとうつくしうてあたり。

(15) いとうつくしうてあたり。

(16) かくて、翁やうやう豊かになりゆく。

(17) この児のかたちけうらなること世になく

(18) 翁、竹を取ること久しくなりぬ。

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

\*やまもたないなごんあまさまきやう  
 楊梅大納言頭雅卿は、若くよりいみじき言失をぞし給ひける。神1  
 無月のころ、ある宮ばらに参りて、御簾の外にて女房たちと物語り2  
 せられけるに、時雨のさとしければ、供なる雑色を呼びて、「車の降3  
 るに、時雨さし入れよ。」とのたまひけるを、「車軸とかや、恐ろし4  
 や。」とて、御簾の内笑ひあはれけり。ある女房の、「かやうなる御5  
 言ひ違への常にありと聞こゆれば、げにや、御祈りのあるぞや。」と6  
 言はれければ、「そのために三尺の鼠を作りて、供養せんと思ひ侍7  
 る。」と言はれたりける。をりふし、鼠の、御簾の走り通りける8  
 を見て、観音に思ひまがへてのたまひけるなり。時雨さし入れよに9  
 はまさりてをかしかりけり。

● 語句注 (数字は行数を示す)

1 楊梅大納言頭雅卿 一〇七四年(承保元)〜一一三六年(保延二)。

右大臣源 頭房の子。

1 神無月 陰曆十月の別称。

2 宮ばら 皇族のもと。

2 御簾 貴人のいる部屋のすだれ。

3 雑色 走り使いや雑事をつとめる家来。

(1) 次にあげた語の読み方を、現代かなづかいで書きなさい。

(各1点計4点)

(ア) 給ひ (イ) のたまひ

(ウ) 笑ひあはれけり

(エ) 言ひ違へ

(2) 次の各文の——線部を口語訳しなさい。(各2点計8点)

(ア) 楊梅大納言頭雅雅卿は、若くよりいみじき言失をぞし給ひける。

(イ) 車の降るに、時雨さし入れよ。

(ウ) そのために三尺の鼠を作りて、供養せんと思ひ侍る。

(エ) をりふし、鼠の、御簾の際を走り通りけるを見て、観音に思ひまがへてのたまひけるなり。

(3) 次の各文の——線部の、省略されている主語を指摘しなさい。

(ア) 神無月のころ、ある宮ばらに参りて、

(各2点計4点)

(イ) 「そのために三尺の鼠を作りて、供養せんと思ひ侍る。」と言はれたりける。

(4) 本文から、係り結びの文を抜き出してみました。例にならって、係り結びになっている係助詞と結びの語に——線を引きなさい。(2点)

例 あざ笑ひてこそ立てりけれ。

若くよりいみじき言失をぞし給ひける。

(5) 「のたまひける」(4行め、9行め)とありますが、「のたまふ」は、「言う」の尊敬語で、「おっしゃる」という意味です。では、それぞれ、だからだれへの敬意を表していますか。(各2点計4点)

(ア) 「車の降るに、時雨さし入れよ。」とのたまひけるを、(3行め)

(イ) 観音に思ひまがへてのたまひけるなり。(9行め)

(6) 「かやうなる御言ひ違へ」(5～6行め)とありますが、具体的にどういふことを言っているのか説明しなさい。(5点)

- (7) (ア) 「そのために三尺の鼠を作りて、供養せんと思ひ侍る。」(7行め)と、楊梅大納言顕雅卿が言い違えたのはなぜですか。(3点)

(イ) また、何と何を言い違えたのですか。(3点)

〔 〕  
〔 と 〕  
〔 〕

- ③ 次の各文中の——線部の、文節の種類を、それぞれ書きなさい。

(各2点計6点)

(1) あはれ、しつるせうとくかな。(宇治拾遺物語・巻三ノ六)  
ああ、えらいもうけものをしたことだ。

〔 〕  
〔 〕

(2) 比叡の山に兎ありけり。(宇治拾遺物語・巻二ノ十二)  
比叡の山に二人の兎がいた。

1 〔 〕  
2 〔 〕

- ④ 次の文をそれぞれ単語に分け、——線で示しなさい。そして、自立語には○、付属語には×をつけなさい。(3点)

人のかかする仏もおはしけり。(宇治拾遺物語・巻三ノ六)  
他人が注文して描かせている仏もいらつやつた。

- ⑤ 次の各説明で分類される品詞を、それぞれ書きなさい。(各1点計2点)

(1) 自立語で、活用があり、単独で述語になり、言い切りの形がおもに「し」で終わる単語。

〔 〕

(2) 自立語で、活用がなく、主語にも述語にもならず、体言を修飾する単語。

〔 〕

- ⑥ 次の説明に該当する作品名を、後から選んで書き入れなさい。(各1点計2点)

(1) 作者は不明。平安時代の初期に成立したらしく、日本最古の物語といわれている。

〔 〕

(2) 鎌倉時代の説話文学のうちで、最もすぐれたものとして価値の高いもの。「今昔物語集」にならって作られ、本書一九七話のうち、約八十話は、「今昔物語集」のものと同話である。民衆の間で語りつがれてきた話が数多く収められ、当時の庶民の生活をうかがうことができる。

〔 〕

・源氏物語 ・宇治拾遺物語 ・枕草子 ・竹取物語

7 ( ) 中の読み方に従って、次の漢文に送りがないをつけなさい。(各2点計4点)

- (1) 国破山河在。(国破れて山河在り。)
- (2) 城春草木深。(城春にして草木深し。)

8 ( ) 中の読み方に従って、次の漢文にレ点と送りがないをつけなさい。(各2点計4点)

- (1) 縁木求魚。(木に縁りて魚を求む。)
- (2) 人不学不知道。(人学ばざれば道を知らず。)

9 ( ) 中の読み方に従って、次の漢文にレ点や一二点、送りがないをつけなさい。(各2点計4点)

- (1) 疑心生暗鬼。(疑心暗鬼を生ず。)
- (2) 低頭思故郷。(頭を低れて故郷を思ふ。)

10 ( ) 中の読み方に従って、次の漢文に返り点(レ点・一二点・上下点)と送りがないをつけなさい。(各2点計4点)

- (1) 如揮快刀断乱麻。(快刀を揮って乱麻を断つがごとし。)

(2) 勿以恶小为之。(恶の小なるを以て之を為すこと勿かれ。)

11 次の漢文を書き下し文に書きあらためなさい。(各2点計4点)

- (1) 一挙兩得。

- (2) 讀書百遍其義自見。

12 次の漢文を書き下し文に書きあらためなさい。(各2点計8点)

- (1) 人不学不知道。

- (2) 教化者、国家之急務也。

- (3) 温故而知新、可以為師矣。

(4) 良藥ハ 苦ク 於ニ 口ニ 而ハ 利ニ 於ニ 病ニ

13 次の漢文を書き下し文に書きあらためなさい。(各2点計4点)

(1) 用フル 人ニ 宜ヨク 取ル 其ノ 所ヲ 長ズ

(2) 過ヒ 猶ホ 不レ 及バ

14 次の漢文を書き下し文に書きあらためなさい。(各2点計4点)

(1) 懸カ 羊ニ 頭ヲ 売ル 狗ノ 肉ヲ

(2) 不下 為ニ 兒ニ 孫ノ 買ハ 美上 田ヲ

教育社

TRAINING PAPER  
**DAILY PROGRAM**

高校 1 年 / 国語  
Printed in Japan